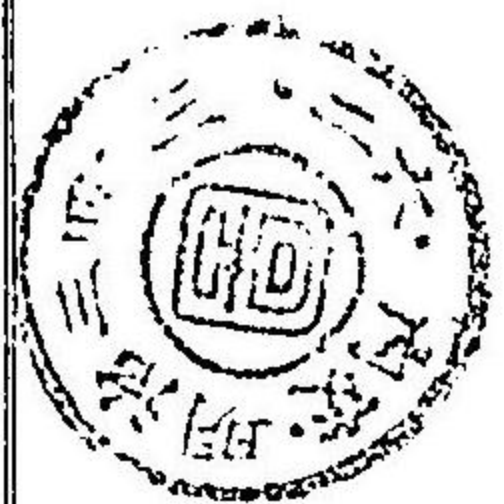


法典調查會調查

刑法改正案參考書

自治館出版



刑法改正ノ要旨

刑法ハ世安ヲ維持スルノ具ナリ而シテ犯罪ノ智巧ト害世ノ奸惡ハ世運ノ進歩ニ影隨シテ發達スルヲ以テ刑法ノ規定亦其時宜ニ適セサルヘカラス故ニ今日奸惡ヲ杜絶シ犯罪ヲ防禦センニハ一概ニ舊章ニ率由シ舊套ヲ襲用スルノミテ以テ足レリトス可キモノニ非ス

犯罪ハ其情狀ニ於テ各々同シカラス犯人ハ其種類ニ於テ亦異ナリトス故ニ之レカ處罰ヲ爲スモ亦其情狀ト其種類トニ從ヒ大ニ裁量スル所ナカルヘカラス若シ然ラサレハ刑罰ノ權衡屢々其宜キヲ失シ刑法ノ目的ニ背馳スルコトナシト謂フヘカラス世人或ハ云フ刑罰ハ宜シク之ヲ嚴ニス可シト又或ハ云フ宜シク之ヲ寬ニス可シト然レトモ刑罰ハ猶ホ藥石ノ如ク犯罪ハ猶ホ疾病ノ如シ投劑ノ至法ハ疾病ノ輕重患者ノ體力ニ適應スルニ在リ刑罰ノ用法モ亦然リ犯罪ノ情狀ト犯人ノ種類トニ隨ヒ其寬嚴ヲ異ニスルニ在リ若シ豫メ其寬嚴ノ度ヲ狹固シ其適用ノ自由ヲ羈束スルカ如キコトアラハ刑法ノ目的寧ソ能ク之ヲ達セン乎

犯罪ノ種類異ナルニ隨ヒ其情狀ノ異ナルハ言テ俟タス同一種ノ犯罪ト雖モ其原因苟モ異ナレハ其情狀必ス同一ナルモノニ非ス均シク殺人罪ナリ其原因或ハ強

賊ノ貪慾ニ出テ或ハ孝子復讐ノ怨恨ニ出テ或ハ姦通ノ嫉妬ニ出テ或ハ慈親不忍ノ哀痛ニ出ツルカ如キ其原因ノ異ナルニ從ヒ或ハ惡ムヘキモノアリ或ハ宥ルスヘキモノアリ或ハ恕スヘキアリ或ハ憐ムヘキアリ其情狀既ニ同シカラス故ニ科刑ノ寬嚴柱ニ膠シテ悉ク或ハ懲治シ易キ者アリ或ハ懲治シ難キ者アリ犯罪ヲ習慣トスル者ニ對シテ寬典ヲ以テ懲治ノ目的ヲ達セント欲スルハ企及ス可カラサルノ事業タリ之レニ反シ偶然ノ發意ニ因リ一朝刑辟ニ觸ルルヲ致セシ者ハ其悔悟モ亦必ス速カナルヲ以テ此類ノ犯人ニ對シテ嚴刑ヲ加フルモ亦無益ナルヲ免レス故ニ此類ニ對シテハ改過遷善ノ方法ヲ設ク營テ得テ病ヲ忘ルルカ如クナラシメサル可カラス

是ヲ以テ刑罰ヲ定ムルニ亦寬嚴兩様ノ主義ヲ併用スルノ必要アリ此兩主義ノ活動ヲシテ充分ナラシメント欲セハ裁判官ヲシテ犯罪ノ情狀ト犯人ノ種類トニ隨ヒ其刑ヲ上下スルノ自由ヲ得セシメサル可カラス是レ本案ニ於テ刑ノ範圍ヲ開擴セシ所以ナリ議者或ハ云フ刑ノ範圍ヲ開擴セシハ其趣旨不可ナル無シト雖モ其實行ニ於テ大ニ憂フ可キモノアリ現行刑法ノ下ニ於テスラ猶ホ且ツ上級審ニ於テ下級審ノ判決ヲ打破スル場合少カラス是レ畢竟下級審ノ判決其宜シキヲ得

サルニ座スルノミ然ルニ現行刑法ニ比シ更ニ廣濶ナル刑ノ範圍ヲ設クルニ至ラハ裁判官刑罰ヲ濫用スルコト尙ホ多キヲ加ヘ而シテ刑ノ權衡ヲ失スルニ至ランコト將サニ今日ヨリモ甚シカラントスト此論一理ナシトセス然レトモ上訴ノ結果ヲ以テ下級裁判ノ當否ヲ論スルハ未タ至論ト謂フヲ得ス苟モ上訴ヲ許ス以上ハ何ノ世何ノ時ト雖モ下級審ノ裁判ヲ取消スノ結果ヲ見ルコトハ數ノ免カレサル所ナリ此ノ如キ事實ヲ憂慮シ狹隘ナル刑ノ範圍ヲ墨守セント欲スルハ世運ニ伴ヒ刑罰ノ適用ヲシテ其度ニ中ラシムル所以ノ道ニ非ラサルナリ今日ノ急務ハ裁判官ヲシテ範圍廣濶ナル刑罰ヲ適用シ其權衡機宜ニ適中スルノ習慣ヲ了得セシムルニ在リ

現行刑法ノ實施以來僅カニ二十年ニシテ年月ヲ閱ミスル未タ多カラスト雖モ此二十年間ニ於テ我國ノ文物ハ長足ノ進歩ヲ爲シ以テ今日ノ隆盛ヲ致セシハ我國民ノ齊シク是認スル所ナリ然ルニ現行刑法ハ殆ト百年前ノ制定ニ係ル佛國刑法ヲ模倣シテ編制セシ所ナルヲ以テ其我國情ニ適合セサル所鮮少ナラサルハ固ヨリ怪ムニ足ラス殊ニ犯罪ノ情狀ト犯人ノ種類トニ隨ヒ刑罰ノ寬嚴ヲ自由ナラシムルコトヲ得サルハ其缺點ノ最ナルモノナリ故ニ其明文規定ノ結果或ハ懲治シ難キ犯人ニ對シテ寬刑ヲ用ヒ或ハ懲治シ易キ犯人ニ對シテ嚴刑ヲ科スルコトヲ

リ刑罰ノ權衡其中庸ヲ失スルニ至ル曾テ二三府縣ノ監獄署ニ就キ之ヲ檢セシニ在監人ノ十中八九ハ概テ再犯人ナリト云フ初犯ハ姑ク之ヲ舍キ既刑ノ奸惡國典ヲ侮蔑シテ犯罪ヲ數ハスルニ至リテハ刑罰ノ目的ヲ達スルモノト謂フヘクシ乎世人又云フ現行刑法中規定ノ不備不完ナル條項ヲ指摘シ之レニ改正ヲ加フレハ則チ足レリト然レトモ現行刑法ハ其大體ニ於テ既ニ不可ナル所アリ一部ノ改正ヲ企ツルモ寧ソ改正ノ目的ヲ達スルニ足ランヤ故ニ刑法ノ全部ニ亘リ改正ヲ加ヘ殆ト其舊條項ヲ存セサルニ至ルモ亦之レカ爲メナリ今刑法ノ根本ニ係ル改正ノ重要ナル部分ヲ舉クレハ左ノ如シ

第一 重罪輕罪ノ區別ヲ廢シテ重罪ト爲シタルコト

重罪輕罪ノ區別ヲ爲スハ學理上其根據アルニアラス又實際上其必要アルニ非サルナリ只刑ノ重キモノヲ科スル罪ヲ名ツクテ重罪ト云ヒ刑ノ輕キモノヲ科スル罪ヲ名ツクテ輕罪ト稱シタルニ過キス然レトモ當時重キ刑ヲ科ス可キ所爲ナリト思惟セシ所ニシテ却テ重ク罰スルノ必要ナク又輕キ刑ヲ科ス可キ所爲ナリト思惟セシ所ニシテ却テ重キ刑ヲ科セサル可カラサルモノアリ然ルニ重罪輕罪ノ區別ヲ爲シテ其範圍内ニ於ケルニアラサレハ刑ノ上下ヲ爲ス可カラストセハ犯罪ニ相當スル刑罰ヲ適用スルコトハ到底望ム可カラサルナリ若シ各犯罪ノ情狀

ハ千變萬化ニシテ屢々人ノ豫想外ニ出ツルモノタルコトヲ知ラハ豫メ刑ノ範圍ヲ制限シテ裁判官ノ自由ヲ羈束スレハ未タ以テ善良ナル法律ナリト謂フコトヲ得ス今殺人罪ヲ以テ之ヲ言ハシ殺人人ノ事實ハ同一ナリト雖モ其情狀ニ至リテハ千差萬別ニシテ其輕重ノ最ナルモノヲ舉クテ之ヲ比較スレハ鴻毛泰山モ管ナラサルナリ然ルニ現行刑法ノ如ク殺人罪ハ常ニ重罪トシテ之ヲ論セサル可カラストスレハ固ヨリ加重減輕ノ方法アリト雖モ未タ此等ノ情狀ニ適中スル所ノ刑ヲ科スルコトヲ得サルヘシ文書偽造罪モ亦然リ現行刑法ニ於テハ官文書ノ偽造罪ハ重罪ニシテ私文書ノ偽造ハ輕罪ナリ然レトモ官文書ノ偽造ニシテ未タ必スシモ社會ノ大害ヲ爲スニ至ラサルモノアリ而シテ私文書ノ偽造タルモ却テ國家ノ公益ニ大害ヲ及ホスヘキモノアリ然ルニ官文書ノ偽造罪ハ其輕重大小ニ拘ハラズ必ス重罪ノ刑ヲ以テ之ヲ罰ス可シト爲シ私文書ノ偽造罪ハ必ス輕罪ノ刑ヲ以テ之ヲ罰ス可シトセハ犯罪ノ情狀重キモノニ對シテ輕キ刑ヲ科シ其情狀ノ輕キモノニ對シテ重キ刑ヲ科スルノ弊害アルヲ免カレス殊ニ財產ニ對スル罪ニ付テハ情狀ノ差異最モ甚シク而シテ刑ノ範圍甚タ狹隘ナルヲ覺ユ巨萬ノ財產ヲ奪フモ四五年ノ自由刑ヲ科スルニ過キス一錢ノ銅貨ヲ取ルモ二月以上ノ自由刑ヲ受クサルヘカラス是ニ於テカ財產ニ對スル犯罪頻リニ増加シテ而シテ殆ト犯罪

ノ大半ヲ占ムルニ至ル是レ皆現行刑法ニ於テ重罪輕罪ノ區別ヲ爲シテ刑ノ範圍ヲ狹隘ニシタル弊害ニ因由セスンハアラス今重罪輕罪ノ區別ヲ廢シ大ニ刑ノ範圍ヲ開擴シ各犯罪ニ共通シテ其適用ヲ爲スコトヲ得セシメハ則チ刑ノ權衡其宜シキヲ得而シテ其目的ヲ達スルニ於テ奏效アルニ庶幾カラシム

第二 刑名ヲ減シタルコト

現行刑法ニ於テハ重罪輕罪違警罪ニ付キ各別ノ刑名ヲ設ク重罪ノ刑ハ死刑無期有期ノ徒刑流刑重輕ノ懲役禁獄ノ九種ト爲シ輕罪ノ刑ハ重輕ノ禁錮罰金ノ三種ト爲シ違警罪ノ刑ハ拘留科料ノ二種ト爲セリ本案ニ於テ刑ノ範圍ヲ開擴シテ重罪輕罪ノ區別ヲ廢シタルヲ以テ刑名ノ數モ亦隨テ減少セシハ固ヨリ當然ノ結果ナリ

第三 數罪俱發ノ規定ニ變更ヲ加ヘタルコト

現行刑法ハ數罪俱發ノ場合ニ於テ一ノ重キニ從ヒ處斷スルノ規定ヲ設ケタリ是故ニ一罪ヲ犯シタル者モ數罪ヲ犯シタル者モ其受クヘキ刑罰ハ常ニ同一ナルヲ以テ犯人ハ寧ロ一罪ヲ犯シテ罰セラレヨリハ數罪ヲ犯シテ罰セラルルノ利益ナルニ若カストシテ進ミテ數罪ヲ犯サントスルノ嫌ナキ能ハス刑法ノ目的ハ犯罪ヲ防禦スルニ在リ然ルニ却テ犯罪ヲ獎勵スル傾向アル規則ヲ設クルハ刑法ノ

本旨ニ適合スルモノナリト謂フ可クンヤ故ニ本案ニ於テハ原則トシテ併科主義ヲ採リ唯例外トシテ多少ノ制限ヲ設ケタリ

第四 再犯加重ノ規定ヲ變更シタルコト

再犯人ハ元來刑罰ノ制裁ヲ受クルモ悔改セサル者ナルヲ以テ之レニ科スル所ノ刑罰ハ特別ナルモノニ非ラサレハ其目的ヲ達ス可カラズ然ルニ現行刑法ノ規定ニ據レハ再犯加重ハ僅カニ本刑ニ一等ヲ加フルニ過キサルカ故ニ縱令ヒ再犯加重ノ刑ヲ科スルモ其刑罰ハ殆ト通常ノ刑罰ト異ナラス近年再犯者著シク増加セシハ再犯ノ規定其宜シキヲ得サルニ因由セスンハアラス凡ソ何人タリト雖モ其習慣ヲ改ムルハ常ニ困難トスル所ナリ犯人ノ犯罪ニ於ケル亦然リ再三罪ヲ犯シテ刑辟ニ觸レタル者ハ慣習其性ヲ成シテ遂ニ自ラ改ムルコトヲ知ラサルヲ以テ之レニ對シテ特別ノ處分ヲ行フニ非スンハ再犯ノ續發ヲ防禦スルノ效ヲ生スルコトヲ得サルヘシ是故ニ本案ニ於テハ再犯者ニ對シテ特別ノ刑罰ヲ科スヘント爲シ懲役ノ刑ニ處ス可キ罪ヲ再犯シタル者ハ本刑ヲ二倍シタル刑ヲ以テ之ヲ罰スルコトト爲シタリ

第五 監視及ヒ剝奪公權停止公權ノ規定ニ變更ヲ加ヘタルコト

一 監視ノ目的ハ再犯ヲ豫防スルニ在リ然レトモ現行刑法ニ規定スル監視規則

ハ其シク被監視者ノ自由ヲ羈束スルヲ以テ被監視者ハ屢々生活ヲ得ルノ道ニ窮シ却テ再タヒ罪惡ヲ犯スノ已ムヲ得サルニ出ツル場合アリ殊ニ又監視執行ノ規則ニ違背シタル者ハ犯罪者トシテ之ヲ罰スルヲ以テ一方ニ於テ犯罪ヲ防禦セントシテ一方ニハ犯罪ヲ製造スルノ奇觀ヲ呈シ遂ニ監視ノ刑ハ犯罪發生ノ原因ト爲リテ監視違犯者ノ數ハ漸ク増加シ今日ニ至リテハ竊盜罪ノ數ニ亞クニ至レリ是レ法律ノ目的ニ背戾スルモノト謂フヘキナリ故ニ本案ニ於テハ現行刑法ノ監視ニ關スル規定ヲ改メ監視ノ效力ハ警察上ノ便宜處分ヲ許スニ止メタリ

一 現行刑法ニ於テハ其罪質如何ヲ問ハス禁錮ノ刑期中ハ總テ公權ヲ停止シ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ總テ公權ヲ剝奪スルコトト爲シタルカ故ニ公權ヲ停止シ又ハ之ヲ剝奪スルノ必要ナキ場合ニ於テモ猶ホ其刑ヲ科スルコトト爲レリ本案ニ於テハ此弊害ヲ除カンコトヲ欲シ内亂ニ關スル罪外患ニ關スル罪其他若干ノ罪ニ付キ剝奪公權ヲ科スルヲ得ルコトト爲セリ此等ノ罪ニ付テモ絶對ニ剝奪公權ヲ科セス之ヲ取捨スルノ自由ヲ與ヘタルハ其犯情ニ適應セシメシコトヲ圖リタルナリ

第六 刑ノ執行猶豫ニ關スル規定ヲ設ケタルコト

刑法ノ目的ハ犯罪ヲ防禦スルニ在リ然レトモ犯罪必罰ハ未タ必スシモ其目的ヲ達スヘキモノニ非ラス懲治シ易キ犯人ニ在リテハ一旦刑辟ニ觸ルルコトアルモ再ヒ善良ノ民タル能ハサル者ニ非ラサルナリ然ルニ刑法ハ必ス之ヲ罰シテ假借スル所ナク懲治シ難キ犯人ト共ニ牢獄ニ投シテ顧ミル所ナキトキハ則チ良民亦惡漢ノ爲メニ誘惑セラレテ而シテ忽チ不良ノ性ヲ養成スルニ至ル特ニ短期ノ自由刑ニ至リテハ懲治ノ目的ヲ達スルコト甚タ困難ニシテ却テ獄中ノ惡風ニ感染スルコト至テ容易ナリ牢獄ニ出入シタルカ爲メニ懲治シ難キ犯人ト爲リタル者世間其例ニ乏シカラス刑ノ執行猶豫ハ此弊害ヲ拯フノ目的ニ出テタル新制度ニシテ白耳義佛蘭西ニ於テ既ニ之ヲ實行シ經驗上既ニ其實益アルヲ認ムルニ足ルヲ以テ本案ニ於テモ亦執行猶豫ニ關スル規定ヲ設ケタリ

第七 國外ニ於ケル犯罪處分ニ關スル規定ヲ設ケタルコト
帝國外ニ於ケル犯罪處分ニ關シテハ現行刑法一言ノ規定ナシ然レトモ齊シク國家ノ危害タル犯罪ニシテ國內ニ於ケル犯罪ハ之ヲ處罰スルノ必要アリテ獨リ國外ニ於ケル犯罪ハ之ヲ默過ス可シト謂フノ理由ナシ故ニ本案ニ於テハ國外ニ於ケル内外國人ノ犯罪ヲ處罰スルノ規定ヲ設ケタリ

第八 國交ニ關スル犯罪ヲ規定シタルコト

現行刑法ニ於テハ外國及ヒ外國ノ君主又ハ使節ニ對シテ暴行又ハ侮辱ヲ加ヘタル者ヲ罰スルノ規定ナシ此等ノ所爲ハ國際上ノ妨害トナルコト固ヨリ鮮少ナラサルヲ以テ本案ニ於テハ國交ニ關スル犯罪ノ規定ヲ設ケタリ

第九 違警罪ニ關スル規定ヲ削除シタルコト
現行刑法ハ其第四編ニ於テ違警罪トシテ拘留又ハ科料ノ刑ニ處スヘキ一切ノ罪ヲ列記シタリ然レトモ違警罪ハ現行刑法ニ列記シタルモノノミニ止マラス尙ホ地方ノ狀況ニ因リ特別ノ規定ヲ設クルノ必要アリ故ニ本案ニ於テハ拘留又ハ科料ノ刑ニ處スヘキ犯罪ト雖モ輕罪トシテ之ヲ第二編ノ各本條中ニ編入シ其編入スヘカラサルモノハ特別ノ規定ニ委スヘキモノトセリ

◎ 目 次

刑法改正ノ要旨……………一
刑法改正案參考書……………一

第一編 總則 自第八十一條……………一
……………至第八十五條……………一

第一章 法例 自第一條……………一
……………至第九條……………一

第二章 刑例 自第十四條……………九
……………至第四十四條……………九

第一節 刑 自第二十六條……………九
……………至第二十六條……………九

第二節 期間計算 自第二十七條……………二九
……………至第三十條……………二九

第三節 刑ノ執行ノ猶豫及ヒ免除 自第三十一條……………三三
……………至第三十七條……………三三

第四節 時效 自第三十八條……………四〇
……………至第四十一條……………四〇

第五節 大赦、特赦、減刑及ヒ復權 自第四十二條……………四三
……………至第四十四條……………四三

第三章 犯罪ノ不成立及ヒ刑ノ減免 自第四十五條 至第五十四條 四四

第四章 未遂罪 自第五十五條 至第五十六條 五五

第五章 併合罪 自第五十七條 至第六十七條 五七

第六章 再犯 自第六十八條 至第七十二條 六六

第七章 共犯 自第七十二條 至第七十七條 七〇

第八章 酌量減輕 自第七十八條 至第七十九條 七三

第九章 加減例 自第八十條 至第八十五條 七四

第二編 罪 自第八十六條 至第三百條 七九

第一章 皇室ニ對スル罪 自第八十六條 至第九十條 八三

第二章 内亂ニ關スル罪 自第九十一條 至第九十五條 八六

第三章 外患ニ關スル罪 自第九十六條 至第一百零六條 八九

第四章 國交ニ關スル罪 自第一百零七條 至第一百一十一條 九五

第五章 公權ニ對スル罪 自第一百十二條 至百二十三條 九八

第一節 公務ノ執行ヲ妨害スル罪 自第一百十二條 至第一百十四條 九九

第二節 囚人逃走ノ罪 自第一百十五條 至第一百二十條 一〇二

第三節 罪人藏匿及ヒ證憑湮滅ノ罪 自第一百二十一條 至第一百二十三條 一〇五

第六章 靜謐ヲ害スル罪 自第一百二十四條 至第一百二十九條 一〇七

第一節 多衆聚合ノ罪 自第一百二十四條 至第一百二十六條 一〇七

第二節 放火及ヒ失火ノ罪 自第一百二十七條 至第一百二十八條 一〇九

第三節 溢水及ヒ水利ニ關スル罪 自第一百二十九條 至第一百四十四條 一一五

第四節 往來通信ヲ妨害スル罪 自第一百四十五條 至第一百五十二條 一一八

第五節 住居ヲ侵スル罪 自第一百五十三條 至第一百五十六條 一二三

第六節 祕密ヲ侵スル罪 自第一百五十七條 至第一百五十九條 一二四

第七章 衛生ニ關スル罪 自第一百六十條 至第一百七十一條 一二六

第一節 阿片煙ニ關スル罪 自第六十條 至第六十五條 一三六

第二節 飲料水ニ關スル罪 自第六十六條 至第七十一條 一三八

第八章 信用ヲ害スル罪 自第七十二條 至第七十七條 一三〇

第一節 通貨偽造ノ罪 自第七十二條 至第七十八條 一三一

第二節 文書偽造ノ罪 自第七十九條 至第八十六條 一三四

第三節 有價證券偽造ノ罪 自第八十七條 至第九十九條 一四一

第四節 印章偽造ノ罪 自第九十六條 一四三

第五節 偽證ノ罪 自第九十七條 至第一百條 一四九

第六節 誣告ノ罪 自第一百一條 至第一百二條 一五二

第九章 風俗ヲ害スル罪 自第一百三條 至第二十三條 一五三

第一節 猥褻及ヒ重婚ノ罪 自第一百三條 至第二十三條 一五四

第二節 賭博及ヒ富籤ニ關スル罪 自第二十四條 至第二十八條 一五九

第三節 禮拜所及ヒ墳墓ニ關スル罪 自第二十九條 至第三十三條 一六三

第十章 瀆職ノ罪 自第三十四條 至第三十三條 一六五

第十一章 生命及ヒ身體ニ對スル罪 自第三十四條 至第三十七條 一七一

第一節 殺人ノ罪 自第三十四條 至第三十九條 一七二

第二節 傷害ノ罪 自第四十條 至第四十五條 一七六

第三節 過失傷害ノ罪 自第四十六條 至第四十八條 一八一

第四節 墮胎ノ罪 自第四十九條 至第五十三條 一八三

第五節 老幼及ヒ疾病ノ保護ヲ缺ク罪 自第五十四條 至第五十七條 一八五

第十二章 自由ニ對スル罪 自第五十八條 至第六十九條 一八七

第一節 逮捕及ヒ監禁ノ罪 自第五十八條 至第五十九條 一八七

第二節 脅迫ノ罪 自第六十條 至第六十二條 一八九

第三節 人ヲ取拐スル罪 自第六十三條 至第六十九條 一九一

| | | |
|--------------|----------------------|-----|
| 第十三章 名譽ニ對スル罪 | 自第二百七十條 至第二百七十二條 | 一九五 |
| 第十四章 財産ニ對スル罪 | 自第二百七十三條 至第三百條 | 一九七 |
| 第一節 賊盜ノ罪 | 自第二百七十三條 至第二百八十八條 | 一九七 |
| 第二節 占有物横領ノ罪 | 自第二百八十九條 至第二百九十二條 | 二〇七 |
| 第三節 贓物ニ關スル罪 | 自第二百九十三條 至第二百九十五條 | 二一〇 |
| 第四節 財物毀棄ノ罪 | 自第二百九十六條 至第三百條 | 二二二 |

目次畢

刑法

第一編 總則

(理由) 本編ハ現行法ノ第一編ト等ク各種ノ犯罪ニ共通スル規定ヲ網羅シテ之ヲ掲クタルモノナリ其編次ハ第一章法例第二章刑例第三章犯罪ノ不成立及ヒ刑ノ減免第四章未遂罪第五章併合罪第六章再犯第七章共犯第八章酌量減輕第九章加減例ト爲シタリ其現行法ト異ナル所ヲ舉クレハ現行法第一編第十章ノ親屬例ハ民法ノ規定ニ從フコトトナシテ之ヲ刪除シ同編第三章ノ加減例及同編第六章ノ加減順序ヲ合セテ一章ト爲シ之ヲ本編第九章トシ又現行法第一編第四章第三節酌量減輕ヲ同章ヨリ分離シテ更ニ本編第八章トナシ又現行法第一編第七章數罪俱發ヲ改メテ本編第五章併合罪トナシ其他章ノ順序ヲ變更シタルニ過キササルナリ

第一章 法例

(理由) 本章ハ現行法第一編第一章ト同シク刑法ノ效力ニ關スル一般ノ通則ヲ定メタルモノナリ左ノ如シ

一 犯罪ノ區別

二 法律ノ時ニ關スル效力

三 法律ノ土地ニ關スル效力

四 法律ノ人ニ關スル效力

五 刑法ノ總則ノ他ノ法律ニ對スル效力

現行法第二條ノ規定ハ解釋上明白ノ原則ニシテ之ヲ成文トナスノ必要ナキヲ以テ刪除シ又第四條モ一般法ト特別法トノ關係上自明ノ法理ナルヲ以テ等シク之ヲ刪除シタリ

現行法ニハ法律ノ土地及ヒ人ニ關スル效力ニ付キ何等ノ規定ナシ此レ實ニ現行法ノ缺典ニシテ改正ス可キ緊要ナル一理由ニ屬ス依テ第三條乃至第七條ニ於テ特ニ之ニ關スル規定ヲ設ケタリ

此他本章中第八條ニ於テ公務所及ヒ公務員ナル川語ノ意義ヲ示シタリ

第一條 法律ニ於テ罰ス可キ行為ヲ重罪及ヒ輕罪トス

(理由) 現行法ハ其第一條ニ於テ所謂犯罪三別ノ主義ヲ採リ重罪、輕罪、違警罪ノ三種ヲ區分セリ然レトモ現行法ノ重罪、輕罪ノ區別ハ固ト其罪質上明白ニ之ヲ區別スルニ足ル可キ標準アルニ非ス唯之ニ科ス可キ刑名刑期ヲ異ニスルニ過

キス特ニ自由刑ニアリテハ重罪ノ刑期ハ輕罪ノ刑期ヨリ長ク輕罪ノ刑期ハ重罪ノ刑期ヨリ短キカ爲メ往々ニシテ重罪ノ自由刑ハ其短期モ重キニ過キ輕罪ノ自由刑ハ其長期モ輕キニ失シ罪狀ト刑罰ト相當タラサルノ弊ヲ生ス之ヲ濟ハントスルニハ現行法ノ重罪、輕罪ノ區別ヲ廢シ刑期ノ範圍ヲ廣カラシムルニ如クハナシ然リト雖モ亦現行法ノ違警罪ニ至リテハ其罪質稍前二者ト同シカラサル所アリテ主トシテ他ノ犯罪ヲ豫防スル目的ニ出ツルモノ多シ此ヲ以テ修正案ニ在テハ現行法ニ所謂重罪、輕罪ノ區別ヲ廢シ之ヲ合セテ更ニ重罪ト名ク違警罪ノ語ヲ改メテ輕罪ト爲シ犯罪二別ノ主義ヲ採リタリ

第二條 犯罪後ノ法律ニ因リ刑ノ變更アリタルトキハ其輕キ

モノヲ適用ス

(理由) 本條ハ現行法第三條ト其規定ノ主旨ヲ同シクス然レトモ法律ヲ其施行以前ニ係ル行為ニ適用ス可ラサルハ自明ノ理ニシテ故ラニ之ヲ明記スル必要ナキヲ以テ本案ニ於テハ其第一項ヲ刪除シタリ

現行法第三條第二項ニ於テハ新舊ノ法ヲ比照シ云々ト規定スルヲ以テ只二回ノ刑ノ變更アリタル場合ノミヲ豫想セシヤノ疑ナキ能ハス本案ハ單ニ其輕キモノヲ適用スト修正シテ其缺點ヲ補綴シ且既ニ適用スト言ヘハ其裁判確定前ナルコト亦自ラ明白ナル可キヲ以テ未タ判決ヲ經サル云々ノ字句ヲ刪除シタリ

第三條 法律ハ何人ヲ問ハス帝國内ニ於テ犯シタル罪ニ之ヲ適用ス

帝國外ニ在ル帝國艦船内ノ犯罪ニ付キ亦同シ

(理由) 本條以下第七條マテハ前ニ述ブルカ如ク現行法ニ於テ缺ケタル所ナルヲ以テ新ニ之ヲ補足シタル規定ナリ

本條第一項ハ我法權ノ及フ可キ土地ノ區域ニ關スル原則ヲ規定シタルモノナリ而シテ本條ノ主旨ハ何人タリトモ我帝國内ニ在テ罪ヲ犯シタルトキハ我刑法ノ支配ヲ受ク可キコトヲ定メタリ

抑一國法權ノ及フ可キ區域ニ付テハ古來屬地主義屬人主義ノ二主義アリ屬地主義ニ在テハ國土ヲ基トシ其國內ニ在テ犯シタル罪ニ付テハ何人ヲ問ハス内國ノ法律ヲ適用スヘシトナシ屬人主義ニ在テハ本國人ハ何レノ地ニ在ル場合

ト雖モ常ニ其本國法ノ適用ヲ受ク可シトナスモノナリ修正案ノ採ル所ハ乃チ屬地主義ニシテ日本國內ノ犯罪ニ付テハ犯人ノ誰タルヲ問ハス常ニ我法律ヲ適用スルコトヲ原則ト定メタルナリ是レ今日汎ク各國ニ行ハルル所ニシテ又最モ時宜ニ適シタルモノトス

本條第二項ハ帝國外ニ在ル帝國ノ艦船内ノ犯罪ニ付キ亦原則トシテ我法律ヲ適用ス可キコトヲ定メタルモノナリ抑本邦ノ艦船カ一度我領土ヲ離ルルヤ艦船内ニ生シタル犯罪ニ付キ刑法ノ效力ヲ定ムルニ非サレハ頗ル疑義ヲ生スルノ虞アリ從來艦船ハ其本國領土ノ一部ト看做シ之ニ本國法ヲ適用ス可シトナセル學說トアリ本案ハ其第二ノ主義ヲ採リ必要上在外ノ艦船内ノ犯罪ニ付キ本國法ヲ適用スト定メタルナリ

第四條 法律ハ何人ヲ問ハス帝國外ニ於テ皇室又ハ帝國ニ對シテ犯シタル重罪ニ之ヲ適用ス

(理由) 本條ハ帝國外ニ於ケル犯罪ニ付テモ尙ホ我法律ヲ適用ス可キ場合ヲ規定シタルモノナリ

前條ニ於テ帝國内ノ犯罪ニ關スル規定ヲ設ケタリト雖モ特ニ或罪ニ付テハ帝

國外ニ於テ犯シタル罪モ尙ホ之ヲ處罰スルノ必要アリ本條ハ所謂保護主義ヲ採リ外國ニ於テ犯シタル重罪ニシテ我皇室又ハ帝國ニ對スルモノニ付テハ特ニ此法律ヲ適用ス可キコトヲ規定シタルナリ此ノ如キ犯罪ハ我國ノ安寧秩序ヲ害スルコト甚タ大ナリト雖モ外國ニ在テハ却テ犯罪ヲ構成セサルコトアリ從テ我國ニ於テ處罰スルコト最モ必要ナレハナリ

第五條 法律ハ帝國臣民帝國外ニ於テ生命、身體、自由、財産及ヒ信用ニ關シテ犯シタル重罪ニ之ヲ適用ス
外國人帝國外ニ於テ帝國臣民ニ對シテ犯シタル前項ノ罪ニ付キ亦同シ

(理由) 本條第一項ハ所謂屬人主義ヲ採リタルモノニシテ帝國臣民カ帝國外ニ在ル場合ト雖モ生命、身體、自由、財産及ヒ信用ニ關スル重罪ヲ犯ストキハ亦我法律ヲ適用ス可キコトヲ規定ス蓋シ此等ノ重罪ニ限リタルハ特ニ重要ナル犯罪ニ付テノミ此法律ヲ適用シ其他ノ犯罪ニ付テハ之ヲ必要トセサルニ基クモノナリ本條第二項ハ亦保護主義ニ基キタル規定ニシテ縱令帝國外ニ於クル場合ト雖モ外國人カ帝國臣民ニ對シ前項ノ如キ罪ヲ犯シタル場合ニ在テハ之ニ對シ我法律ヲ適用シ以テ保護ノ道ヲ全フセント欲スルナリ

第六條 法律ハ帝國ノ公務員帝國外ニ於テ犯シタル職務ニ關スル罪ニ亦之ヲ適用ス

(理由) 本條ハ前條第一項ト同シク屬人主義ヲ採リタルモノニシテ本條ノ必要ハ帝國ノ公務員カ外國ニ於テ職務ニ關スル罪ヲ犯シタル場合ハ前條第一項ノ規定ニ漏ルルヲ以テナリ

第七條 外國ニ於テ確定裁判ヲ經タル事件ト雖モ更ニ處罰スルコトヲ妨ケス但犯人既ニ外國ニ於テ言渡サレタル刑ノ全部又ハ一部ノ執行ヲ受ケタルトキハ刑ノ執行ヲ減免スルコトヲ得

(理由) 前數條ノ規定ノ結果トシテ殊ニ第五條アルカ爲メニ犯人既ニ外國ニ於テ確定裁判ヲ受ケタルトキト雖モ更ニ我法律ニ依リ處分セラレルコトアリ之カ爲メニ犯罪人ハ一犯罪ニ付キ再度ノ處分ヲ受クルノ不幸アリ是レ或ハ酷ニ失スルノ嫌ナキニ在ラサルヲ以テ本條ハ一度外國ノ確定裁判ヲ經タル事件ニ付キ再ヒ我國ニ於テ裁判ヲ爲スニ際シ其犯人ハ既ニ外國ニ於テ刑ノ全部又ハ一部ノ執行ヲ受ケタルトキハ裁判所ハ刑ヲ言渡スト共ニ其執行ヲ減免スルコトヲ得ヘキコトヲ規定セルモノナリ

第八條 本法ニ於テ公務員ト稱スルハ官吏、公吏、法令ニ依リ公務ニ従事スル議員、委員其他ノ職員ヲ謂フ

公務所ト稱スルハ公務員ノ職務ヲ行フ所ヲ謂フ

(理由) 現行法ハ官吏又ハ官署ニ關シテ規定ヲ設ケ又之ヲ補ハシ爲メ明治二十三年法律第百號ヲ以テ公吏、公署ハ之ヲ官吏、官署ニ準用スルコトヲ規定スト雖モ此他猶ホ國家ノ事務ニ従事セル職員少ナカラス而シテ此等ノ職員ハ刑法上現時ハ之ヲ一私人ト看做スノ不便アリ然レトモ亦此等ノ職員ノ種類ニ至リテハ議員、委員等其名稱甚タ多ク一々之ヲ列舉スルハ到底爲シ得可カラサルコトナリ而シテ現時此等ノ職員、公衛ニ對シテハ官吏、公吏、官署、公署ニ關スル規定ヲ適用ス可キ必要甚タ切ナリ此ヲ以テ本條ニ於テ新ニ公務員及ヒ公務所ナル語ヲ設ケ官吏、公吏、法令ニ依リ公務ニ従事スル議員、委員其他ノ職員ヲ公務員トシ此等ノ者ノ職務ヲ行フ所ヲ公務所トシ以テ汎ク國家ノ公務ニ従事スル職員、公衛ニ關スル規定ヲ設ケルノ必要ヲ充タシ且其名稱ヲ簡ニシタルモノナリ

第九條 本法ノ總則ハ他ノ法律ニ於テ刑ヲ定メタルモノニ亦之ヲ適用ス但其ノ法律ニ特別ノ規定アルトキハ此限ニ在ラス

(理由) 本條ハ現行法第五條ト其規定ノ主旨ヲ同シクモ唯現行 第五條第二項

ヲ本條本文トシ第一項ヲ但書トナシタルノミ
又現行法ニ法律規則トアルヲ改メテ法律ト爲シタルハ今日ニ於テ規則ノ名目ヲ以テ發布セララルモノナキノミナラス現行法ノ主旨モ亦單ニ法律ト云フノ意ニ出タルモノナルヲ以テナリ

第二章 刑 例

(理由) 本章ハ現行法第一編第二章ト等シク刑罰ニ關スル通則ヲ定メタルモノナリ其修正シタル要點ヲ舉クレハ

現行法第一編第二章第一節第二節及ヒ第三節ヲ合シテ本章第一節トナシ第四節ハ刑法ニ規定ス可キモノニ非スシテ寧ロ刑事訴訟法ニ屬ス可キモノトシテ之ヲ刪除シ第五節ハ本章第二節ニ當リ第六節ハ本章第三節ニ該當ス而シテ其内ニ新ニ刑ノ執行猶豫及ヒ免除ノ事ヲ規定シ第七章ハ本章第四節ニシテ期滿免除ノ名稱ヲ改メテ時效トナシ第八節ハ本章第五節ニシテ大赦、特赦、減刑及ヒ復權ノコトヲ規定シタリ

第一節 刑

(理由) 本節ニ於テハ刑ノ種類及ヒ其效力ヲ規定シタリ
第十條 死刑、懲役、禁錮及ヒ罰金ヲ重罪ノ主刑トス

拘留及ヒ科料ヲ輕罪ノ主刑トス
公權剝奪、監視及ヒ沒收ヲ附加刑トス

(理由) 本條ハ現行法第六條乃至第十條ノ規定ヲ合セタルモノニシテ刑名ニ關スル規定ナリ現行法ハ刑ヲ分テ主刑及ヒ附加刑ト爲セリ修正案モ亦刑ヲ二種ニ分テ主刑ト附加刑トノ區別ヲ設ケタリ
重罪ノ主刑ハ死刑、懲役、禁錮及ヒ罰金ノ四種ト爲シタリ
死刑ハ現行法ト等シク修正案モ亦之ヲ設ケタリ抑死刑ヲ設クルノ可否ニ付テハ從來ノ學說未タ一致シタルモノアルニ非ス又外國ニ於テモ之ヲ廢シタル立
法例無キニ非スト雖モ今日ノ情況ハ未タ之ヲ全廢スルヲ許サス蓋シ死刑ノ危
險ニシテ又殘刻ナルコトハ爭フ可カラサル事實ナリト雖モ從來ノ實驗ニ徴シ
又之ヲ理論ヨリ見ルモ刑トシテ充分ノ效果アルコトハ亦疑ヲ容レス修正案ニ
於テモ亦死刑ノ必要ヲ認メ現行法ニ倣ヒ之ヲ重罪ノ主刑トシテ設ケタルナリ
懲役及ヒ禁錮ハ共ニ修正案ノ設ケタル重罪ノ自由刑ニシテ懲役ニハ定役ヲ科
シ禁錮ニハ之ヲ科セス前第一條ニ於テ掲ケタル如ク現行法ハ重罪、輕罪ノ自由
刑ヲ分テ數種ト爲シ定役アル自由刑ハ無期、有期ノ徒刑、重輕禁獄及ヒ輕禁錮ト
シ定役ナキ自由刑ハ無期、有期ノ流刑、重輕禁獄及ヒ輕禁錮トシ主トシテ刑期ノ

長短ニ依リ其輕重ヲ區別スト雖モ其執行方法ニ至リテハ殆ト之レカ輕重ヲ區
別ス可キ標準アルコトナシ此ノ如ク多數ノ階級ヲ設ケタル結果トシテ刑期ノ
範圍甚タ短キニ失シ現時其弊ニ堪ヘサルモノ寡ナシトセス修正案カ重罪、輕罪
ノ區別ヲ廢シ此二者ヲ合シテ更ニ一ノ重罪トナシタルハ專ラ自由刑ノ刑期ノ
範圍ヲ廣カラシメント欲シタルニ在リ此ヲ以テ本條ニ於テハ現行法ノ徒刑、懲
役及ヒ重禁錮ヲ合シテ之ヲ懲役トナシ流刑、禁獄及ヒ輕禁錮ヲ合シテ之ヲ禁錮
トナシ只定役ノ有無ニヨリテ二種ノ區別トナシタルニミ
定役ノ有無ヲ以テ自由刑ノ二種ヲ區別スルニ付テハ多少議論アリ然リト雖モ
犯罪ノ性質ニ因リテハ單ニ犯人ヲ拘禁スルコトヲ以テ充分トナス可キモノア
リ國事犯ノ如キ即チ是ナリ故ニ定役ヲ科ス可キ場合ト其否ラサル場合トノ區
別ヲ設クルノ必要アルヲ認メ自由刑ヲ分テ定役アル懲役ト定役ナキ禁錮トノ
二種トナシタルナリ
罰金ハ現行法ト全ク同一ナリ唯現行法ハ附加刑トシテ罰金ノ刑ヲ設クト雖モ
附加刑トナスノ理由ナキヲ以テ修正案ハ同時ニ罰金ト自由刑トヲ科ス可キ場
合ニハ各獨立ノ主刑トシテ併セ科スルコトトナシタリ
輕罪ノ主刑ハ拘留及ヒ科料ニシテ現行法ノ違警罪ノ主刑ト全ク同一ナリ

附加刑ハ公權剝奪、監視及ヒ沒收トナシタリ其現行法ト異ナル所ハ附加刑タル
罰金ヲ廢シ又公權停止ヲ廢シ公權剝奪ノ場合ニ於テ之ニ相當スル規定ヲ設ケ
タルノミナリ

第十一條 主刑ノ輕重ハ前條記載ノ順序ニ依ル但有期禁錮ノ
長期有期懲役ノ長期ノ二倍ヲ超ユルトキハ禁錮ヲ以テ重シト
ス同種ノ刑ハ長期ノ長キモノ又ハ多額ノ多キモノヲ以テ重シトス
二個以上ノ死刑又ハ長期若クハ多額ノ同シキ同種ノ刑ハ犯
狀ニ依リ其輕重ヲ定ム

(理由) 本條ハ現行法ノ闕如スル所ニシテ主刑ノ輕重ヲ定ムル標準ヲ示スモノ
ナリ其規定概テ明了ニシテ第一項但書ヲ除クノ外殆ソト規定スルノ必要ナキ
カ如クナレトモ之ヲ缺クトキハ實際上疑義ヲ生スルヲ免レス第一項ハ異種ノ
刑ニ付キ規定シタルモノニシテ重罪ノ主刑中死刑ヲ以テ最モ重シトシ懲役之ニ
次キ禁錮又之ニ次キ罰金ヲ以テ最モ輕シトシ輕罪ニ付テハ拘留ヲ重シトシ科
料ヲ輕シトスル趣旨ヲ明ニセリ又其但書ニ於テ有期懲役ト有期禁錮トヲ比較
シ原則トシテハ有期懲役ヲ以テ有期禁錮ヨリ重シトスレトモ禁錮ノ刑期懲役
ノ刑期ヨリ長キトキハ場合ニ依リ有期禁錮ノ有期懲役ヨリ重キコトアルヲ明

ニセリ第二項及ヒ第三項ハ同種ノ刑ニ付キ規定シタルモノニシテ更ニ之ヲ刑
期ノ長短金額ノ多寡ニ差異アル場合ト否ラサル場合トニ區別シ其差異アルモ
ノハ第二項ニ記載シタル標準ニ依リ差異ナキモノハ第三項ニ記載シタル標準
ニ依リテ輕重ヲ定ムルコトトセリ

第十二條 死刑ハ監獄内ニ於テ絞首シテ之ヲ執行ス

死刑ノ言渡確定シタル後其執行ニ至ルマテ之ヲ監獄ニ拘置ス
(理由) 本條第一項ハ現行法第十二條ト同シク死刑ノ執行ニ關スル規定ナリ現
行法ニ於テ死刑ハ絞首ストアルヲ改メテ絞首シテ執行スト爲シタルハ絞首シ
テ生命ヲ絶ツコトヲ明ニシタルモノニシテ絞首ニ因リ一旦絶命シタル後蘇生
スルコトアルモ更ニ絞首シテ生命ヲ絶ツコトヲ要スルカ爲メナリ
第二項ハ死刑ノ言渡確定シタル者ニ對シ其執行ニ至ルマテハ之ヲ監獄ニ拘置
ス可キコトヲ規定シタリ現行法ニハ此規定ナキカ爲メ死刑ノ言渡確定シタル
被告人ニ對シ其執行マテ之ヲ置ク可キ場所ニ付キ多少疑義アルヲ以テ修正案
ニ於テ新ニ之ヲ規定ヲ設ケタルナリ

第十三條 懲役ハ無期及ヒ有期トシ有期懲役ハ一日以上十五
年以下
ス

懲役ハ懲役場ニ拘留シ定役ニ服ス

(理由) 本條ハ懲役ノ規定ナリ第一項ニ於テ其期限ヲ定メ無期及ヒ有期トナシ有期懲役ハ一日以上十五年以下トナセリ此規定ハ一見其期限甚タ長キニ失スルノ觀アリト雖モ之ヲ現行法ト比較スルトキハ少シモ改正ヲ施シタルモノニ非ス懲役ハ第九條ニ說明セル如ク現行法ノ徒刑懲役及ヒ重禁錮ヲ合シタルモノニ該當スル刑ナリ而シテ有期徒刑ハ十五年以下ニシテ重禁錮ハ十一日以上ナリ又現行法ニハ重禁錮ヲ減盡シタルトキハ拘留ニ處ストアリテ拘留ハ一日以上十日以下ナルヲ以テ之ヲ通算スレハ一日以上十五年以下トナリ唯之ヲ短キ期限ニ區別シ數多ノ刑名ヲ附シタルト之ヲ合シテ刑名ヲ一ニシタルトノ差アルノミ第二項ハ懲役ノ執行ニ關スル規定ニシテ現行法第十七條第一項第二十二條第一項及ヒ第二十四條第一項ノ規定ノ一部ニ該當シ懲役場ニ拘留シ定役ニ服セシムルコトヲ規定ス

第十四條 禁錮ハ無期及ヒ有期トシ有期禁錮ハ一日以上十五年以下トス

禁錮ハ禁錮場ニ拘留ス

(理由) 本條ハ禁錮ノ規定ナリ第一項ニ於テ其期限ヲ定メ之ヲ無期及ヒ有期ニ

分チ有期禁錮ハ一日以上十五年以下トセリ有期禁錮ニ付テモ亦前條ニ說明スルト同シク少シモ現行法ヲ改正シタルモノニ非ス只數多ノ刑名ヲ合シテ一トナシタル結果トシテ有期禁錮ノ期間ヲ長ク爲シタルノミ
第二項ハ禁錮ノ執行ニ關スル規定ニシテ現行法第二十條第一項第二十三條第一項及ヒ第二十四條第一項ノ規定ノ一部ニ該當シ禁錮場ニ拘留スト規定シタリ其懲役ト異ナル所ハ禁錮ハ定役ヲ以テ刑トナササルニアリ

第十五條 罰金ハ一圓以上トス

(理由) 本條ハ現行法第二十六條ヲ修正シタルモノニシテ現行法ハ罰金ハ二圓以上ト爲シ二圓未満ハ之ヲ科料ト爲シタリ修正案ハ其主義ヲ改メ罰金ト科料トハ既ニ罪質ヲ異ニスル重輕罪ノ刑タルヲ以テ罰金ノ額ハ必スシモ科料ノ額ヨリ多キコトヲ要セサルニ依リ罰金ノ低額ヲ改メ之ヲ一圓以上ト爲シタリ又其科ス可キ金額ハ各本條ニ於テ規定ス可キコトハ明文ヲ要セサルヲ以テ現行法第二十六條ノ仍ホ以下ヲ刪除セリ

第十六條 罰金ヲ完納スルコト能ハサル者ハ一日以上一年以上以

下ノ期間之ヲ勞役場ニ留置ス

罰金ノ言渡ヲ爲ストキハ其言渡ト共ニ罰金不完納ノ場合ニ

於ケル留置ノ期間ヲ定メ之ヲ言ス可シ
裁判確定後一月内ハ本人ノ承諾アルニ非サレハ留置ノ執行
ヲ爲スコトヲ得ス
罰金ノ言渡ヲ受ケタル者其幾分ヲ納メタルトキハ罰金ノ額
ト留置日數トノ割合ニ從ヒ其金額ニ相當スル日數ヲ控除シ
テ之ヲ留置ス

留置期間内罰金ヲ納ムルトキハ前項ノ割合ヲ以テ殘日數ニ充ツ
(理由) 罰金ハ金額ヲ徵收スルコトヲ目的トスル刑罰ナルヲ以テ被告人ニシテ
財産ヲ有セザル場合ニハ其目的ヲ達スルコト能ハス此場合ニ於テ探ル可キ方
法ニアリ其第一ハ現行法ノ探レル換刑處分ニシテ罰金ヲ換算シテ輕禁錮ニ處
スモノトス然ルニ其結果ヲ見レハ財産アルモノハ換刑ヲ免カルト雖モ財産ナ
キモノハ常ニ自由刑ニ處セラルルノ不幸ヲ見ルノミナラス罰金ヲ以テ輕禁錮
ニ換アルモノナルカ故ニ被告人ハ徒ラニ獄中ニ呻吟スルニ止マリ國家ハ之カ
爲メニ却テ幾分ノ經費ヲ損スルコトトナリ本來ノ罰金刑ノ主旨ニ反スルコト
甚シク其實益極メテ僅少ナリ此ヲ以テ修正案ハ第二ノ方法ヲ採リ罰金ヲ納ム
ルコト能ハサル被告人ハ之ヲ他ノ刑ニ換フルコトヲ廢シ唯之ヲ勞役場ニ留置

シ其自由ノミヲ制限シ又情狀ニ依リ被告人ヲシテ勞働ニ從事セシメ之ヨリ生
ス可キ利得ヲ以テ罰金ノ幾分ニ充ツルコトヲ目的ト爲シタリ
現行法第二十七條ニハ罰金納完ノ日限ヲ一个月ト定メタレトモ修正案ハ必ス
シモ一个月ヲ俟タス本人承諾スルトキハ裁判確定後ハ直ニ留置ノ處分ヲ爲シ
得ルコトト改メタリ又現行法ハ罰金ヲ納完セザル者トナシ納完スルト否トハ
之ヲ本人ノ自由ト爲シ其結果トシテ往々財産アル者ト雖モ之ヲ納メスシテ換
刑ヲ請求スルコトアリテ罰金ノ目的ヲ達スルコト能ハサルヲ以テ修正案ハ之
ヲ改メ財産アルトキハ必ラス金錢ヲ納メシメ以テ罰金ノ目的ヲ達センコトヲ
欲シ財産ナキトキニ限リ初メテ留置ノ處分ニ出ルコトト爲セリ又現行法ハ金
額ト禁錮ノ日數トノ割合ヲ定メ一日ヲ一圓ニ折算スト爲セルヲ以テ若シ罰金
額多キトキノ如キハ罰金ノ一部ハ事實之ヲ拋棄スルカ如キ結果ヲ生スルヲ以
テ修正案ハ之ヲ改メ裁判所ヲシテ罰金額ニ應シ適宜ニ留置ノ日數ヲ定メシム
ルコトト爲セリ又現行法ハ換刑ノ手續ヲ定メ居ルモ修正案ハ之ヲ刑事訴訟法
ニ譲リタリ又現行法ハ禁錮ノ期限ヲ二年ニ限ルト雖モ近來ノ立法例ハ之ヲ短
縮スル傾向アルノミナラス實際上酷ニ過クルノ虞アルヲ以テ修正案ハ之ヲ一
年ニ短縮セリ又罰金ノ一部ヲ納メ其殘額ヲ納メサルトキハ現行法ニ規定ナキ

ヲ以テ修正案ハ第四項ニ於テ新ニ之カ規定ヲ設ケタリ又留置期間内罰金ヲ納メタルトキハ第四項ノ場合ニ準シ現行法ニ稍修正ヲ加ヘ之ヲ第五項ニ規定シタリ

第十七條 拘留ハ一日以上一月以下トシ拘留場ニ拘留ス

(理由) 本條ハ現行法第二十八條ト同シ唯期間ヲ一日以上一月以下トナシタルハ現行法ハ一日以上十日以下ニシテ加重ノ結果尙ホ十二日ニ昇ルニ過キスシテ經驗上其範圍ノ狭ニ失スルヲ以テナリ修正案ニ依レハ有期ノ懲役又ハ禁錮ハ共ニ一日以上ニシテ拘留ト其日數相同シキ場合アリ然レトモ本案ハ重罪ト輕罪トハ全ク其罪質ヲ異ニスルモノナリトシ主義ヲ採ルヲ以テ重罪ノ刑ト輕罪ノ刑ト其日數相同シキ場合アルモ刑ノ性質上之ヲ區別スルヲ以テ少シモ不都合ヲ生スルコトナシ

第十八條 科料ハ十錢以上三十圓以下トス

(理由) 本條ハ現行法第二十九條ヲ修正シタルモノニシテ現行法ハ五錢以上一圓九十五錢以下ト定メ加重ノ結果二圓四十錢ニ至ルニ過キスシテ其範圍亦頗ル狭ニ失スルヲ以テ改メテ十錢以上三十圓以下トナシタルナリ故ニ時トシテハ其金額罰金ト相同シキ場合アル可シト雖モ前條ニ擧ケタル所ト同一ノ理由

ニ依リ少シモ怪ムニ足ラサルナリ

第十九條 科料ヲ完納スルコト能ハサル者ハ一日以上一月以下ノ期間之ヲ勞役場ニ留置ス

科料ヲ併科シタル場合ト雖モ留置ノ期間ハ二月ヲ超ユルコトヲ得ス

一圓以上ノ科料ニ處セラレタル者ニ對シテハ裁判確定後一月内ハ本人ノ承諾アルニ非サレハ留置ノ執行ヲ爲スコトヲ得ス

第十六條 第二項、第四項及ヒ第五項ノ規定ハ科料ニ之ヲ準用ス

(理由) 本條モ亦第十六條ト同一ノ主義ニ因リ科料ヲ定納セサル場合ニ被告人

ヲ勞役場ニ留置スル規定ニシテ現行法ノ換刑主義ヲ改メタルモノナリ

第二項ハ科料ハ修正案ニ於テ之ヲ併科スルコトトナシタルヲ以テ其各科料ニ

付キ留置日數ヲ定ムルコトトナセハ或ハ長期ニ達スルノ虞アルヲ以テ其期間

ヲ二月ニ制限シタルナリ

第三項ハ第十六條第三項ト同一ノ主旨ニ基ク規定ナリ其一圓以上ニ限リタルハ一圓以下ノ少額ニ付テハ一月ノ猶豫ヲ要ス可キ場合少ナカル可キヲ以テナ

第四項ハ別ニ説明ヲ要セス

第二十條

公權剝奪ハ左ノ效果ヲ生ス

- 一 法律ニ定メタル選舉ニ付キ選舉權及ヒ被選舉權ノ喪失
- 二 公務員タル資格ノ喪失
- 三 位記、勳章、年金及ヒ恩給ヲ有スル資格ノ喪失
- 四 外ノ勳章ヲ佩用スルコトノ禁止
- 五 兵籍ニ入ル資格ノ喪失

山) 本條ハ公權剝奪ノ效力ニ關スル規定ナリ現行法第三十一條ニ少シク修正ヲ施シタリ其要旨ヲ舉クレハ

現行法ニハ左ノ權ヲ剝奪ストアルヲ改メ左ノ效果ヲ生ストナシタルハ文字ノ修正ニ止マリ主旨ニ於テハ變更アルニ非ス

現行法第三十一條中其第一號ニ於テ國民ノ特權トアルハ其意義通セサルニ非スト雖モ頗ル疑義アル文字ナルヲ以テ修正案ハ之ヲ改メ第一號ニ於テ法律ニ定メタル選舉ニ付キ選舉權、被選舉權ノ喪失トナシ其主旨ヲ明ニセリ

現行法ハ第二號ニ於テ官吏ニ關スル規定ノミヲ揭ク公職ニ就クモノニ付テノ

規定ナキヲ以テ修正案ハ之ヲ補充シ第二號ニ於テ概括的ニ公務員タル資格ノ喪失ニ付テノ規定ヲ設ケタリ

現行法第三十一條第三號ニハ勳章、年金、位記、貴號及ヒ恩給ニ關スル規定ヲ設ク修正案ハ之ト同シク第三號ニ於テ位記、勳章、年金及ヒ恩給ノコトヲ規定シ貴號ニ關シテハ其語ヤ、明瞭ヲ缺クノミナラス他ノ法令ノ規定ニ讓ルヲ便トスルヲ以テ之ヲ刪除セリ

現行法ノ第四號及ヒ第五號ハ修正案ノ第四號及ヒ第五號ト爲シタリ

現行法ノ第六號、第七號、第八號及ヒ第九號ハ共ニ之ヲ刪除ス其理由ヲ舉クレハ第六號ハ民事訴訟法又ハ刑事訴訟法ニ於テ規定スルヲ可トシ第七號ハ民法ニ規定アリ第八號モ亦民法、商法又ハ破産法ニ於テ規定ス可キモノナリ第九號ニ於テ官公立學校ノ職員ニ付テハ官職又ハ公職ニ關スル修正案第二號ノ規定ヲ以テ充分ニシテ私立ノ學校職員ニ付テモ亦特別ノ規定ニ讓ルヲ妥當トスルヲ以テ之ヲ刪除シタリ

第二十一條

公權剝奪ハ無期又ハ有期トシ有期公權剝奪ハ一

年以上十五年以下トス

死刑又ハ無期ノ懲役若クハ禁錮ニ附加ス可キ公權剝奪ハ當

然無期トス

十年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ附加ス可キ公權剝奪ハ無期又ハ有期トシ十年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ附加ス可キ公權剝奪ハ十年以下トス

有期ノ懲役又ハ禁錮ニ有期公權剝奪ヲ附加セラレタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ其懲役又ハ禁錮ノ滿限若クハ其執行ノ免除ニ至ルマテ當然公權ヲ剝奪セラレタルモノトス

(理由) 本條第一項ハ公權剝奪ノ期限ヲ定ム抑現行法ハ公權剝奪ハ之ヲ終身トシ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ニハ必ラス之ヲ科スコトト爲シタルカ爲メ必要ナキ場合ニ在テモ尙ホ之ヲ科スルニ至リ現時其弊ニ堪ヘス修正案ハ之ヲ改メ公權剝奪ハ必スシモ常ニ之ヲ科スルコトヲ要セス必要ナル場合ニハ之ヲ科スコトヲ得ルコトト爲シ且其場合ヲ減少シ之ヲ各本條ニ規定シ又必ラスシモ終身刑トスルノ必要ナキヲ以テ新ニ有期ノ公權剝奪ヲ設ク其期限ハ一年以上十五年以下ト定メタリ而シテ短期ヲ一年ト爲セルハ本刑ハ甚タ短キニ過クレハ殆ト其效果ナキニ至ルヲ以テナリ

第二項ハ死刑又ハ無期ノ懲役若クハ禁錮ト共ニ言渡ス可キ公權剝奪ノ期限ハ

別ニ宣告ヲ用ヒス常ニ無期ナルコトヲ定メタルモノニシテ本刑カ死刑又ハ無期刑ナルヲ以テ附加ノ公權剝奪モ亦從テ無期トナシタルナリ

第三項ハ本刑タル懲役若クハ禁錮ノ期限ニ從ヒ附加刑タル公權剝奪ニモ亦其期限ヲ定メタルナリ

第四項ハ現行法ノ公權停止ト其結果ヲ同シクスル規定ニシテ公權剝奪ヲ附加セラレタル者ハ本刑タル懲役若クハ禁錮ノ執行中ハ當然公權ヲ剝奪スルノ主旨ヲ明ニス此規定アルニ非サレハ修正案第二十八條第三項ニ在ル如ク公權剝奪ハ本刑タル懲役若クハ禁錮ノ滿限若クハ其執行免除ノ翌日ヨリ起算スルヲ以テ本刑執行中ハ公權ヲ行使スルコトヲ得ルコトトナリ其目的ヲ達スルコトヲ得サルニ至ルヲ以テナリ

第二十二條 監視ハ左ノ效果ヲ生ス

一 犯罪ノ地及ヒ被害者所在地ノ警察官廳ハ被監視人ニ對シ其管轄地ノ全部又ハ一部ニ住居シ又ハ立入ルヲ禁スルコトヲ得

二 必要ナル場合ニ於テハ警察官ハ何時ニテモ被監視人ノ住居ニ就キ搜索及ヒ物件差押ヲ爲スコトヲ得

(理由) 本條ハ監視ノ效果ヲ規定ス修正案ハ大ニ現行法ニ修正ヲ加ヘタリ抑監視ノ目的タルヤ被監視人ノ操行ヲ監視シ主トシテ其再犯ヲ防遏スルニ在ルヲ以テ現行法ハ刑法附則ニ於テ監視ノ規則ヲ定メ被監視人ヲシテ四箇ノ條件ヲ遵守セシメ其他極テ繁雜ナル規定ヲ置キ之カ自由ヲ制限シ若シ之ニ違背シタルトキハ刑法ニ於テ處罰スルコトトナセリ然ルニ此等ノ繁雜ナル規定ノ結果トシテ監視規則ニ違反スルモノ甚タ多ク之カ爲メニ徒ラニ犯罪人ヲ増加シ却テ監視ノ目的ニモ違背スルノ結果ヲ生シ現時殆ト其弊ニ堪ヘス修正案ハ之ヲ救ハント欲シ被監視人ニ義務ヲ負擔セシムルコトヲ專ラ警察官廳ヲシテ主動的ニ監視ヲ執行セシメ其目的ヲ達セント欲ス乃チ本條第一號ハ犯罪地及ヒ被害者所在地ノ警察官廳ハ被監視人ニ對シテ其管轄地ノ一部又ハ全部ニ住居シ又ハ立入ルヲ禁スルコトヲ得セシメ之ヲ以テ被監視人ヲシテ同一ノ地ニ於テ又ハ同一ノ被害者ニ對シテ再犯ヲ行フコトヲ防止シ第二號ハ刑法附則第二十八條ノ規定ニ少シク修正ヲ施シ必要ナル場合ニハ警察官ハ何時ニテモ被監視人ノ住居ニ就キ搜索及ヒ物件ノ差押ヲ爲シ得ルコトトシ亦再犯ニ付テノ搜索ヲ容易ナラシムルコトト爲シタリ

第二十三條 監視ノ期間ハ六月以上二年以下トス

(理由) 現行法ハ監視ノ期間ヲ六月以上五年以下トセリ然レトモ監視ハ主トシテ再犯ノ防遏ヲ目的ト爲スモノナルヲ以テ放免後尤モ再犯シ易キ時期ノ監視ヲ執行スレハ足ル之ヲ實驗ニ徵スルニ再犯ハ初犯ノ刑ノ執行後久シカラサル時期ニ於テ多ク生スルモノナルニ依リ修正案ハ現行法ノ五年ヲ短縮シ適宜ノ期間ヲ計リ之ヲ二年トナシタリ但監視モ亦短キニ失スルトキハ其效果ナキニ至ルヲ以テ短期ヲ定メ現行法ト同シク之ヲ六月ト爲シタリ

第二十四條 有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處スル場合ニ於テ監視ヲ附加スルコトヲ得ヘキ罪ト同質ノ罪ニ因リ死刑又ハ無期ノ懲役若クハ禁錮ニ處セラレタル者特赦又ハ時効ニ因リ其執行ノ免除ヲ得又ハ減刑ニ處シテ免除ヲ得又ハ減刑ニ因リ其執行ノ免除ヲ得又ハ減刑ニ因リ有期ノ懲役若クハ禁錮ニ減輕セラレタルトキハ當然一一年間監視ニ付セラレタルモノトス

併合罪ニ付キ死刑又ハ無期ノ懲役若クハ禁錮ニ處セラレタル者特赦又ハ時効ニ因リ其執行ノ免除ヲ得又ハ減刑ニ因リ有期ノ懲役若クハ禁錮ニ減輕セラレタル場合ニ於テ其併合罪中監視ヲ附加スルコトヲ得ヘキ罪アルトキ亦同シ

(理由) 本條ハ現行法第三十九條ニ少シク修正ヲ加ヘタル規定ナリ現行法ハ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ニハ必ラス監視ヲ科シ又輕罪ノ刑ニ處セラレタル者ニ付テモ之ヲ科スル場合多キニ過キ隨テ監視規則ニ違反スル者頗ル夥シキニ至リタルヲ以テ修正案ハ監視ハ必ラスシモ常ニ之ヲ科スコトヲ要セス必要ナル場合ニハ之ヲ科スコトヲ得ルコトト爲シ其場合ヲ減少シ之ヲ各本條ニ規定スルコトトナセリ又現行法第三十九條ニハ死刑及ヒ無期刑ノ期滿免除ヲ得タル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス五年間監視ニ付スルコトヲ規定スレトモ修正案ハ之ヲ改メ各本條ニ於テ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處スル場合ニ於テ監視ヲ附加スルコトヲ得可キ罪ト同質ノ罪ニ因リ死刑又ハ無期ノ懲役若クハ禁錮ニ處セラレタル者特赦又ハ時効ニ因リ其執行ヲ免除セラレ又ハ減刑セラレタルトキハ別ニ宣告ヲ用ヒス二年間監視ヲ科スルコトト爲シタルナリ

本條第二項ハ併合罪ニ付キ死刑又ハ無期ノ懲役若クハ禁錮ニ處セラレタル者ニシテ特赦又ハ時効ニ因リ執行ノ免除ヲ得又ハ減刑ニ因リ有期ノ懲役若クハ禁錮ニ減輕セラレタル場合ニ其併合罪中一罪又ハ數罪ニ監視ヲ附加スルコトヲ得ヘキ罪アリタルトキハ前項ト同シク別ニ宣告ヲ要セスシテ當然二年間監視ヲ附加セラレタルモノトスルノ規定ナリ

第二十五條

法律ニ於テ所有ヲ禁シタル物件ハ之ヲ沒收ス

左ニ記載シタル物件ハ之ヲ沒收スルコトヲ得

一 犯罪行爲ニ供シ又ハ供セントシタル物件

二 犯罪行爲ヨリ生シ又ハ之ニ因リ得タル物件

物件ノ沒收ハ其物件犯人以外ノ者ニ屬セサルトキニ限ル

(理由) 本條第一項ハ現行法第四十三條第一號及ヒ同第四十四條前段ノ規定ヲ合セタルモノナリ現行法ニ於テハ單ニ法律ニ於テ禁制シタル物件トアリテ其物件ノ所有ヲ禁スルモノナリヤ否ヤヲ明示セサルカ爲メ往々疑義ニ涉ルコトアリ此ヲ以テ修正案ハ明ニ法律ニ於テ所有ヲ禁シタル物件ト規定セリ又現行法ニハ何人ノ所有ヲ問ハストアルカ爲メ其意義廣キニ過キ所有者明了ナラサル場合ニ於テモ尙ホ沒收例ヲ適用ス可キモノナリトノ解釋ヲ生シ當事者ナクシテ刑事訴訟ヲ爲スモノナリヤノ疑ヲ生スルヲ以テ修正案ハ犯人以外ノ者ニ屬スル禁制物件ノ沒收ニ關スル規定ハ之ヲ刑事訴訟法中ニ設クルコトトシ刑法ニ於テハ只犯人ニ屬スル禁制物件ヲ沒收スル趣意ニテ現行法ヲ改メタリ

本條第二項及ヒ第三項ハ現行法第四十三條第二號第三號及ヒ同第四十四條後段ノ規定ヲ合シ之ニ補修ヲ施シタルモノニシテ其主ナル點ヲ擧クレハ修正案

ハ本條ノ場合ノ物件ハ之ヲ沒收スルコトヲ得ト規定シ若シ必要ナキトキハ之ヲ沒收セザルコトト爲セリ是レ或ハ沒收ノ價值ナキモノヲ沒收シ却テ無用ノ手數ヲ増スコトアレハナリ次ニ現行法ハ物件カ犯人ノ所有ニ係リ又ハ所有者ナキ時ニ限り沒收スト規定スレトモ修正案ハ其物件カ犯人以外ノ者ニ屬セザルトキニ限ルト改メタリ乃チ被害者又ハ第三者ニ屬スル場合ヲ除キ犯人ニ屬スル場合ニハ其犯人カ被告人トナラザルトキト雖モ若シ其共犯カ被告人トナリ其事件ニ付キ裁判ス可キ場合ニモ沒收例ヲ適用シ得ルコトトシタリ次ニ又沒收物件ヲ改メ第一號ニハ現行法ニ犯罪ノ用ニ供シタル物件ト云フヲ改メ犯罪行爲ニ供シ又ハ供セントシタル物件トナシ以テ犯罪ノ行爲ニ供シタルモノ及ヒ之ニ供セントシタル物ノ二者ヲ包含セシメ一方ニハ沒收物ノ意義ヲ明ニシ一方ニハ其範圍ヲ廣クシ犯罪ノ準備ニ屬スル物件ヲモ沒收シ得ルコトトナシ第二號ニハ現行法ノ犯罪ニ因リ得タル物件ト云フヲ改メ犯罪行爲ヨリ生シ又ハ之ニ因テ得タル物件トナシテ以テ沒收物ノ意義ヲ充分明瞭ナラシメタリ

第二十六條 輕罪ノ刑ニ付テハ別段ノ規定アルニ非サレハ沒收ヲ附加スルコトヲ得ス但前條第一項ニ記載シタル物件ハ此限ニ在ラス

(理由) 本條ハ輕罪ハ輕微ナル犯罪ナルヲ以テ常ニ沒收例ヲ適用スルノ必要ナキヲ以テ別段ノ規定アルニ非サルハ沒收ヲ附加セサルノ主旨ナリ唯法律ニ於テ所有ヲ禁シタル物件ノ沒收ハ犯罪ト直接ノ關係ヲ有スルモノニアラサルヲ以テ例外トシテ常ニ沒收スルモノトセリ

第二節 期間計算

(理由) 本節ハ現行法第一編第二章第五節ト同シク刑期ノ計算法ニ關スル規定ナリ

第二十七條 期間ヲ計算スルニ一日ト稱スルハ二十四時ヲ以テシ一月ト稱スルハ三十日ヲ以テシ一年ト稱スルハ曆ニ從フ

(理由) 本條ハ現行法第四十九條第一項ト同一ノ規定ナリ

第二十八條 刑期ハ裁判確定ノ日ヨリ起算ス

拘禁セラレサル日數ハ裁判確定後ト雖モ懲役、禁錮又ハ拘留ノ刑期ニ算入セス

有期ノ懲役又ハ禁錮ニ附加セラレタル有期公權剝奪及ヒ監視ノ期間ハ其懲役又ハ禁錮ノ滿限若クハ其執行免除ノ翌日

ヨリ起算ス

死刑又ハ無期ノ懲役若クハ禁錮ノ執行免除ヲ得タル者ノ監視ノ期間ハ其免除ノ翌日ヨリ起算シ減刑ニ因リ死刑又ハ無期ノ懲役若クハ禁錮ヲ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ減輕セラレタル者ノ監視ノ期間ニ付テハ前項ノ例ニ依ル

(理由) 本條ハ現行法第五十一條ニ相當スル規定ナリ現行法ハ其第五十條ニ於テ裁判ハ確定後ニ非サレハ執行セサルコトヲ規定シ第五十一條ニ於テ刑期ハ刑名宣告ノ日ヨリ起算スルコトトナシ特ニ上訴ノ場合ニ關シ詳細ノ規定ヲ設ケタリ然ルニ第五十條ノ如キ規定ハ殆ント當然ノ事山ニシテ別段ニ明文ヲ要セサルヲ以テ之ヲ刪除シ修正案ハ第一項ニ於テ刑期ノ起算日ヲ改メ裁判確定ノ日ヨリスルコトトナセリ是レ一方ニハ裁判確定後ニ非サレハ執行セサルコトヲ示シ他ノ一方ニハ上訴ニ由テ以テ萬一ノ僥倖ヲ射ントスルノ弊ヲ防遏セントスルモノナリ抑現行法ニヨレハ檢事カ上訴スルトキハ常ニ刑期ハ前判宣告ノ日ヨリ起算シ被告カ上訴シテ其上訴正當ナルトキモ亦前判宣告ノ日ヨリ起算スルコトト定メラルルヲ以テ縱令檢事カ上訴シテ前判決ハ不當トナルモ被告人ハ却テ之カ爲メニ未決勾留ノ期間延長シ不當ノ利益ヲ受クルコトトナリ又

被告人ノ上訴シタル場合ニ於テモ僅カニ手續ニ於テ小瑕疵アルカ爲メニ其上訴正當トナリ其間ニ受ケタル未決勾留ノ期間ハ時トシテハ刑期ヨリ長キコトアリテ被告ハ刑ノ宣告ヲ受クルモ全ク其執行ヲ免カルコトアリ或ハ少クトモ未決勾留ノ日數ヲ刑期ニ算入スルカ爲メニ大ニ其執行ノ日數ヲ減殺セラレ從テ不當ノ利益ヲ受クルニ至ルヲ以テ現時ニ在テハ被告人ノ上訴ハ其數甚タ多ク僥倖ヲ萬一ニ期シ以テ苦役ヲ免カレントスル弊ヲ生ス故ニ之ヲ矯正センニハ刑期ハ必ス裁判確定ノ日ヨリ起算スト爲ステ以テ適當ナリトス

第二項ハ現行法第五十二條ト同主旨ノ規定ナリ
第三項ハ公權剝奪及ヒ監視ノ起算日ノ規定ニシテ監視及ヒ無期公權剝奪ニ付テハ殆ント現行法ト同一ナレトモ修正案ハ新ニ有期ノ公權剝奪ヲ設ケタルヲ以テ其起算日ニ付キ新ニ規定ヲ設ケタリ
第四項ハ現行法ニ於テ稍不明ナル所ヲ規定シタルモノニシテ之ニ依リテ監視ノ起算點ヲ定ムヘキモノトス

第二十九條 受刑ノ初日ハ時間ヲ論セス全一日トシテ之ヲ計算ス時効期間ノ初日亦同シ
放免ハ刑期終了ノ翌日ニ於テ之ヲ行フ

(理由) 本條ハ現行法第四十九條第二項ヲ修正シ且時効期間ノ初日ノ計算ニ關スル規定ヲ新設セルモノナリ現行法ニハ放免ハ日ハ刑期ニ算入セストアルヲ修正案ニハ放免ハ刑期終了ノ翌日ニ於テ之ヲ行フト爲シタルハ現行法ニ於テ放免ハ刑期滿限ノ翌日午前ニ於テ行フコトヲ規定シタル爲メ實際上不便多ク之ヲ午前ニ限ルノ必要ナクハナリ

第三十條 未決勾留ノ日數ハ左ノ區別ニ從ヒ本刑ニ算入ス但

本刑ノ一日又ハ一圓ニ當ラサル勾留日數ハ之ヲ除去ス

一 懲役一日ニ付キ勾留六日

二 禁錮拘留一日ニ付キ勾留三日

三 罰金、科料一圓ニ付キ勾留二日但一圓以下ト雖モ亦同シ

(理由) 修正案ハ刑期ノ起算日ヲ以テ裁判確定ノ日ト爲シタルヲ以テ新ニ本條ノ規定ヲ設ケタルナリ凡ソ刑事訴訟ノ審理中被告人ノ勾留ヲ要スル場合極メテ多シ稍重大ナル事件ニ在テハ審理ノ日數久シキニ彌ルカ爲メ未決勾留ノ日數亦長ク時ニ數年ニ涉ルコトアリテ被告人ノ不幸實ニ名狀ス可カラサルモノアリ今此不幸ヲ避クルニ付キ其方法ニ様アリ第一ハ裁判所ヲシテ適宜ニ未決勾留ノ日數ヲ全部又一部ヲ刑期ニ算入セシムルニアレトモ手續上ノ不便尠ナシ

トセス修正案ハ第二ノ主義ヲ採リ未決勾留ノ日數ヲ以テ刑ノ種類ニ應シテ必ラス之ヲ本刑ニ算入スルコトト爲シタリ

第三節 刑ノ執行ノ猶豫及ヒ免除

(理由) 刑ノ執行ノ猶豫ハ晚近ノ制度ニシテ全ク新設ノ規定ナリ其趣旨ノ概要ヲ舉クレハ左ノ如シ

刑法ノ目的ハ犯罪ヲ防遏スルニ在リ然レトモ犯罪必罰ハ未タ必ラスシモ防遏ノ目的ヲ達ス可キモノニ非ス蓋シ犯人ノ種類ハ千態萬狀ニシテ盡ク極惡人ヲ以テ目ス可カラサルモノアリ或ハ一時ノ感情ニ制セラレテ罪ヲ犯スニ至ル者アリ或ハ社會ノ境遇ニ驅ラレテ罪辟ニ陥イル者アリ凡ソ此等ノ犯人ハ一旦法律ノ罪人ト爲ルト雖モ再ヒ善良ノ民タルコトヲ得ヘカラサル者ニ非サルナリ然ルニ刑法ハ常ニ之ヲ罰シテ假借スル所ナク惡人ト共ニ牢獄ニ投シテ顧ミル所ナキトキハ則チ良民モ亦惡人ノ爲メニ犯罪ノ教授ヲ受ケテ而シテ忽チ不良ノ性ヲ養成スルニ至ル特ニ短期ノ自由刑ニ至リテハ懲戒ノ目的ヲ達スルコト甚タ困難ニシテ而シテ却テ獄中ノ惡風ニ感染スルコト至テ容易ナリ牢獄ニ出入シタルカ爲ニ不可治ノ犯人ト爲リタル者殆ト其幾千ナルヲ知ラサルナリ是レ實ニ短期刑ノ通弊ナリ此通弊ヲ除クニハ短期刑ニ處セラレタル者ヲシテ牢獄

ニ投スルコトナシテ而シテ懲戒ノ目的ヲ達スルノ方法ヲ講スルニ如クハナシ其方法ハ則チ刑ノ執行ノ猶豫ニアリ此方法ニ因レハ一方ニ於テハ犯人ヲ罰シテ而シテ恕スル所ナキヲ以テ犯罪必罰ノ趣旨ニ背カス他ノ一方ニ於テハ其刑ノ執行ヲ猶豫シテ而シテ犯人ヲシテ善行ニ遷ラシムルヲ以テ犯罪防遏ノ目的ヲ達スルニ足ル是レ修正案ニ於テ新ニ本節ノ規定ヲ設クルニ至リタル理由ナリ刑ノ執行ノ免除ノ規定ハ現行法第一編第二章第六節假出獄ノ規定ヲ補修シタルモノナリ

第三十一條 左ニ記載シタル者一年以下ノ禁錮又ハ六月以下

ノ懲役ノ言渡ヲ受ケタルトキハ情狀ニ因リ裁判確定ノ日ヨリ二年以上五年以下ノ期間内其執行ヲ猶豫スルコトヲ得

- 一 前ニ罰金以外ノ重罪ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者
- 二 前ニ罰金以外ノ重罪ノ刑ニ處セラレタルコトアルモ其執行ヲ終リ又ハ其執行ノ免除ヲ得タル日ヨリ十年以上罰金以外ノ重罪ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者

(理由) 本條ハ一年以下ノ禁錮又ハ六月以下ノ懲役ノ言渡ヲ受ケタル者本條二號ノ一ニ該當スルトキハ情狀ニ因リ其刑ノ執行ヲ猶豫スル規定ニシテ犯人カ

裁判確定後二年以上五年以下ノ期間内更ニ罰金以外ノ重罪ヲ犯ササルコトヲ以テ其條件ト爲スモノナリ

本條ニ於テ禁錮又ハ懲役ニ付テハ執行ヲ猶豫シ寧ロ之ニ比シテ輕キ罰金ニ付キ此制度ヲ設ケサリシハ罰金ヲ言渡サレタル者ハ監獄ニ出入スルコト無キヲ以テ監獄ニ於テ犯罪ノ性ヲ養成スルノ虞無ク從テ之カ爲メ自暴自棄ノ念ヲ發シ遂ニ刑ノ目的ニ反スルカ如キ結果ヲ胚胎スルノ憂ナキヲ以テナリ

本條第一號ハ犯人ノ身上ニ關スル條件ニシテ前ニ罰金以外ノ重罪ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者ニ非サレハ此恩典ヲ與ヘサル主旨ナリ

第二號ハ前號ノ例外ニシテ縱令前ニ罰金以外ノ重罪ノ刑ニ處セラレシ者ト雖モ其執行ヲ終リ又ハ其執行ノ免除ヲ得タル日ヨリ十年以上更ニ罰金以外ノ重罪ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者ハ前號ト同シク此恩典ヲ與フルモノニシテ必竟十年以上ノ長キ期間其素行ヲ慎ミタル者ハ最初ヨリ罪ヲ犯ササル者ト同一視ス可キノ價值アリト認メタレハナリ

第三十二條 公權剝奪又ハ監視ヲ附加セラレタル者ニハ前條

ノ規定ヲ適用セス

(理由) 本條ハ前條ノ例外ニシテ縱令前條ノ適用ヲ受クルコトヲ得可キ犯人ナ

リト雖モ主刑ニ公權剝奪又ハ監視ヲ附加セラレタルモノハ前條ノ規定ヲ適用セサルモノトナセリ此公權剝奪又ハ監視ハ各本條中犯罪ノ性質ノ危險ナルモノニ附加スルヲ通常トスルヲ以テ之ヲ附加セラレタル犯人ノ如キハ之ニ猶豫ヲ與フルノ却テ害アル可キヲ恐ルレハナリ

第三十三條 左ニ記載シタル場合ニ於テハ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消ス可シ但第三十一條第二號ニ記載シタル者ニ付テハ此限ニ在ラス

- 一 猶豫ノ期間内更ニ罪ヲ犯シ罰金以外ノ重罪ノ刑ニ處セラレタルトキ
- 二 猶豫ノ言渡前ニ犯シタル他ノ罪ニ付キ罰金以外ノ重罪ノ刑ニ處セラタルトキ
- 三 猶豫ノ言渡前他ノ罪ニ付キ罰金以外ノ重罪ノ刑ニ處セラレタルコト發覺シタルトキ

(理由) 本條ハ執行猶豫ノ取消ノ規定ニシテ

- 一 猶豫ノ期間内更ニ罰金以外ノ刑ニ該ル可キ重罪ヲ犯シ
- 二 猶豫ノ言渡前ニ犯シタル罪ニ付キ罰金以外ノ刑ニ處セラレ

三 第三十一條第一號ノ規定ニ觸ルルトキ乃チ猶豫ノ言渡前他ノ罪ニ付キ罰金以外ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ナルコト發覺シタルトキ但第三十一條第二號ノ場合ハ之ヲ除外スルモノトス

以上三箇ノ原由其一ニ該當スル場合ニハ裁判所ハ猶豫ノ言渡ヲ取消ス可キモノナリ此等ノ事情アル犯人ニ對シテハ其刑ノ執行ヲ猶豫ス可キ必要ナク直ニ本刑ヲ執行スルヲ相當トスレハナリ

第三十四條 刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消サルルコト無クシテ猶豫ノ期間ヲ經過シタルトキハ刑ノ言渡ハ當然其效力ヲ失フ

(理由) 本條ハ刑ノ執行ノ猶豫ノ效力ヲ規定シタルモノナリ乃チ刑ノ執行猶豫ノ期間内其言渡ヲ取消サルルコトナクシテ之ヲ經過シタルトキハ其刑ノ言渡ノ效力ハ當然消滅スルモノトス是レ本制度ノ最モ主要ナル點ニシテ之ニ因リ一旦不幸ニシテ犯罪者トナルモ其後一定ノ期間謹慎ノ狀況ニ在ルトキハ法律ハ之ヲ以テ全ク改悛シタルモノトシテ其罪ヲ問ハス從テ犯人モ犯罪者タルノ汚名ヲ免レ純白ノ人ヲ以テ世ニ處スルコトヲ得ルモノナリ

第三十五條 禁錮又ハ懲役ニ處セラレタル者更ニ重罪ヲ犯ス虞ナキトキハ有期刑ニ付テハ其刑期三分ノ一無期刑ニ付テ

ハ十年ヲ經過シタル後行政處分ヲ以テ假ニ出獄ヲ許スコトヲ得

(理由) 本條ハ現行法第五十三條ヲ修正シタル規定ニシテ現行法ハ獄則ヲ遵守シ、悔改ノ狀アルコトヲ條件ト爲スト雖モ此條件ハ却テ極惡人ノ假面ヲ裝フノ材料トナルノ虞アルヲ以テ本案ハ之ヲ改メ更ニ重罪ヲ犯ス虞ナキト爲シタリ

無期刑ニ付テハ其期限同一ナリト雖モ有期刑ニ付テハ現行法ノ四分ノ三八長キニ失シ犯人ヲシテ往々失望ノ位地ニ陷ラシムルノ虞アルヲ以テ之ヲ短縮シテ三分一トナシタリ又無期刑ニ付テハ現行法ノ十五年モ亦長キニ失スルヲ以テ改メテ之ヲ十年ニ短縮シタリ

第三十六條 左ニ記載シタル場合ニ於テハ假出獄ノ處分ヲ取消スコトヲ得

- 一 假出獄中更ニ罪ヲ犯シ重罪ノ刑ニ處セラレタルトキ
- 二 假出獄前ニ犯シタル他ノ罪ニ付キ重罪ノ刑ニ處セラレタルトキ
- 三 假出獄前他ノ罪ニ付キ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ニ

シテ其刑ノ執行ヲ爲スコトキ

四 假出獄取締規則ニ違背シタルトキ

假出獄ノ處分ヲ取消シタルトキハ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入セス

(理由) 本條ハ現行法第五十六條ヲ修正シタル規定ニシテ現行法ハ假出獄ノ取消ノ條件ヲ更ニ重罪、輕罪ヲ犯スノ一ニ止ムト雖モ修正案ハ尙ホ他ノ條件ヲ増加シタリ但出獄中ノ日數ヲ刑期ニ算入セサルコトハ現行法ト全ク同一ナリ

第一號ハ現行法ノ條件ト同一ノ主旨ナリ
第二號ハ第三十三條第二號ノ條件ト同一ノ主旨ニ基キタル規定ニシテ第一號ニ於テ出獄中重罪ヲ犯シタル者ニハ假出獄ヲ取消スヲ以テ假出獄前重罪ヲ犯シタル者モ亦之ヲ取消スノ必要アルナリ
第三號ハ假出獄前他ノ罪ニ付キ重罪ニ處セラレ其刑ヲ執行スコキトキハ後ノ罪ニ付キ假出獄ヲ許スハ事理ノ許ササル所ナルヲ以テナリ
第四號ハ本案ハ別ニ假出獄取締規則ノ制定ヲ豫期スルヲ以テ之ニ違背シタル場合ノ規定ヲ設ケタルナリ

第三十七條 拘留ニ處セラレタル者ハ情狀ニ因リ何時ニテモ

行政處分ヲ以テ其執行ヲ免除スルコトヲ得
罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサルニ因リ留置セラレタ
ル者亦同シ

(理由) 本條モ亦新ニ設ケタル制度ニシテ本節ニ於テ既ニ禁錮及ヒ懲役ニ執行
ノ猶豫ヲ與フルヲ以テ比較上之ヨリ輕キ拘留ニモ亦一種ノ恩典ヲ與フルコト
事理ノ當然ナリ此ヲ以テ第一項ニ於テハ執行猶豫ノ如キ複雜ナル規定ニ依ラ
ス一々情狀ニ因リ行政處分ヲ以テ其執行ヲ免除スルヲ得ルコトト爲シタルナ
リ
第二項モ同一ノ理由ニ基キタル規定ニシテ罰金又ハ科料ヲ完納シ得サルカ爲
メ留置セラレタル者ハ其情狀自由刑執行ノ場合ヨリモ一層輕キヲ以テ亦行政
處分ヲ以テ之ヲ免除スルヲ得ルコトト爲シタルナリ

第四節 時 效

(理由) 本節ハ現行法第一編第二章第七節ノ規定ニ相當ス現行法ニ用ヒタル期
滿免除ノ語ヲ改メテ時效ト爲シタルハ意義ニ於テ異ナル所アルニ非ス唯時效
ノ語ハ民法其他ニ於テ普通ニ用ヒラルルヲ以テナリ

第三十八條 死刑、懲役、禁錮、罰金、拘留、科料及ヒ沒收ノ言渡ヲ受

ケタル者ハ時效ニ因リ執行ノ免除ヲ得

(理由) 本條ハ現行法第五十八條ト同一趣旨ノ規定ナリ唯其異ナル所ハ時效ニ
因リ執行ノ免除ヲ得ル刑ノ種目ヲ列舉シタルニ在リ隨テ之ニ揭ケサル公權剝
奪及ヒ監視ハ時效ヲ得サルコト明了ナルカ故ニ現行法第六十條第一項ノ如キ
規定ヲ設ケル必要ナキニ至レリ

第三十九條 時效ハ刑ノ言渡確定シタル後左ノ期間内其執行

ヲ受ケサルニ因リ完成ス

- 一 死刑ハ三十年
- 二 無期ノ懲役又ハ禁錮ハ二十年
- 三 有期ノ懲役又ハ禁錮ハ十年以上ハ十五年、三年以上ハ
- 十年、三年未滿ハ五年

四 罰金ハ三年

五 拘留、科料及ヒ沒收ハ一年

(理由) 本條ハ現行法第五十九條ニ少シク修正ヲ加ヘタル規定ニシテ第一號ハ
現行法ト全ク同一ナリ第二號ハ現行法ヨリ稍々短縮シ第三號ハ修正案ニ於テ

自由刑ノ刑期ノ範圍ヲ廣クナシタル結果ヨリ生スル當然ノ規定ニシテ其期限モ適宜ニ參酌シ現行法ト大差ナシ第四號ニハ罰金ノ時効ノ期間ヲ三年トセリ是レ現行法ノ七年ハ長キニ失スルヲ以テナリ第五號ハ拘留料料ニ付キテハ現行法ト全ク同一ナリ沒收ニ付テハ現行法ノ五年ハ長キニ失スルヲ以テ短縮シテ一年トナシタリ

第四十條 時効ノ期間ハ法律ニ依リ刑ノ執行ヲ猶豫シ又ハ之ヲ停止シタル期間内ハ經過スルコトナシ

(理由) 時効ハ不法ニ刑ノ執行ヲ免レタル者ノ爲メニ之ヲ設クルモノナレハ正當ニ其執行ヲ免レタル日數ハ之ヲ時効期間ニ計算スルコトヲ得ス故ニ刑ノ執行猶豫若クハ其停止又ハ假出獄中ノ日數ハ之ヲ時効ノ期間ニ算入セサルコトトナシタルナリ

第四十一條 時効ハ刑ノ執行ニ付キ犯人ヲ逮捕シタルニ因リ之ヲ中 ス

罰金、科料及ヒ沒收ノ時効ハ執行行爲ヲ爲シタルニ因リ之ヲ中斷ス

(理由) 本條ハ刑ノ時効ノ中斷ノ規定ニシテ第一項ハ現行法ト同シク刑ノ執行

ニ付キ犯人ヲ逮捕シタルトキハ之ヲ以テ中斷ノ原因トセリ然ルニ現行法ハ此外尙ホ檢事ヨリ逮捕令狀ヲ發スルコトヲ以テ中斷ノ原因ト爲スト雖モ其理由ニ乏シク却テ或ハ不公平ノ結果ヲ生シ或ハ到底時効期間ノ到來スルコトナク全ク時効ヲ設ケタル主旨ニ戻ルノ虞アルヲ以テ修正案ハ之ヲ刪除セリ
本條第二項ハ罰金、科料及ヒ沒收乃チ財産ヲ徵收ス可キ刑ノ時効ノ中斷方法ニシテ此等ノ刑ハ若シ其全數ヲ分チ數回ニ分納セシメントセハ未タ之ヲ完納セサル前既ニ時効ノ成就スル虞アルヲ以テ本案ハ此等ノ場合ニハ時効ハ刑ノ執行行爲ニ因リ中斷セラレ從テ常ニ最後ノ執行行爲ヨリ進行ヲ始ム可キコトヲ規定シタルモノナリ

第五節 大赦、特赦、減刑及ヒ復權

(理由) 本節ハ現行法第一編第二章第八節ノ規定ヲ補充修正シタルモノトス現行法ハ主トシテ復權ノコトヲ規定シ大赦、特赦ノコトハ唯間接ニ之ヲ規定スルノミ然ルニ憲法ニハ其外尙ホ減刑ノコトアルヲ以テ本節ニ於テ此四者ニ關スル規定ヲ設ケタリ

第四十二條 大赦ハ裁判言渡ノ效力ヲ全減ス

(理由) 本條ハ大赦ノ效力ヲ規定シタルモノナリ現行法ニハ其明文ナシト雖モ法律ノ趣旨ニ至リテハ同一ナリトス

第四十三條 特赦ハ刑ノ執行ヲ免除シ減刑ハ刑ノ執行ヲ減輕ス

(理由) 本條ハ特赦及ヒ減刑ノ效力ノ規定ニシテ特赦ニ付テハ現行法ノ規定ト其主旨ヲ同フス

第四十四條 復權ハ將來ノ公權ヲ復シ當然監視ヲ免除ス

(理由) 本條ハ復權ノ效力ノ規定ニシテ現行法ノ主旨ト全ク異ナル所ナシ

第三章 犯罪ノ不成立及ヒ刑ノ減免

(理由) 本章ノ規定ハ現行法第一編第四章中其第三節ヲ除キ之ニ修正ヲ加ヘタルモノニシテ現行法ハ不論罪及ヒ減輕ノ語ヲ以テ事實ノ罪ト爲ラサル場合及ヒ罪トナルモ其刑ヲ免シ若クハ之ヲ減スル場合ヲ包含セシメタリ然レトモ其意義明瞭ヲ缺キ往々ニシテ疑義ヲ生シタルコトアルヲ以テ修正案ハ之ヲ改メテ罪トナラサル場合ハ之ヲ犯罪ノ不成立トシ刑ヲ免シ若クハ減輕スル場合ヲ以テ刑ノ減免ト爲シタリ

現行法ハ其第三編第一章第三節ニ於テ殺傷ニ關スル特別ノ宥恕及ヒ不論罪ノ規定ヲ設クト雖モ其正當防衛ニ關スルモノハ總則ニ於テ規定ス可キモノト認メ之ヲ本章ニ移シ其他ハ犯罪ノ情狀ニ過キサルヲ以テ其認定ヲ裁判所ニ一任スルコトトシ此カ規定ヲ刪除シタリ

第四十五條 法令又ハ正當ノ業務ニ因リ爲シタル行爲ハ之ヲ

罰セス

(理由) 現行法第七十六條ハ本屬長官ノ命令ニ從ヒ其職務ヲ以テ爲シタル行爲ノ責任ノミヲ規定スト雖モ業務上爲シタル行爲ニ付テハ一言ノ規定ナク之カ爲メ解釋上ノ困難ヲ生シタルコトアルヲ以テ修正案ハ一般ニ法令ニ因リ又ハ正當ノ業務ヲ以テ爲シタル行爲ハ罪トナラサルコトヲ明確ニシタリ

第四十六條 急迫不正ノ侵害ニ對シ自己又ハ他人ノ權利ヲ防

衛スル爲メ已ムコトヲ得サルニ出テタル行爲ハ之ヲ罰セス
若シ必要ノ程度ヲ超エタルトキハ情狀ニ因リ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

(理由) 本條ハ現行法第三百十四條乃至第三百十六條ヲ合シ之ニ修正ヲ加ヘタルモノニシテ所謂正當防衛ノ規定ナリ

現行法ヲ修正シタル要旨ヲ舉クレハ

一 現行法ハ正當防衛ノ規定ヲ殺傷ニ關スル特別ノ宥恕及ヒ不論罪ト爲シ之ヲ第三編第一章第三節中ニ規定シタリ然レトモ正當防衛ノ方法ハ單ニ殺傷ニ限ル可キモノニ非サルヲ以テ本案ハ之ヲ本章ニ移シ廣ク一般ニ通スル規定ト爲シタリ

二 現行法ハ防衛ノ主體ヲ生命身體財產等ニ制限シタリト雖モ本案ハ尙ホ其他ノ權利ヲモ保護ス可キモノト認メ廣ク自己又ハ他人ノ權利ノ防衛ニ關スル規定ヲ設ケタリ

三 現行法ハ防衛ス可キ侵害ノ程度ニ付キテハ其規定頗ル不充分ニシテ唯第三百十四條但書ニ於テ不正ノ行爲ニ依リ自ラ招キタル暴行ニ非サルコトヲ示スノミナルヲ以テ本案ハ亦此點ヲ明確ニシ侵害ノ急迫ニシテ不正ナルヲ要スルコトヲ規定シ從テ第三百十四條ノ但書ハ其必要ナキヲ以テ之ヲ刪除シタリ

本條第一項ハ現行法第三百十四條及ヒ第三百十五條ヲ合シタルモノニシテ急迫ニシテ不正ナル侵害ニ對シ自己又ハ他人ノ權利ヲ防衛センカ爲メ爲シタル必要ナル行爲ハ罪トナラサルコトヲ規定シタルモノナリ又第二項ハ現行法第

三百十六條ト同一ノ主旨ニ出タル規定ニシテ前項ノ場合ニ於テ防衛ノ行爲其必要ナル程度ヲ超エタルトキハ既ニ正當防衛ニ非サルヲ以テ罪トシテ之ヲ罰スト雖モ其情狀ニシテ斟酌ス可キモノアルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得セシムルモノナリ

第四十七條 自己又ハ他人ノ生命、身體、自由若クハ財產ニ對スル現在ノ危難ヲ避クル爲メ已ムコトヲ得サルニ出テタル行爲ハ其行爲ヨリ生シタル害其避ケントシタル害ノ程度ヲ超エサル場合ニ限り之ヲ罰セス但其程度ヲ超エタルトキト雖モ情狀ニ因リ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

(理由) 本條ハ現行法第七十五條ノ規定ヲ修正シタルモノニシテ其要旨ヲ舉クレハ

一 現行法第七十五條第一項ハ所謂有形ノ自由ヲ喪失シタル場合ノ規定ニシテ若シ自己ノ身體外力ノ爲メニ企ク強制セラレテ爲シタルトキハ是レ外力ノ作用ノ結果ニシテ自己ノ行爲ニ非サルハ明文ヲ俟タサルヲ以テ本案ハ之ヲ刪除シ唯意思ノ上ニ受ケタル外力ノ結果ニ關スル規定ノミヲ設ケタリ

二 現行法ハ防衛ノ主體ヲ唯自己若クハ親屬ノ身體ニ制限スト雖モ本案ハ自

己又ハ他人ノ貴重ナル權利タル生命身體自由及ヒ財産ハ本條ノ場合ニ於テ之ヲ保護ス可キモノト認メ之ニ關スル規定ヲ設ケタリ

三 現行法ハ防衛ノ主體ヲ最モ貴重ナル自己又ハ親屬ノ身體ニ限リタルヲ以テ之ヲ防衛スルニ出タル行爲ハ常ニ罪ト成ラサルコトト爲シタリ是レ身體ノ價值ハ其防衛ノ行爲ヨリモ重大ナルカ故ナリ之ニ反シテ本案ハ防衛ノ主體ヲ擴張シ生命身體自由ノ外財産ヲモ加ヘタルヲ以テ縱令此等ノ權利ヲ保護スル現實ノ必要ニ出テル行爲ナリト雖モ其行爲ヨリ生シタル害其避ケントシタル害ヨリモ大ニシテ畢竟保護セントシタル權利ニ比スレハ却テ重大ナル他人ノ權利ヲ害スルコトアル場合ニ於テハ其行爲ヲ罪ト爲ササレハ遂ニ其弊ニ堪ヘサルニ至ル可キヲ以テ本案ハ裁判所ヲシテ法律上保護セラレタル權利ト之ヲ防衛スル目的ヲ以テ侵害セラレタル權利トヲ比較シ或ハ全ク其行爲ヲ罪ト爲サス或ハ其行爲ヲ罪トシテ之ヲ罰シ又ハ之ヲ罰スルモ其刑ヲ減輕スルコトト爲シタリ

四 現行法ハ自己ノ權利ヲ保護ス可キ危難ノ程度ヲ天災又ハ意外ハ變ニ因リ避ク可カラサル危難ト爲スト雖モ斯カル例示的の文字ハ無用ナルヲ以テ之ヲ改メテ現在ハ危難ト爲シ語ヲ簡約ニシテ却テ其意義ヲ明確ナラシメタリ

五 現行法ハ職務上他人ヲ救護ス可キ特別ノ義務アル者ニ關スル規定ヲ闕ケルカ爲メ往々危険ナル場合ヲ生セサルニ非ス是ヲ以テ本案ハ本條第二項ニ於テ新ニ之ニ關スル規定ヲ設ケタリ

之ヲ要スルニ本案ハ自己又ハ他人ノ生命身體自由若クハ財産ニ對シ現在ノ危難ヲ受ケタルトキハ之ヲ避クルカ爲メ爲シタル眞ニ必要ナル行爲ハ罪ト爲ラサルヲ原則トシ必要ノ程度ヲ超エタル場合ト雖モ情狀ニ因リ其刑ヲ減輕スルコトヲ得ル旨ヲ規定シタルモノニシテ第二項ノ主旨ハ職務上特別ノ義務ヲ負擔セル者ハ本條ノ適用ヲ受ケサルコトヲ明ニシタルモノナリ

第四十八條 罪ヲ犯ス意ナキ行爲ハ之ヲ罰セス但法律ニ特別ノ規定アル場合ハ此限ニ在ラス
法律ヲ知ラサルヲ以テ罪ヲ犯ス意ナシト爲スコトヲ得ス但情狀ニ因リ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

(理由) 本條ハ現行法第七十七條ニ修正ヲ加ヘタルモノニシテ現行法第七十七條第二項及ヒ第三項ハ其ニ同條第一項ノ適用ニ過キササルヲ以テ本案ハ其必要ヲ認メス之ヲ删除シタリ

本條第一項ハ現行法第七十七條第一項ト全ク同一ノ主旨ヲ規定シタルモノニ

シテ本法ニ於テハ原則トシテ罪ヲ犯ス意ナキ行爲ハ罪ト爲ラサルコトヲ定メ
唯例外トシテ法律ヲ以テ特別ノ規定ヲ設ケタルトキハ意ナキ行爲ヲモ罪ト爲
スコトヲ明ニシタルモノナリ

第二項ハ現行法第七十七條第四項ト同シク法律ヲ知ラスト雖モ是ヲ以テ罪ヲ
犯スノ意ナキモノト爲ササル主旨ニシテ實際上ノ必要ニ基ク規定ナリ然リト
雖モ眞ニ法律ヲ知ラサルカ爲メ不幸ニシテ或ハ罪名ニ觸レ事實憫諒ス可キ者
アルヲ以テ本條但書ニ於テ裁判所ヲシテ其情狀ヲ見テ刑ヲ減輕スルコトヲ得
セシメタルモノナリ

第四十九條 精神障礙ニ因ル行爲ハ之ヲ罰セス但情狀ニ因リ

監置ノ處分ヲ命スルコトヲ得

精神耗弱者ノ行爲ハ其刑ヲ減輕ス

(理由) 本條第一項ハ現行法第七十八條ノ文字ヲ修正シタルモノニシテ現行法
ハ知覺精神ノ喪失ニ因リ是非ヲ辨別セサル者ノ行爲ニ付キ規定ヲ設クト雖モ
其法文ノ意義頗ル不明ニシテ果シテ犯人カ全ク知覺精神ヲ喪失セシヤ否ヤヲ
判別スルコトハ醫學上ニ於テモ至難トスル所ニシテ從テ適用上最モ困難ヲ感
シタル所ナリ此ヲ以テ本案ハ其主旨ヲ探ルト雖モ其文字ハ全ク之ヲ廢除シ新

ニ精神ニ障礙アリテ其障礙ニ基キテ爲シタル行爲ハ之ヲ罰セサルコトヲ規定
シ以テ其意義ヲ明確ニ爲シタリ本項ハ精神ノ障礙ニ原因シテ爲シタル行爲ノ
規定ナルヲ以テ犯人ノ平常精神病ニ非サルモ其犯罪ハ當時精神ノ障礙ニ原因
セシモノタルコト明白ナルトキハ尙ホ犯罪ノ不成立ヲ見ルナリ

本條但書ノ規定ハ精神病者ノ危險ヲ豫防スルノ趣旨ニ出テタルモノナリ

第二項ハ新ニ設ケタル規定ニシテ前項ノ精神障礙者ヨリ最モ輕キ精神障礙ノ
狀況ニ在ル者ノ行爲ニ關スル規定ナリ此場合ニ於テハ犯人ハ無罪者タル可ラ
スト雖モ多少其行爲ハ之ヲ宥恕ス可キモノト認メ其刑ヲ減輕スルモノナリ

第五十條 瘖啞者ノ行爲ハ之ヲ罰セス又ハ其刑ヲ減輕ス但之 ヲ罰セサル場合ニ於テハ情狀ニ因リ十年以下ノ期間懲治ノ 處分ヲ命スルコトヲ得

(理由) 本條ハ現行法第八十二條ヲ修正シタルモノニシテ現行法ハ瘖啞者ノ行
爲ハ常ニ之ヲ罰セスト雖モ今日ニ在テハ瘖啞者教育ノ方法備ハリ普通ノ智識
ヲ得ル便宜アリテ瘖啞者タリト雖モ多少犯罪ノ責任ヲ辨スル者アルヲ以テ此
等ノ犯罪者ヲ罰スル必要ナシトセス故ニ本案ハ現行法ノ主義ヲ改メ瘖啞者ノ
精神ノ狀況ニ因リ其發達常人ニ近キモノハ之ヲ罰スルモ尙完全ナル人ト云フ

ヲ得サルカ故ニ一般ニ刑ヲ減輕シ全ク責任ヲ辨セサルモノハ之ヲ罰セサルコトト爲シタリ而シテ全ク罰セサル者ニ付テハ現行法ト同シク懲治ノ處分ヲ命スルヲ得ルコトト爲シ其期間ハ之ヲ十年以下ト定メ以テ一面瘡痍者ヲ改良セシコトヲ期スルモノナリ

第五十一條 十四歳ニ滿タサル者ノ行爲ハ之ヲ罰セス但滿八歳以上ノ者ノ行爲ニシテ重罪ニ該ルトキハ情狀ニ因リ十年以下ノ期間懲治ノ處分ヲ命スルコトヲ得

(理由) 本條ハ現行法第七十九條ヲ修正シタルモノニシテ現行法ハ責任年齢ヲ十二歳ト定メ之ニ滿タサル者ノ行爲ハ罪ト爲サストセリ是レ現行法ハ主トシテ古來ノ立法例ヲ襲ヒタルモノニシテ古ハ幼年犯罪者ニ對シ懲治ノ方法充分ナラサルノミナラス刑罰ノ目的モ亦今日ト等シカラサリシヲ以テ極メテ責任年齢ヲ低ク爲シタルモノナリ然リト雖モ近來生理學ノ發達ニ伴ヒ幼者ノ智能ハ此ノ如ク速カニ發育スルモノニ非サルヲ知ルニ至リ從來ノ立法例ニ於ケル責任年齢ノ低キニ失スルヲ非難スル者増加シタルト共ニ幼年犯罪者ヲ懲治スル設備ヲ整ヘ得ルニ至レルヲ以テ本案ハ斷然舊來ノ立法例ヲ破リ責任年齢ヲ高メ之ヲ十四歳ト爲シタリ蓋シ幼年囚ヲ處罰スルモ其利益甚タ少ナク却テ累

犯者ノ幼年囚ニ多キコトハ今日識者ノ一般ニ認ムル所タルヲ以テ本條ノ修正ハ之ヲ濟フニ最モ適切ナルモノト謂フヘシ但現行法ト同シク十四歳ニ滿タサル幼者ニシテ八歳ヲ超ユルトキハ懲治ノ處分ヲ命スルコトヲ得ルコトト爲シ其期間ハ十年以下ト定メ幼年犯罪者ニ懲戒的教育ヲ施スコトトセリ

第五十二條 十四歳以上二十歳ニ滿タサル者ノ行爲ハ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

(理由) 本條ハ現行法第八十條及ヒ第八十一條ヲ合シ之ヲ修正シタルモノニシテ現行法ハ十二歳以上十六歳ニ滿タサル者ノ行爲ハ其是非ヲ辨別シタルト否トニ因リ或ハ其刑ヲ減輕シテ之ヲ罰シ或ハ之ヲ罰セス又十六歳以上二十歳ニ滿タサル者ノ行爲ハ之ヲ罰シ其刑ヲ減輕スト雖トモ之ヲ事實ニ徵スルニ是非ヲ辨別シタルト否トノ區別ヲ爲スハ頗ル困難ニシテ實際ニ於テハ殆ブト凡テノ幼者ヲ處罰スル有様ニシテ其弊ニ堪ヘサルモノアリ加之十六歳以上ノ犯人ニ付キテハ犯罪能力ヲ認メ乍ラ猶ホ必ラス其刑ヲ減輕スルヲ以テ必要ナキ場合ニ於テモ猶ホ減輕ヲ爲ササルヲ得ス其不穩當ナルコト言ヲ竣タス本案ハ既ニ前條ニ於テ學術進歩ノ結果ニ基キ犯罪者ノ責任年齢ヲ充分高度ニ定メタルヲ以テ其年齢ヲ超エ既ニ責任者トナリタル後ハ之ニ對シテハ普通ノ刑ヲ科ス

コトトシ以テ其分界ヲ明ニセリ然レトモ尙ホ未タ幼者タルヲ免レサルヲ以テ
情狀ニ因リ裁判所ヲシテ其刑ヲ減輕スルコトヲ得セシムルコトト爲シタリ

第五十三條 監置又ハ懲治ノ處分ヲ受ケタル者ハ情狀ニ因リ

何時ニテモ行政處分ヲ以テ其執行ヲ免除スルコトヲ得

(理由) 本條ハ新ニ設ケタル規定ナリ修正案ハ行政處分トシテ監置及ヒ懲治ノ
制ヲ設ケ精神病者及ヒ幼年者ニシテ再犯ノ危險アル者ヲ防遏改良センコトヲ
期シタリ此ヲ以テ監置又ハ懲治ニシテ其目的ヲ達スルカ又ハ其他ノ原山ニ因
リ其必要ナキニ至レハ裁判ヲ俟タス情狀ニ因リ行政處分ヲ以テ其執行ヲ免除
スルコトヲ得ル主旨ナリ

第五十四條 罪ヲ犯シ未タ官ニ發覺セサル前自首シタル者ハ

其刑ヲ減輕スルコトヲ得

告訴ヲ待テ論ス可キ罪ニ付キ告訴權ヲ有スル者ニ首服シタ
ル者亦同シ

(理由) 本條第一項ハ現行法第八十五條及ヒ第八十六條ヲ合シ之ニ修正ヲ加ヘ
タルモノニシテ現行法ハ謀殺故殺ニ係ル者ヲ除キ自首シタルモノハ必ラス本
刑ニ一等ヲ減シ又財産ニ對スル罪ヲ犯シタル者ニハ其損害賠償ノ程度ニ因リ

減等ノ度ヲ異ニスルノ規定ヲ設クト雖モ謀殺故殺ニ係ル者ヲ除外スルノ理由
ナシ又自首者ニハ必ラス本刑ニ一等ヲ減スルカ爲メ始メヨリ自首減等ヲ期シ
テ罪ヲ犯スノ恐アルノミナラス損害ヲ賠償スル程度ニ從テ減等ノ度ヲ異ニス
ルカ如キハ其規定細微ニ過キ弊害ヲ生スルノ危險アリ此ヲ以テ本案ハ之ヲ改
メ罪ノ種類ヲ問ハス自首シタル者ハ其刑ヲ減輕スルコトヲ得ルコトト爲シ此
等ノ弊ヲ一掃シ且自首本來ノ目的ヲ達セントスルモノナリ

第二項ハ現行法第八十七條ノ主旨ト精神ヲ同フシタル規定ニシテ現行法ハ財
産ニ對スル罪ニ限リ被害者ニ首服スルコトヲ以テ自首ノ效アリト爲スト雖モ
本案ハ之ト異ナリ告訴ヲ待テ訴訟ス可キ罪ニ限ルコトト爲シタルハ親告罪ノ
性質上頗ル適當ナル規定ナリトス而シテ告訴權ヲ有スル者ニ首服シタル者ヲ
以テ官ニ自首シタル者ト同一ニ看做スハ其間ニ差別ヲ設クルノ必要アラサレ
ハナリ

第四章 未遂罪

(理由) 本章ハ現行法第一編第九章ノ規定ヲ修正シタルモノナリ

第五十五條 犯罪ノ實行ニ著手シ之ヲ遂ケサル者ハ其刑ヲ減

輕スルコトヲ得但自己ノ意思ニ因リ之ヲ止メタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除ス

(理由) 本條第一項ハ現行法第百十二條ヲ修正シタル規定ニシテ現行法ハ犯罪ノ實行ニ著手シタル後意外ノ障礙若クハ舛錯ニ因リテ之ヲ遂ケサルモノヲ以テ未遂罪トナセリ然レトモ一旦犯罪ノ實行ニ著手シタル後ハ犯人意外ノ障礙若クハ舛錯ニ因ルト否トヲ問ハス凡テ之ヲ遂ケサル場合ヲ以テ未遂罪ト爲ス可キモノナリ修正案ハ此主旨ニ基キ犯罪ヲ遂クルノ目的ヲ以テ之ヲ達スルノ手段ヲ行ヒ始メテ之ヲ遂クルコト能ハサルトキハ其原因如何ヲ問ハス凡テ未遂罪ト爲ス主義ヲ採リ彼ノ規行法ノ解釋上所謂著手未遂若クハ缺效未遂ノ區別ヲ認メス又其處分ニ至リテモ必シモ之ヲ減輕セシテ而シテ一ニ情狀ニ因ルコトト爲セリ是レ未遂罪ハ多クハ其結果タル危害既遂罪ニ比シ多少輕キモノアリト雖モ時トシテハ其犯情ノ恕ス可ラサルモノアルヲ以テ其刑ヲ減輕スルト否トハ一ニ裁判所ノ判斷ニ任シタルナリ然レトモ犯罪ノ實行ニ著手シタル後自己ノ意見ニ因リ之ヲ止メタル者ハ社會ニ及ホス害惡少ク且犯情モ亦憫察ス可キ所アルヲ以テ之ヲ罰スル場合ニモ一般ニ減輕スルモノトシ情狀ニ因リ其刑ヲ免除スルコトヲ得セシメ以テ刑ノ適用ニ不權衡ナカラシメタリ若シ此

但書ヲ缺クトキハ管ニ刑ノ不權衡ヲ來タスノミナラス一旦犯罪ノ實行ニ著手シタル後ハ自己ノ意思ニ因リ之ヲ中止シタルトキト雖モ猶ホ未遂罪ト爲ルヲ以テ或ハ已ニ犯罪ノ實行ニ著手シタルモノハ決シテ之ヲ中止スルコトナク常ニ遂行スルノ虞ナシトセシテ是レ修正案ニ於テ此但書ヲ加ヘタル所以ナリ

第五十六條 未遂罪ヲ罰スル場合ハ各本條ニ於テ之ヲ定ム

(理由) 本條ハ現行法第百十三條ヲ修正シタルモノナリ現行法ハ凡テ重罪ノ未遂犯ハ之ヲ罰スルコトトナセトモ其重罪中未遂犯ヲ構成スルコト能ハサルモノアルヲ以テ此ノ如キ規定ハ事理ニ反スルノミナラス又廣キニ失スルノ弊アリ是ヲ以テ修正案ハ現行法ノ第二項ト同一ノ主旨ニヨリ特ニ未遂犯罪トシテ罰スヘキ場合ハ各本條ニ於テ規定スルコトト爲シタルナリ

第五章 併合罪

(理由) 本章ハ現行法第一編第七章數罪併發ノ規定ヲ修正シタルモノナリ數罪併發ノ名ヲ改メ併合罪ト爲シタルハ確定裁判ヲ經サル數罪ハ必スシモ併ニ發覺スルコトナク一罪既ニ確定裁判ヲ經タル後他ノ一罪ノ發覺スル場合ナキニ非ス此等ノ場合ニ於テ數罪併發ノ名稱ハ稍穩當ヲ缺クノ嫌アリ又本案第

五十七條ニ在ルカ如ク確定裁判前ノ數罪ハ其發覺時期ノ前後如何ヲ問ハス常ニ併合シテ之ヲ處斷スルヲ以テ寧ロ併合罪ト名ツクルノ勝レルニ加カサルナリ然レトモ併合罪ト稱スルモ各罪ヲ併合シテ新ニ一罪トナスニ非スシテ各罪ハ尙ホ獨立シテ存在シ唯之ヲ併合シテ處斷スルノ義ナリ

現行法ハ數罪俱發ノ場合ニ於テ違警罪ヲ除ク外ハ所謂吸收主義ニ因リ數箇ノ犯罪中一ノ重ニ從テ處斷スル主義ヲ採レリ此ヲ以テ一度罪ヲ犯シタル者ハ其裁判確定ニ至ルマテハ之レト同等若クハ輕キ罪ハ幾度之ヲ犯スト雖モ後ノ犯罪ニ對スル刑ハ常ニ第一ノ犯罪ニ對スル刑ニ吸收セラレ後ノ犯罪ハ全ク處罰ヲ受クルコトナキ結果ニ至ル加之一罪ヲ犯シタルモノト數罪ヲ犯シタルモノトハ常ニ同一ノ刑ヲ以テ處斷セララルルニ至リ頗ル不當ノ結果ヲ來タスヲ以テ修正案ハ此主義ヲ排斥シ所謂併科主義ヲ採リ一罪毎ニ各々其刑ヲ科スルコトヲ原則ト爲シタリ但死刑又ハ無期徒刑ニ當ル罪ト他ノ罪ト併發スルトキハ事實上各罪ニ對シテ各刑ヲ併科シ得可カラサルモノアルヲ以テ此場合ニハ例外トシテ或刑ニ付キテハ吸收主義ヲ採リ又有期ノ自由刑ニ付キ各犯罪毎ニ一ノ刑ヲ科スルトスレハ遂ニハ其刑期數十年ノ長キニ至ルノ虞アルヲ以テ此場合ニモ例外トシテ制限併科ノ主義ヲ採リタリ

第五十七條

確定裁判ヲ經サル數罪ヲ併合罪トス若シ或罪ニ付キ確定裁判アリタルトキハ止々其罪ト其裁判確定前ニ犯シタル罪トヲ併合罪トス

(理由) 本條ハ併合罪トシテ處斷ス可キ場合ヲ示シタルモノニシテ確定裁判ヲ經サル數罪ハ併合罪トシ若シ數罪中ノ或罪ニ付キ確定裁判アリタルトキハ止々其罪ト其裁判確定前ニ犯シタル罪トヲ併合罪トスルコトヲ規定シタルモノナリ

第五十八條

併合罪中其一罪ニ付キ死刑ニ處ス可キトキハ他ノ刑ヲ科セス但公權剝奪及ヒ沒收ハ此限ニ在ラス

其一罪ニ付キ無期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス可キトキ亦他ノ刑ヲ科セス但罰金、科料、公權剝奪及ヒ沒收ハ此限ニ在ラス

(理由) 前ニ舉ケタル如ク修正案ハ併合罪ノ場合ニ於テ各罪ニ付キ其刑ヲ併科スル主義ヲ採レトモ若シ一罪ニ付キ死刑ヲ科ス可キ場合ニハ他ノ刑ヲ科シ得サルコトアリ故ニ公權剝奪及ヒ沒收ヲ除クノ外ハ他ノ刑ヲ科セサルヲ規定セリ若シ又一罪ニ付キ無期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス可キトキモ之ト同一ノ理由ニテ罰金、科料、公權剝奪及ヒ沒收ノ外ハ他ノ刑ヲ科セサルコトヲ規定シタリ是

レ死刑ニ處セラレタルモノト雖モ其執行ヲ了ハルマテハ公權剝奪ヲ科スルコトヲ得ヘク沒收ハ被告人ノ身體ニ關係ナクシテ之ヲ執行シ得ヘシ又無期刑ニ處セラレタルモノト雖モ公權剝奪ハ之ヲ併科スルニ差支ナク罰金、科料及沒收ハ共ニ被告人ノ財産ヨリ徵收スルモノナレハ是亦併科スルニ差支ナケレハナリ

第五十九條

併合罪中二個以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮アルトキハ最も重キ罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノヲ以テ長期トス但各罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ヲ合算シタルモノニ超ユルコトヲ得ス

(理由) 本條ハ二個以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ科ス可キ場合ニシテ前ニ述ヘタル如ク制限併科ノ主義ヲ採リタルモノナリ其制限ノ程度ハ本條ノ定ムル所タリ乃チ併合罪中最モ重キ罪ニ對スル刑ノ長期ニ其半ヲ加ヘタルモノヲ以テ併合罪ニ對スル刑ノ長期ト爲スチ原則トス然レトモ併合罪中一ノ最も重キ罪ニ對スル刑ト他ノ罪ノ刑ヲ加フルトキハ其重キ刑ニ之カ半ヲ加ヘタルモノヨリ長キトキハ但書ノ規定ニヨリ併合罪ノ刑期ハ其各罪ノ長期ヲ加ヘタルモノニ超過スルコトヲ得サルモノトス是レ此ノ如ク規定セザレハ却テ制限併科ノ

主旨ニ反シ各刑ヲ併科シタルヨリ重キ刑ヲ科スルニ至ルヘクレハナリ

第六十條

罰金ト他ノ刑トハ之ヲ併科ス但第五十八條第一項ノ場合ハ此限ニ在ラス
二個以上ノ罰金ハ各罪ニ付キ定メタル罰金ノ合算額以下ニ於テ處斷ス

(理由) 修正案ハ刑ノ性質上併科シ得可キモノハ成ル可ク之ヲ併科スル主義ヲ採リタルヲ以テ罰金ノ如キハ他ノ刑ト併科スルコトヲ原則トセリ但本案第五十八條第一項ノ如ク死刑ヲ科ス可キ場合ハ之ヲ例外ト爲シタリ
本條第二項ハ二個以上ノ罰金ヲ科ス可キトキハ其罰金ノ合算額以下ニ於テ處斷スルコトヲ規定シタルモノナリ本項ノ規定モ亦併科主義ヲ採リシモノナリ即チ各罪ニ付キ定メタル罰金ノ範圍内ニ於テ處斷シタル罰金額ヲ合算スルモ各罪ニ付キ定メタル罰金額ヲ合算シタル範圍内ニ於テ其罪ヲ處斷スルモ理ニ於テ異ナル所ナシ但罰金額ノ範圍廣クシテ自由ニ之ヲ酌量シ得ルノ便宜ヲ存スルノ優レルアルノミ

第六十一條

併合罪中重キ罪ニ附加刑ナシト雖モ他ノ罪ニ附加刑アルトキハ之ヲ附加ス但第五十八條ノ適用ヲ妨ケス

二個以上ノ公權剝奪アルトキハ其期限ノ最モ長キモノヲ附加シ二個以上ノ監視アルトキハ單ニ其一個ヲ附加ス
二個以上ノ沒收ハ之ヲ併科ス

(理由) 本條ハ併合罪ニ關スル附加刑ノ規定トス

第一項ハ併合罪中其重キ罪ニ附加刑ヲシト雖モ其他ノ罪ニ附加刑アルトキハ其附加刑ヲ科スコトヲ規定セルモノトス但書ハ第五十八條ノ場合ヲ除外スル主旨ニシテ當然ノ規定トス

第二項ハ二箇以上ノ公權剝奪アルトキハ之ヲ併科スルノ必要ナキヲ以テ吸收主義ニ因リ其期限ノ長キモノノミヲ科シ二箇以上ノ監視アルトキモ亦之ト同様ノ規定ニ從ハシムルモノトス

第三項ハ二箇以上ノ沒收アル場合ニシテ沒收ハ公權剝奪及ヒ監視ト異ナリ特ニ或ル物件ヲ沒收スルノ必要アルモノナルヲ以テ常ニ之ヲ併科スルコトヲ規定シタルモノナリ

第六十二條 併合罪中既ニ裁判ヲ經タル罪ト未タ裁判ヲ經サル罪トアルトキハ更ニ裁判ヲ經サル罪ニ付キ處斷ス
(理由) 本條ハ併合罪中或罪ハ既ニ裁判ヲ經或罪ハ未タ裁判ヲ經サル場合ニ於

テハ未タ裁判ヲ經サル罪ノ刑ヲ定ムルコトヲ規定シタルモノニシテ其執行方法ハ次條ニ規定セリ

第六十三條 併合罪ニ付キ二個以上ノ裁判アリタルトキハ其刑ヲ併セテ之ヲ執行ス但死刑ヲ執行ス可キトキハ公權剝奪及ヒ沒收ヲ除ク外他ノ刑ヲ執行セス無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ執行ス可キトキハ罰金科料公權剝奪及ヒ沒收ヲ除ク外他ノ刑ヲ執行セス有期ノ懲役又ハ禁錮ノ執行ハ其最モ重キ罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノニ超ユルコトヲ得ス

公權剝奪及ヒ監視ハ其期限ノ最モ長キモノヲ執行ス
(理由) 本條ハ併合罪ニ付キ二箇以上ノ裁判アリタル場合ノ規定ニシテ各裁判ニ對シ其刑ヲ併セ執行スルコトヲ原則トス然レトモ場合ニ依リ刑ノ性質上併セテ執行スルコトヲ得サルコトアリ即チ一罪死刑ニ該ルトキハ公權剝奪及ヒ沒收以外ノ刑ハ之ヲ執行セス又無期刑ヲ執行ス可キトキハ罰金科料公權剝奪及ヒ沒收ノ外他ノ刑ヲ執行セス又有期刑ヲ併セテ執行ス可キ場合ニハ其刑期ノ合計カ其最モ重キ罪ノ刑期ニ其半ヲ加ヘタルモノニ超過ス可ラサルコトヲ

規定ス是皆執行官ニ於テ遵據スヘキ標準ヲ示スモノナリ
第二項ハ第六十一條第二項ノ適用ニ關シ其方法ヲ示スモノナリ

第六十四條 併合罪ニ付キ處斷セラレタル者或罪ニ付キ大赦ヲ受ケタル場合ニ於テハ特ニ大赦ヲ受ケサル罪ニ付キ刑ヲ定ム

(理由) 本條ハ併合罪ニ付キ處斷セラレタル者カ併合罪中ノ或罪ニ付キ大赦ヲ受ケタル場合ノ規定ナリ大赦ハ其效力トシテ其罪ニ付テハ裁判ノ效力全ク消滅スルモノナルヲ以テ他ノ罪ニ付テハ獨立ニ一ノ刑ヲ科スルノ必要アリ故ニ大赦ヲ受ケサル罪ニ付キ別ニ刑ヲ科スルコトトナシ以テ現行法ノ不備ヲ補ヘリ

第六十五條 輕罪ノ刑ト他ノ刑トハ之ヲ併科ス但第五十八條ノ場合ハ此限ニ在ラス

二個以上ノ輕罪ノ刑ハ之ヲ併科ス

(理由) 本條ハ輕罪ノ刑ハ他ノ重罪又ハ輕罪ノ刑ト凡テ之ヲ併科スルコトヲ規定シタリ現行法ハ違警罪ノ刑ハ之ヲ併科シ重罪輕罪ト共ニ發スルトキハ一ノ重キニ從フト規定セルヲ以テ修正案ハ輕罪併發ノ場合ハ現行法ノ違警罪併發場合ト同一主義ヲ取り輕罪カ他ノ重罪ト共ニ發シタル場合ニハ現行法ノ吸

收主義ヲ改メ併科主義ヲ採リタルモノナリ又本條但書ハ第五十八條ノ規定ヨリ生スル當然ノ結果ナリトス

第六十六條 一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸レ又ハ犯罪ノ手段若クハ結果タル行爲ニシテ他ノ罪名ニ觸ルルトキハ其最モ重キ刑ヲ以テ處斷ス

第六十一條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス

(理由) 本條ハ學說ニ所謂想像上ノ數罪俱發ト稱スル場合及ヒ相牽連スル犯罪ニ關スル規定ナリ現行法ニ於テハ本條ノ規定ヲ缺クカ爲メニ解釋上頗ル疑義ヲ生スルコトアルヲ以テ修正案ニ於テハ新ニ本條ヲ設ケ以テ之ヲ明ニセリ本條ハ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルル場合及ヒ或罪カ他ノ罪ノ手段若クハ結果ニ過キサル場合ニ在テハ其刑ヲ併科スルノ必要ナキヲ以テ其罪名中最モ重キ刑ヲ科スルコトトシ特ニ吸收主義ヲ採リタルモノナリ

第六十七條 連續シタル數個ノ行爲ニシテ同一ノ罪名ニ觸ルルトキハ一罪トシテ之ヲ處斷ス

(理由) 本條ハ所謂連續犯ト稱スル場合ノ規定ニシテ亦現行法ニ規定ナキ爲メ往々爭議ヲ生シタルモノナリ本條ハ連續シタル數箇ノ行爲カ同一ノ罪名ニ觸

ルルトキハ之ヲ數罪トシテ處斷スルノ必要ナシト認メ一罪トシテ處斷スルコトヲ明ニシ從來ノ疑義ヲ避ケタルモノトス

第六章 再犯

(理由) 本章ハ現行法第一編第五章ノ規定ヲ修正シタルモノニシテ其修正ノ要點ハ

- 一 現行法ハ罪ノ性質輕重ヲ問ハス一般ニ再犯ノ規定ヲ設ケ先ニ重罪ノ刑ニ處セラレタルモノノ再犯重罪輕罪ニ該ルトキ又ハ先ニ重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタルモノノ再犯輕罪ニ該ルトキ及ヒ先ニ違警罪ノ刑ニ處セラレタルモノノ再犯違警罪ニ該ルトキハ常ニ再犯例ヲ適用スルコトトナシタルカ爲メ其場合廣キニ失シ一方ニハ無用ノ加重ヲ爲シ他ノ一方ニハ無効ノ加重ヲ爲スコト多シ此ヲ以テ修正案ハ犯罪ノ性質ニ因リ區別シ主トシテ累犯ノ虞アルモノニ付テノミ再犯例ヲ適用スルコトト爲シタリ
- 二 現行法ハ再犯ト初犯トノ間ノ日數ニ付キ重罪輕罪ニ關シテ何等ノ制限ナク初犯後數十年ヲ經タル後ト雖モ更ニ犯罪アレハ之ヲ再犯ト爲セリ是レ犯人ニ對シ酷ニ失スルモノニシテ再犯加重ヲ爲ス所以ノ趣旨ニ添ハサルモノ

トス特ニ再犯ハ初犯後久シカテサル期限内ニ於テ最モ多ク發生スルカ故此點ニ對シテハ一ノ制限ヲ設ケ後初犯或年限内ニ非サレハ再犯例ヲ適用セサルコトト爲セリ

第六十八條

懲役ニ處セラレタル者其執行ヲ終リ又ハ執行ノ

免除アリタル日ヨリ十年内ニ更ニ有期懲役ニ該ル罪ヲ犯シ

タルトキハ之ヲ再犯トス

懲役ニ該ル罪ト同質ノ罪ニ因リ死刑ニ處セラレタル者其執行ノ免除アリタル日ヨリ又ハ減刑ニ因リ懲役ニ減輕セラレ

其執行ヲ終リ若クハ執行ノ免除アリタル日ヨリ前項ノ期間

内ニ更ニ有期懲役ニ該ル罪ヲ犯シタルトキ亦同シ

併合罪ニ付キ處斷セラレタル者其併合罪中懲役ニ該ル罪ア

リタルトキハ其罪最重ノモノニ非スト雖モ再犯例ノ適用ニ

付テハ懲役ニ處セラレタル者ト看做ス

(理由) 本章ノ始メニ擧クタル如ク本條ハ特ニ犯罪ノ性質ニ因リ再犯例ヲ適用ス可キコトヲ規定シ又初犯後其刑ノ執行ヲ終リ又ハ其免除アリタル日ヨリ十年内ニ更ニ有期懲役ニ該ル罪ヲ犯シタル場合ニ限り再犯例ヲ適用ス可キコト

ヲ規定シタルモノニシテ必スシモ同種類ノ犯罪タルコトヲ必要トセス又再犯例ヲ適用ス可キ期限ヲ定ムルニ付テハ或ハ初犯ノ裁判確定ヨリ起算シ若干年ト爲ス立法例アリト雖モ修正案ハ裁判ノ確定ノミニテハ未タ犯人ノ再犯ヲ防クニ足ル可キ實效ナキモノトシ其裁判ノ執行ヲ終ルカ若クハ其裁判ノ執行ノ免除ヲ受ク充分ニ裁判ノ實效ヲ生ス可シト認メタル時期ヨリ起算スルコトトシ其期間ヲ斟酌シ十年ト定メタルモノナリ

本條第一項ニ於テハ初犯ハ懲役ニ限ルト雖モ懲役ニ該ル罪ト同質ノ罪ニ因リ死刑ニ處セラレ其執行ノ免除ヲ得タル者若クハ死刑ヨリ懲役ニ減輕セラレタル者ニ付キテハ尙ホ一層之カ再犯ニ付キ加重ス可キ必要アリ此ヲ以テ此等ノ者カ本條第一項ノ期間内ニ更ニ有期懲役ニ該ル罪ヲ犯セハ之ニ再犯例ヲ適用セサル可カラス是レ本條第二項ノ規定アル所以ナリ

本條第三項ハ修正案ニ於テ併合罪ニ付キ併科主義ヲ採用シタルノ結果各罪ハ獨立シテ存在スルカ故ニ再犯例ノ適用上必然ノ規定ナリ

第六十九條 再犯ノ刑ハ其罪ニ付キ法律ニ定メタル懲役ノ長期ノ二倍トス

(理由) 現行法ハ再犯ノ刑ハ初犯ノ刑ニ一等ヲ加フト定メタリ然レトモ其結果

ハ重罪ニ付テハ多クモ三年ヲ超ユルコトナク輕罪違警罪ニ付テハ刑期又ハ罰金額ノ四分一ヲ加重スルニ過キス而シテ第九十八條ノ規定ニ因リ三犯以上ノ場合ト雖モ之ト異ナルコトナキカ爲メ一般ニ加重ノ分量輕キニ失シ現時累犯者ノ増加スルコト夥シク再犯ヲ防遏スルノ精神ハ殆ント其目的ヲ達スルヲ得ス是レ現行法ノ改正ヲ要スル一大缺點ナリ此ヲ以テ修正案ハ加重ノ分量ヲ増加シ法律ニ定メタル刑期ノ二倍ヲ以テ再犯ノ刑期ト定メタリ

第七十條 裁判確定後再犯者タルコトヲ發見シタルトキハ前條ノ規定ニ從ヒ加重ス可キ刑ヲ定ム

懲役ノ執行ヲ終リ又ハ其執行ノ免除アリタル者ニ付テハ前項ノ規定ヲ適用セス

(理由) 現行法ハ再犯加重ノ分量輕キニ過キ再犯ヲ防遏スルニ足ラサルニモ拘ラス被告人ハ尙ホ其加重ヲ免レント計リ初犯ヲ隱蔽スルヲ以テ之ヲ發見スルコト容易ナラス修正案ニ於テハ加重ノ分量更ニ大ニナリタレハ勢ヒ初犯ヲ隱蔽スルモノノ非常ニ増加ス可キハ豫見シ得可キコトタリ然ルニ現行法ニ於テハ裁判ノ當時ニ於テ再犯者タルコト發見セラレザルトキハ一旦裁判ヲ受ケタル後ニ至リ縱令再犯者タルコト發覺スルモ其刑期ハ之ヲ變更シ得可カラサル

ヲ以テ被告人ハ其裁判ノ時ニ當リテ争フテ其再犯者タルコトヲ隠蔽シ僥倖ヲ得ンコトヲ企ツルアリ此ヲ以テ修正案ハ一旦裁判ヲ受ケタル後ト雖モ再犯者タルコトヲ發覺スルニ至レハ更ニ刑ヲ加重スルコトヲ規定シタルモノナリ

第七十一條 三犯以上ノ者ト雖モ仍ホ再犯ノ例ニ同シ

(理由) 本條ハ現行法第九十八條ト其主旨ヲ同フス修正案ハ已ニ再犯ノ場合ニ充分ノ加重ヲ爲シ得ル範圍ヲ設ケタルヲ以テ三犯以上ト雖モ特別ノ加重例ヲ設ケル必要ヲ認メス

第七章 共犯

(理由) 本章ハ現行法第一編第八章數人共犯ノ規定ヲ補修シタルモノニシテ主トシテ現行法ノ不備ヲ補ヒタルニ止リ主旨ニ於テ變更ヲ加ヘタル所少ナシ

第七十二條 一人以上共同シテ犯罪ヲ實行シタル者ハ皆正犯トス

(理由) 本條ハ現行法第四百條ノ規定ト同一ニシテ唯文字ヲ修正シタルニ止マリ現行法ハ現ニナル文字ヲ以テ實行正犯ノ意義ヲ明ニシタレトモ其意義多少狹キニ失スルノ嫌ナキニアラサルヲ以テ之ヲ修正シテ共同シテナル文字ヲ用

ヒタリ現行法ハ又各自ニ其刑ヲ科スト規定スレトモ既ニ法律ニ於テ各正犯ト規定シタル上ハ各自正犯トシテ其刑ヲ科セラルルコトハ明文ヲ要セサルヨリ修正案ハ此一句ヲ删除セリ

第七十三條 人ヲ教唆シテ犯罪ヲ實行セシメタル者ハ正犯ニ準ス

教唆者ヲ教唆シタル者亦同シ

(理由) 本條第一項ハ現行法第一百五條ト同一ノ規定ニシテ所謂實行正犯ナル者ヲ教唆シタル場合ノ規定トス現行法ハ前條ト同シク文字稍不明ナルノ虞アルヲ以テ之ヲ修正セリ現行法ハ又教唆者ヲ正犯ト爲スト規定スレトモ修正案ハ正犯ニ準スト改メタリ是レ教唆者ハ實行正犯ニ非サルモ其責任ニ於テハ正犯ト同一ナルコトヲ明ニスルモノナリ

第二項ハ新ニ設ケタル規定ニシテ實行正犯ノミナラス教唆者ヲ教唆シタル者ヲモ亦之ヲ罰スルモノナリ現行法ニ於テ此規定ナキカ爲メ實際上往々不良ノ徒ヲ免レシメタルコトナキニアラス修正案ハ此理由ニ因リ教唆者ヲ教唆シタル者モ亦實行正犯ヲ教唆シタルモノト同シク准正犯ト爲スコトヲ規定シタルナリ

第七十四條 正犯ヲ幫助シタル者ハ從犯トス

(理由) 本條ハ現行法第九九條ト同一ノ規定ナリ現行法ハ幫助ニ付テノ方法ヲ列舉シタルモ是レ唯例示ニ過キスシテ何等ノ實益アルコトナシ是ヲ以テ修正案ハ別段其方法ヲ示サス苟モ正犯ヲ幫助シタル者ハ凡テ之ヲ從犯ト爲スコトトセリ然レトモ廣ク學說ニ所謂事後從犯ノ如キ者ヲモ包含セシムルノ主旨ニ非スシテ現行法ト同シク事前ノ從犯ノミニ限ルモノトス只其幫助ノ方法ニ付キ現行法ノ如ク制限セサルノミナリ

第七十五條 從犯ノ刑ハ正犯ノ刑ニ照シテ減輕ス

(理由) 本條ハ現行法第九九條ト同シク從犯ノ刑ハ正犯ノ刑ヨリ之ヲ減輕スルコトヲ規定シタルモノナリ蓋シ從犯ハ正犯ト異ナリ犯罪ノ成立ヲ幫助シタルニ止マリ其情狀ニ於テ大ニ正犯ヨリ輕キ所アリ之ト同一ノ刑ニ處スルハ重キニ失スルヲ以テナリ

第七十六條 輕罪ノ教唆者及ヒ從犯ハ別段ノ規定アルニ非サレハ之ヲ罰セス

(理由) 本條ハ修正案ニ於テ輕罪ハ罪質輕微ニシテ重罪ト全ク其性質ヲ異ニシ處罰ノ方法モ之ト別段ノ規定ヲ設ケタルノ精神ニ依リ輕罪ノ教唆者及ヒ從犯

ハ罪質更ニ輕微ニシテ一般ニ之ヲ處罰スルノ必要ナク其特ニ必要アルモノハ各本條ノ規定ニ讓ルノ趣旨ニ出テタルモノナリ

第七十七條 犯人ノ身分ニ因リ構成ス可キ罪ヲ共ニ犯シタル

トキハ其身分ナキ者ト雖モ仍ホ共犯トス

身分ニ因リ特ニ刑ノ輕重アルトキハ其身分ナキ者ニハ通常ノ刑ヲ科ス

(理由) 本條第一項ハ新ニ設ケタル規定ナリ現行法ニ於テハ此場合ニ關スル規定ナキカ爲メ學說ニ派ニ分レ一ハ之ヲ以テ共犯ニ非スト爲セトモ修正案ハ第二ノ主義ヲ採リ身分ナキ者カ身分アル者ト共ニ身分ニヨリ構成ス可キ罪ヲ犯シタルトキハ之ヲ共犯ト爲スコトトセリ
第二項ハ現行法第六六條及ヒ第一百十條ト同一ノ規定ニシテ現行法ニハ減輕ノ場合ニ關スル規定不備ナルヲ以テ之ヲ補充シタルノミナリ

第八章 酌量減輕

(理由) 本章ハ現行法第一編第四章第三節ノ規定ト其趣旨ヲ同フス修正案ハ現行法ノ刑ノ範圍ノ狹キニ失シ實際上刑ノ權衡ヲ失スルノ弊ヲ避クルカ爲メ刑

ノ範圍ヲ闊クスルコトヲ目的トナシ各本條ニ於テ各罪ニ對スル刑ノ範圍ヲ廣クシテ情狀ニ因リ裁判所ヲシテ自由ニ適宜ノ刑ヲ定メシムルコトトナセリ然レトモ尙ホ或ル場合ニ依リテハ情狀極テ刑罰ノ重ニ失スルコトヲシトセス此ヲ以テ更ニ酌量減輕ヲ設ク適當ノ刑ヲ科セシメンコトヲ欲シ本章ノ規定ヲ存シタルナリ

第七十八條 犯罪ノ情狀憫諒ス可キモノハ酌量シテ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

(理由) 本條ハ現行法第八十九條第一項ト其趣旨ヲ同シクス

第七十九條 法律ニ於テ刑ヲ加重シ又ハ減輕ス可キモノト雖モ仍ホ酌量減輕ヲ爲スコトヲ得

(理由) 本條ハ現行法第八十九條第二項ト其趣旨ヲ同シクス

第九章 加減例

(理由) 本章ハ現行法第一編第三章加減例及ヒ第六章加減順序ノ二章ヲ合シ之ニ修正ヲ加ヘタルモノナリ

第八十條 法律上刑ヲ減輕ス可キ一個又ハ數個ノ原由アルト

キハ左ノ例ニ從テ之ヲ減輕ス

- 一 死刑ヲ減輕ス可キトキハ無期又ハ五年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ處ス
- 二 無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ減輕ス可キトキハ三年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
- 三 有期ノ懲役又ハ禁錮若クハ拘留ヲ減輕ス可キトキハ其長期ノ三分ノ二以下ニ處ス但各本條ニ於テ特ニ短期ヲ定メタル場合ニ於テハ其三分ノ二ヲ減シタルモノヲ以テ短期トス
- 四 罰金、科料ヲ減輕ス可キトキハ其多額ノ三分ノ二以下ニ處ス

(理由) 本條ハ所謂法律上ノ減輕ノ場合ニ該當スルモノナリ修正案ハ刑名ヲ減少シ其範圍ヲ廣大ニシタル結果トシテ減輕ノ分量ヲ定ムル方法モ亦全ク現行法ト異ナラサルヲ得ス現行法ハ第六十六條以下ニ於テ之カ爲メ詳細ナル規定ヲ設クト雖モ本條ハ全ク之ヲ廢シ新ナル規定ヲ設クタリ但本條ニ於テハ唯法律上ノ減輕ノ場合ニ關シテノミ之ヲ規定シ法律上ノ加重ノ場合ニ關スル規定

ヲ設クサルハ其場合タル再犯若クハ併合罪ノ章ニ於テ既ニ之ヲ定メタルヲ以テナリ

又現行法ハ刑ノ種類ヲ細別シ多クノ階級ヲ設ク加減ノ原因數個アル場合ニ於テハ一箇毎ニ之ヲ計算シテ加減スルコトト爲スト雖モ修正案ハ前ニ擧ケタル如ク刑ノ範圍極テ大ナルヲ以テ之ヲ減輕スル結果ハ又頗ル刑ヲ輕クスルコトトナル此ヲ以テ縱令數個ノ減輕ノ原因アルトキト雖モ合シテ一トナシ一度刑ヲ減輕スルニ止ム是レ修正ヨリ生スル必然ノ規定ニシテ現行法ニ比シ敢テ減輕ノ利益ヲ縮少スルニ非ス但酌量減輕ノミハ第七十九條ニ規定スル如ク他ノ原因ト分離シ別ニ減輕スルモノニシテ其方法順序ハ後條ニ於テ示スカ如シ而シテ本條第一號乃至第四號ハ實際ニ於テ適宜ノ範圍ニ減輕ヲ施スノ標準ヲ示スモノナリ

第八十一條 法律上刑ヲ減輕ス可キ場合ニ於テ各本條ニ二個以上ノ刑名アルトキハ先ツ適用ス可キ刑ヲ定メ其刑ヲ減輕ス

(理由) 修正案ハ刑ノ範圍ヲ廣クシ裁判所ノ自由ニ任カセントスル場合多キヲ以テ各本條ニ於テ二個以上ノ刑名ヲ設ク裁判所ヲシテ其一ヲ擇ハシムルモノ

アリ此場合ニ於テ法律上ノ減輕ヲ施ス方法ヲ規定シタルモノナリ

第八十二條 酌量減輕ヲ爲ス可キトキハ左ノ例ニ依ル

- 一 死刑ヲ減輕ス可キトキハ無期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
- 二 無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ減輕ス可キトキハ三年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
- 三 有期ノ懲役又ハ禁錮ニ短期アルモノヲ減輕ス可キトキハ其短期以下ニ處ス

(理由) 本條ニ於テハ酌量減輕ノ分量ヲ定ム現行法第九十條ハ修正案第八十條ニ述ヘタル所ト同一ノ理由ニ基キ之ヲ採用セシテ新ニ規定ヲ設ケタリ此制度ハ第七十九條ニ掲ケタル如ク法律上ノ減輕ニ拘ラス更ニ酌量シテ減輕スルモノニシテ法律上減輕シタル刑ノ範圍カ尙ホ犯罪ニ比シ重キニ失スル場合ニ適用スル趣旨ナリ此等ノ場合ニ於テ有期ノ自由刑罰金又ハ科料ニ短期若クハ低額ノ定ナキモノニ付テハ酌量減輕ハ事實上無用ノ長物ニ屬スルヲ以テ本條ニ於テハ減輕シテ他ノ輕キ刑若クハ短期以下ニ處シ得可キ場合ニ關スル規定ナリ

第八十三條 附加刑ハ加重減輕セス

(理由) 現行法ハ其第七十四條ニ於テ附加刑ハ罰金ノ外加減セサルコトヲ規定セリ本案ハ附加ノ罰金ヲ廢シタルヲ以テ本條ハ現行法ト全ク同一主旨ノ規定ナリ乃チ公權剝奪、監視及ヒ沒收ハ常ニ加減セサルコトヲ示シタルモノトス

第八十四條 同時ニ刑ヲ加重減輕ス可キトキハ左ノ順序ニ依ル

- 一 再犯加重
- 二 法律上ノ減輕
- 三 併合罪ノ加重
- 四 酌量減輕

(理由) 本條ハ現行法ニ謂ユル加減順序ノ規定ニ該當スルモノニシテ前數條ニ於テ現行法ヲ改正シタルト同一ノ理由ニ因リ本條ニ於テモ新ニ其順序ニ付キ規定ヲ設ケタリ而シテ此順序ヲ定ムルニ付キ再犯加重ヲ先ニシタルハ若シ犯罪中再犯ノモノアレハ其刑期ハ法律ニヨリ本刑ノ二倍トナルコトヲ定メアルヲ以テ之ヲ第一ニ置クノ必要アレハナリ次ニ法律上ノ減輕ヲ置キタルハ此減輕ハ亦各場合ニ於テ各犯罪ニ付キ減輕ス可ク併合罪ヲ第三トナシタルハ前二ツノ加減例ニ依リ各罪ニ件キ一旦刑ヲ定メ然ル後併合罪ノ規定ニ依リ刑ヲ定

ムルノ必要アルニ因ル最後ニ酌量減輕ヲ置キタルハ其裁判所ノ任意ニ出テ法律ノ規定ニ因ル加重減輕ニ先ス可キ性質ノモノニアラサレハナリ

第八十五條 有期ノ懲役又ハ禁錮ハ加重シテ二十五年ヲ超ユルコトヲ得ス

(理由) 修正案ニ於テハ再犯若シハ併合罪ノ場合ニ於テ刑ヲ加重スルコト現行法ノ比ニアラス因リテ以テ再犯ヲ防遏シ且數罪ヲ犯スコトヲ止メント欲ス然リト雖モ此等ノ加重ノ結果トシテ有期ノ自由刑ハ終ニ數十年ニ達シ殆ント無期刑ト異ナルコト無キニ至ルノ虞アリ是ヲ以テ本條ニ於テハ其弊ヲ矯正セント欲シ縱令有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ加重スルモ二十五年ヲ超過スルコトヲ得サルコトト定メタルナリ

第二編 罪

(理由) 本編ハ各種ノ犯罪及ヒ之ニ對スル刑罰ニ關スル規定ニシテ現行法第二編第三編及ヒ第四編ヲ修正補充シタルモノナリ今左ニ其主要ナル點ヲ擧ケテ之カ理由ヲ説明ス可シ

現行法ハ第二編ニ於テ公益ニ關スル重罪、輕罪ヲ規定シ第三編ニ於テ身體、財產

ニ關スル重罪、輕罪ヲ規定セリ然レトモ此區別ハ刑法編纂上實益無キノミナラス却テ往々疑義ヲ生スルノ虞アルヲ以テ修正案ハ斯カル區別ヲ廢セリ又現行法ハ違警罪ノ爲メニ第四編ヲ設ケタルモ修正案ハ之ヲ廢シタリ修正案ノ輕罪(現行法ノ違警罪)ハ多クハ地方ノ情況若ハ時ノ必要ニ因リ規定ス可キモノナルヲ以テ本案ハ現行法ノ違警罪中刑法ニ規定ス可キモノハ輕罪トシテ之ヲ第二編ニ收メ重罪ト共ニ罪ノ種類ニ從テ之ヲ各章節ニ配シ其他ハ悉ク特別ノ規定ニ讓ルコトト爲シタリ

現行法ノ罪名中他ノ法令ト相俟ツテ行ハル可キモノ少カラス此等ノ規定ハ實際上極メテ不便ナルノミナラス往々他ノ法令ノ罰則ト抵觸シ又ハ重複シテ解釋上ノ困難ヲ見ルコト甚ク少ナシトセス是ヲ以テ修正案ハ他ノ法令ト相俟ツ可キモノハ成ル可ク之ヲ特別法ニ讓ルノ目的ヲ以テ罪名ヲ減少シタリ現行法ハ重罪、輕罪ノ區別ヲ爲シ數多ノ罪名ヲ設ケ特ニ刑ノ範圍極メテ狹隘ナルカ故ニ裁判所ハ之カ適用ヲ爲スニ當リ其自由ヲ伸暢スルコト能ハス遂ニ情狀ノ輕キ罪ニモ過重ノ刑ヲ科シ其重キモノニモ失輕ノ刑ヲ科スルノ止ムヲ得サルニ至リ今日此點ニ於テ最モ多クノ弊害ヲ生ス修正案ハ弊害ヲ矯メ各罪ニ付キ成ル可ク刑ノ範圍ヲ廣メ罪ノ情狀ハ一ニ之ヲ裁判所ノ認定ニ任シ以テ力

メテ罪狀刑罰ノ權衡ヲ保タシメシムコトヲ期セリ是ヲ以テ或ハ刑ノ最低量ヲ定ムルコトヲ止メ或ハ擇一刑ノ種類ヲ多クシ裁判所ヲシテ成ル可ク刑ノ適用ノ宜シキヲ得セシムルコトト爲セリ故ニ各本條ヲ說明スルニ當テハ特別ノ理由アルニ非サレハ別ニ刑ノ變更ニ付テ其理由ヲ附セサル可シ現行法ニハ國交ニ關スル罪ノ規定ヲ缺クカ爲メ修正案ハ本編第四章ニ之ニ關スル規定ヲ新設セリ

現行法第二編第三章ハ靜謐ヲ害スル罪トシ數種ノ犯罪ヲ包含スト雖モ其一部ハ寧ロ公權ニ對ストイフヲ穩當トスルヲ以テ本編ニ於テハ之ヲ第五章公權ニ對スル罪及ヒ第六章靜謐ヲ害スル罪ニ分チタリ

前項公權ニ對スル罪ノ内ニ現行法第二編第三章第四節附加刑ノ執行ヲ違カタル罪ヲ設ケサリシハ總則ニ於テ說明シタル如ク監視ノ執行方法ヲ改メタルノ結果附加刑ノ執行ヲ免カラル者ヲ處罰スル如ク必要ヲ認メサルヲ以テナリ現行法ハ祕密ニ關スル罪及ヒ放火、失火並ニ決水ノ罪ヲ以テ何レモ身體若クハ財産ニ對スル罪トシ第三編中ニ規定スト雖モ修正案ハ此等ノ罪ヲ以テ單ニ身體若クハ財産ニ對スルモノト爲サス寧ロ主トシテ靜謐ニ關スルモノト認メ總テ本編第六章中ニ移シタリ

現行法ノ靜謐ヲ害スル罪ノ中第五節及ヒ第九節ハ共ニ皆他ノ法令ニ讓ルノ目的ヲ以テ之ヲ刪除シタリ

現行法第二編第四章中第七節第八節及ヒ第九節ハ共ニ皆前項ト同一ノ理由ヲ以テ刪除シ其餘ハ之ヲ本編第八章ニ規定シ又現行法ハ誣告罪ヲ以テ身體ニ對スル罪トシテ第三編ニ規定スレトモ修正案ハ之ヲ以テ寧ロ信用ニ關スルモノト爲シ本章第六節ニ規定シタリ

同編第五章中第三節第四節及ヒ第五節ハ亦前項ト同シク之ヲ刪除シ其餘ハ之ヲ本編第七章ニ規定シタリ

同編第六章ハ之ヲ擴張シ現行法第三編第一章第十一節ノ規定ハ之ヲ風俗ニ關スルモノトシ本章ニ移シ又現行法第二編第七章モ同一ノ理由ニ因リ本章ニ編入シ共ニ之ヲ本編第九章ニ規定シタリ

同編第八章ハ或ハ其必要無ク或ハ他ノ法令ニ讓ルノ目的ヲ以テ全部之ヲ刪除シタリ

同編第九章ハ之ヲ擴張シ公務員ニ關スル規定ト爲シ其第三節官吏財産ニ對スル罪ハ一般ノ財産ニ對スル罪ト共ニ規定スルヲ以テ之ヲ刪除シ其餘ハ之ヲ本編第十章ニ規定シタリ

現行法第三編第一章中第三節ハ總則ニ於テ其規定ヲ設ケタルヲ以テ之ヲ刪除シ其第一節第二節第四節第五節第八節及ヒ第九節ノ罪ハ之ヲ本編第十一章ニ於テ又第六節第七節及ヒ第十二節ノ罪ハ之ヲ本編第十二章ニ於テ規定シ第十二節中誣告罪ハ之ヲ本編第八章ニ移シ誹毀罪ニ付テハ本編第十三章ニ之カ規定ヲ設ケ第十三節ハ尊屬親ニ對シ加重ヲ必要トスル場合ハ之ヲ各本條ニ規定スルヲ以テ刪除スルコトト爲シタリ

同編第二章中第一節第二節及ヒ第五節中詐欺取財ノ罪ハ共ニ同質ノ罪ナルヲ以テ修正案ハ之ヲ併合シテ賊盜ノ罪トナシ本編第十四章第一節ニ規定シ第五節中受寄財物ニ關スル罪及ヒ第三節ノ罪ハ之ヲ占有物橫領ノ罪トナシ本章第二節ニ於テ其規定ヲ設ケタリ而シテ第四節ハ之ヲ他ノ法令ニ讓リ第七節第八節ハ前ニ舉クル如ク靜謐ヲ害スル罪トシテ本編第六章中ニ規定シ第九節モ亦同一ノ理由ニ因リ靜謐ヲ害スル罪中第四節往來通信ヲ妨害スル罪ノ中ニ規定スルコトト爲シタリ

第一章 皇室ニ對スル罪

第八十六條 天皇、太皇太后、皇太后、皇后、皇太子、皇太孫ニ對シ危

害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタル者ハ死刑ニ處ス

第八十七條 天皇、太皇太后、皇太后、皇后、皇太子、皇太孫ニ對シ不敬ノ行爲アル者ハ七年以下ノ懲役ニ處ス

皇陵ニ對シ不敬ノ行爲アル者亦同シ

第八十八條 皇族ニ對シ危害ヲ加ヘタル者ハ死刑ニ處シ危害ヲ加ヘントシタル者ハ無期懲役ニ處ス

第八十九條 皇族ニ對シ不敬ノ行爲アル者ハ四年以下ノ懲役ニ處ス

第九十條 本章ノ罪ヲ犯シタル者ニハ公權剝奪ヲ附加スルコトヲ得

本章ノ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キ者ニハ監視ヲ附加スルコトヲ得

(理由) 本章ハ現行法第二編第一章ノ規定ヲ少シク修正シタルニ止リ其趣旨ニ於テハ全ク同一ナリ

本章修正ノ主ナル點ヲ擧クレハ

一 本章ノ犯罪ニ對シ現行法ハ附加ノ罰金ヲ科スルコトアレトモ修正案ハ犯

罪ノ性質上單ニ懲役ノミヲ科スヲ可トシ罰金ヲ科スコトヲ止メタリ

二 現行法ハ本章中ノ輕罪ヲ犯ス者ニハ公權剝奪ヲ科セスト雖モ實際上之ヲ科スルノ必要アル場合アルヲ以テ修正案ハ本章ノ罪ヲ犯シタル者ニハ公權剝奪ヲ附加スルコトヲ得ト爲シタリ

三 有期刑ノ短期ハ之ヲ除キタリ是レ修正案ノ趣旨タル刑ノ範圍ヲ廣クスルカ爲メナリ

左ニ各本條修正ノ理由ヲ説明セシ

第八十六條ハ現行法第十六條ト同一ノ趣旨ナリ唯現行法ニ三后トアルヲ太皇太后、皇太后、皇后ト改メ又皇太孫ヲ加ヘタルハ皇室典範ノ規定ニ準據シタルモノナリ

第八十七條ハ現行法第十七條ヲ少シク修正シタルモノニシテ乃チ第一項ハ前條ト同一ノ理由ニ因リ文字ヲ改メ又懲役ノ刑期ハ現行法ハ稍狹キニ失スルヲ以テ之ヲ七年ト爲シタリ又本條第二項ハ現行法第十七條第二項ト全ク同一ナリ

第八十八條ハ現行法第一百十八條ト全ク同一ナリ

第八十九條モ亦現行法第一百十九條ト同一ノ趣旨ナリ

第九十條ハ現行法第二百十條ト同シク附加刑ニ關スル規定ニシテ本章ノ罪ヲ犯シタル者ニハ公權剝奪ヲ附加スルコトヲ得又本章ノ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キ者ニハ監視ヲ附加スルコトヲ得ルコトト爲シタリ

第二章 内亂ニ關スル罪

第九十一條 政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ヲ僭竊シ其他朝憲ヲ紊亂スルコトヲ目的トシテ暴動ヲ爲シタル者ハ内亂ノ罪ト爲シ左ノ區別ニ從テ處斷ス

- 一 首魁ハ死刑又ハ無期禁錮ニ處ス
 - 二 謀議ニ參與シ又ハ群衆ノ指揮ヲ爲シタル者ハ無期又ハ五年以上ノ禁錮ニ處シ其他諸般ノ職務ニ從事シタル者ハ十年以下ノ禁錮ニ處ス
 - 三 附和隨行シ其他單ニ暴動ニ干與シタル者ハ五年以下ノ禁錮ニ處ス
- 本條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス但前項第三號ニ記載シタル者ハ此限ニ在ラス

第九十二條 内亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ禁錮ニ處ス

第九十三條 兵器、金穀ヲ資給シ又ハ其他ノ行爲ヲ以テ前二條ノ罪ヲ幫助シタル者ハ七年以下ノ禁錮ニ處ス

第九十四條 本章ノ罪ヲ犯シタル者ニハ公權剝奪ヲ附加スルコトヲ得

第九十五條 第九十二條又ハ第九十三條ノ罪ヲ犯スト雖モ未タ暴動ニ至ラサル前自首シタル者ハ其刑ヲ免除ス

(理由) 本章ハ現行法第二編第二章第一節ノ規定ヲ修正シタルモノナリ現行法ハ第二編第二章ヲ國事ニ關スル罪ト爲シ更ニ之ヲ内亂罪及ヒ外患罪ニ區別スト雖モ此二罪其性質同一ナラス國事ニ關スルモノハ主トシテ内亂罪ノミナルヲ以テ修正案ハ此二種ノ犯罪ヲ分チテ全ク別章ト爲シ内亂罪ヲ以テ國事ニ關スルモノナルコトヲ明ニセリ
抑本章ニ規定スル罪ハ國家ノ生存ヲ危フセントスルモノニシテ危險ノ程度極メテ重大ナリト雖モ其犯人タルヤ敢テ自己ノ利益ノ爲ニ之ヲ企ツルニ非スシテ多クハ公衆ノ利益ヲ目的トシテ之ヲ行ハントスルモノナリ此故ニ此等ノ犯

人ニ對シ通常ノ犯人ニ科ス可キ懲役ノ刑ヲ科スルハ犯罪ノ性質ト刑罰ノ種類ト相應セスシテ殆ト刑罰ノ趣旨ニ反スルノ嫌アルヲ以テ本章ニ於テハ現行法ト等シク禁錮ヲ科スルコトトセリ
本章修正ノ主要ナル點ヲ擧クレハ

一 現行法第二百二十三條、第二百二十四條及ヒ第二百二十八條ハ共ニ其必要ナキヲ以テ之ヲ刪除シタリ

二 修正案ハ本章ノ罪ヲ犯シタル者ニハ公權剝奪ヲ附加スルコトヲ得ルコトト爲シタリ

三 現行法第二百二十一條ニ於テ内亂ヲ起シ云云トアルヲ改メ暴動ヲ爲シタル云云ト爲シタルハ内亂ナル語ハ往々現ニ國內ノ戰爭ヲ意味スレハナリ而シテ之ヲ避クテ暴動ト爲シタルハ未タ戰爭ニ至ラサル狀況ニ在ルトキト雖モ既ニ暴動ヲ爲ストキハ本條ノ犯罪タルコトヲ規定シタルモノニシテ現行法第二百二十四條ノ如キモ之カ爲メ無用ノ規定トナリタルモノナリ

左ニ各本條修正ノ理由ヲ説明セン

第九十一條ハ現行法第二百二十一條ヲ修正シタルモノニシテ其第一號ヨリ教唆者ノ規定ヲ除キタルハ總則ノ規定アレハナリ第二號ノ前半ハ現行法ノ第二號

ト同一ニシテ只樞要ノ職務トアルハ意義不明ナルヲ以テ謀議ニ參與シト改ム後半ハ現行法ノ第三號ノ一部ト同一ニシテ第三號ハ現行法ノ第四號ト同一ナリ本條第二項ハ本條第一項ノ第一號及ヒ第二號ニ掲クル犯罪ノ如キハ未遂ヲ罰スル必要アルニ因ル

第九十二條ハ現行法第二百五條ト同一ノ趣旨ニシテ前條ノ豫備陰謀ヲ罰スル規定トス只現行法ハ豫備ノ方法ヲ例示スレトモ修正案ハ之ヲ刪除シタルノ

第九十三條ハ現行法第二百二十一條第三號ノ一部及ヒ第二百二十七條ヲ合シ概括的ニ一般ニ幫助ノ場合ヲ罰スル規定ニシテ現行法ハ幫助ヲ罰スル場合狹キニ失スルヲ以テ之ヲ補修シタルモノナリ

第九十四條ハ現行法ニハ之ニ該當スル條文ナシト雖モ趣旨ニ至リテハ同一ナリ
第九十五條ハ現行法第二百二十六條ト全ク同一ナリ

第三章 外患ニ關スル罪

第九十六條 外國ニ通謀シテ帝國ニ對シ戰端ヲ開カシメ又ハ

敵國ニ與シテ帝國ニ抗敵シタル者ハ死刑ニ處ス

第九十七條 要塞、陣營、軍隊、艦船其他軍用ニ供スル場所又ハ建

造物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑ニ處ス

兵器、彈藥其他軍用ニ供スル物件ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死

刑又ハ無期懲役ニ處ス

第九十八條 敵國ヲ利スル爲メ要塞、陣營、艦船、兵器、彈藥、汽車、電

車、鐵道、電線其他軍用ニ供スル場所又ハ物件ヲ毀壞シ若クハ

使用スルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ死刑又ハ無期懲

役ニ處ス

第九十九條 帝國ノ軍用ニ供セサル兵器、彈藥其他直接ニ戰鬪

ノ用ニ供ス可キ物件ヲ敵國ニ交付シタル者ハ無期又ハ五年

以上ノ懲役ニ處ス

第一百條 敵國ノ爲メニ間諜ヲ爲シ又ハ敵國ノ間諜ヲ幫助シタ

ル者ハ死刑又ハ無期若クハ七年以上ノ懲役ニ處ス

軍事上ノ機密ヲ敵國ニ漏泄シタル者亦同シ

第一百一條 前數條ニ記載シタル以外ノ方法ヲ以テ敵國ニ軍事

上ノ利益ヲ與ヘ又ハ帝國ノ軍事上ノ利益ヲ害シタル者ハ三

年以上ノ有期懲役ニ處ス

第一百二條 第九十六條乃至第一百一條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第一百三條 第九十六條乃至第一百一條ニ記載シタル罪ノ豫備又

ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

第一百四條 本章ノ罪ヲ犯シタル者ニハ公權剝奪ヲ附加スルコ

トヲ得

本章ノ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キ者ニハ監視ヲ附加スル

コトヲ得

第一百五條 本章ノ規定ハ外國人ニ對シテハ帝國又ハ帝國ノ艦

船若クハ占領地ニ在テ犯シタル場合ニ限り之ヲ適用ス

前項ノ規定ハ戰時慣例ニ依リ處分スルコトヲ妨ケス

第一百六條 本章ノ規定ハ戰時同盟國ニ對スル行爲ニ亦之ヲ適

用ス

(理由) 本章ハ現行法第二編第二章第二節ヲ修正シタルモノニシテ主トシテ戰

時ニ於ケル帝國ノ軍事上ノ利益ヲ保護スルヲ目的トス

本章修正ノ主要ナル點ヲ舉クレハ

一 現行法第三百三十三條及ヒ第三百三十四條ハ之ヲ本案第四章國交ニ關スル罪ニ屬ス可キモノトシテ之ヲ同章ニ移シタリ

二 本章ノ罪ハ其未遂ノミナラス豫備及ヒ陰謀ヲモ罰スルコトト爲シタリ是レ本章ノ犯罪ハ其危險ノ大ナルコト前章ノ犯罪ト差異無ケレハナリ

左ニ各本條修正ノ理由ヲ説明セン
第九十六條ハ現行法第二百二十九條ヲ修正シ之ニ第三百三十條ノ前段ノ罪ノ一部ヲ加ヘタルモノニシテ其同盟國ニ關スル規定ヲ除キタルハ本案ニ第六百六條ノ規定アルカ爲ナリ又同條ニハ外國ニ通謀シテ帝國ニ對シ戰端ヲ開カシムル場合ヲ缺クヲ以テ之ヲ補ヒタリ

第九十七條ハ現行法第三百十條後段若クハ以下ノ規定ニ修正ヲ加ヘ之ヲ二項ニ分チタリ而シテ其第一項ニ於テハ場所建物ノ如キ交付シタル目的ノ較重要ナル場合ヲ規定シ第二項ニ於テハ軍用ニ供スル物件ヲ交付シタル場合ヲ規定シタルモノナリ同盟國ニ關スル規定ヲ削リタルハ前條ノ理由ニ同シ

第九十八條ハ現行法ニ缺クタル場合ニシテ修正案ハ陸軍刑法第五十八條海軍刑法第六十一條ノ規定ヲ基トシ本條ヲ設クタルモノナリ本條ニ列舉シタル物

ヲ毀壞シ又ハ之ヲシテ使用不能ニ至ラシムル如キハ實際上容易ニ生ス可キ犯罪ナルヲ以テ其必要ヲ認メタルモノニシテ其刑ノ如キモ陸海軍刑法ヲ參照シ設クタルモノナリ

第九十九條モ亦現行法ニ缺クタル場合ニシテ帝國ノ軍用ニ供セスト雖モ直接ニ戰鬪ノ用ニ供スル物件ヲ敵國ニ交付シタル場合ヲ規定シタルモノニシテ却テ實際上其場合ノ生シ易キヲ以テ其必要ヲ認メタリ其刑期ノ如キハ前條ヲ參照シ少シク情狀輕キモノトシテ死刑ヲ科セサルコトトセリ

第一百條ハ現行法第三百一十一條ヲ修正シタル規定ニシテ現行法ハ間諜ノ方法及ヒ敵國ノ間諜ノ幫助ノ方法ヲ示スト雖モ本案ハ之ヲ刪除シ概括ニ其規定ヲ設クタリ又現行法ニ軍情機密云云トアレトモ意義稍不明瞭ナルヲ以テ本案第二項ニ於テ明ニ軍事上ノ機密漏泄ノ場合ヲ規定シタリ又同盟國ニ關スル規定ヲ削リタルハ第九十六條ト同一ノ理由ニ因ル

第一百一條ハ現行法第三百二十二條ノ如キ場合ノ外總テ敵國ニ軍事上ノ利益ヲ與ヘ又ハ帝國ノ軍事上ノ利益ヲ害シタル場合ノ規定ニシテ假ニ前數條ニ於テ種種ノ場合ヲ想像シタリト雖モ尙ホ或ハ不備ノ點多カル可ク又前ニ舉ケタル如ク本章ノ犯罪ハ事體容易ナラサルモノナルヲ以テ本條ニ於テ廣キ規定ヲ設ク

他ノ條文ニ缺クタル場合ヲ網羅シタルモノナリ從テ其刑ニ至リテモ亦廣ク一日以上十五年以下ノ範圍ヲ有スル有期懲役ト爲シ裁判所ヲシテ事情ニ應シ適宜ノ刑ヲ科スルコトヲ得セシメント欲シタリ

第二百二條ハ現行法ニ規定ナシト雖モ本案總則ニ基キ現行法ト同一趣旨ノ規定ナリ
第二百三條ハ前ニ舉クタル如ク本章ノ犯罪重大ナルヲ以テ其豫備陰謀ヲ處罰スルノ必要ナルニ因ル

第二百四條監視ニ付テハ現行法第三百三十五條ト同シ又公權剝奪ニ付テモ亦現行法ト同一ノ趣旨ニ基ツク唯總則修正ノ結果トシテ二者共ニ之ヲ科シ得ト改メタルノミ

第二百五條ハ本案第一編第一章法例ノ規定ノ例外ナリ乃チ本案第四條ニ於テ外國人帝國外ニ於テ帝國ニ對シ重罪ヲ犯ストキハ我法律ヲ適用スルコトヲ規定セリ然レトモ若シ本章ノ犯罪ニ此規定ヲ適用スレハ敵國ノ臣民ニシテ其本國ノ軍事ニ從事セシ者ノ如キハ悉ク我法律ノ適用ヲ受ク從テ其本國ニ忠良ナル外國臣民ヲ處罰ス可キ不都合ノ結果ヲ生ス可シ故ニ本條ニ於テハ外國人カ本章ノ罪ヲ犯シタルトキハ其犯罪地カ帝國ノ領土又ハ艦船若クハ占領地ニ在ルトキニ限ルコトト爲シ此不都合ヲ避クタルナリ又戰時事變ニ際シ本章ノ罪ヲ

處斷スルニ普通法ニ依ルモノトセハ機宜ヲ失スル虞アルノミナラス實際刑ノ執行ヲ爲ス能ハサルコトアル可キヲ以テ戰時慣例ニ依リ處分スルヲ得ルコトトセリ
第二百六條ハ現行法第二百二十九條及ヒ第三百三十條ニ於テ同盟國ニ關スル規定ヲ設クレトモ修正案ハ本條ニ於テ一括シテ其規定ヲ設ケタルナリ

第四章 國交ニ關スル罪

第二百七條 帝國ニ滞在スル外國ノ君主又ハ大統領ニ對シ暴行ヲ加ヘタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス
帝國ニ滞在スル外國ノ君主又ハ大統領ニ對シ侮辱ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス但外國政府ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス

第二百八條 帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對シ暴行ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス
帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對シ侮辱ヲ加ヘタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス但被害者ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス
第二百九條 外國ニ對シ侮辱ヲ加フル目的ヲ以テ其國ノ國旗其

他ノ國章ヲ破毀汚損又ハ除去シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス但外國政府ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス

第一百十條 外國ニ對シ私ニ戰鬪ヲ爲ス目的ヲ以テ其豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ五年以下ノ禁錮ニ處ス但自首シタル者ハ其刑ヲ免除ス

第一百十一條 外國交戦ノ際局外中立ニ關スル命令ニ違背シタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

(理由) 現行法ハ國交ニ關スル罪ヲ設ケサルカ爲メ往々其不便ヲ感シタルコトアルハ前ニ舉ケタルカ如シ此ヲ以テ本案ハ新ニ帝國ニ現在スル外國ノ君主大統領又ハ使節ニ對スル罪及ヒ外國ニ對スル罪ヲ規定シ之ニ現行法第三百三十三條及ヒ第三百三十四條ノ規定ヲ加ヘ以テ本章ヲ設ケタルナリ

國交ニ關スル罪ヲ設ケルニ付キ立法例ニアリ一ハ相互主義ニシテ外國ノ刑法ニ於テ本章ノ罪ヲ設ケタル場合ニ限り內國ニ於テモ本章ノ規定ヲ適用スルモノナリ一ハ本案ノ採レル單獨主義ニシテ外國法ニ於テ本章ノ罪ヲ設ケタルト否トヲ問ハス我國ニ於テハ本章ノ規定ヲ適用スルモノナリ

左ニ各本條ノ理由ヲ説明セン

第一百七條第一項ハ帝國ニ滞在セル外國ノ君主又ハ大統領ニ對シ暴行ヲ加ヘタル者ハ之ヲ通常ノ暴行罪ニ間擬セスシテ特ニ本條ニ因テ厚ク此等ノ貴賓ヲ敬遇スルノ趣旨ヲ明ニスルモノナリ第二項ハ暴行ニ非スト雖モ侮辱ヲ加ヘタル場合ノ規定ニシテ是亦通常ノ侮辱罪ニ間擬セス本條ニ因テ特別ノ處分ヲ爲スモノナリ其外國政府ノ請求ヲ待テ罪ヲ論スルハ通常ノ誹毀罪ト同シ本罪ノ性質上親告罪ニ屬スヘキモノニシテ特ニ國風習慣ノ異ナル往々彼國ニ在テ侮辱ニ相當スルモノモ我國ニ於テ否ラサルモノアリ又之ニ反スル場合アリテ當該檢事ニ一任ス可ラサルモノアレハナリ又之ヲ告訴トセスシテ請求トシタルハ告訴ニ一定ノ法式ヲ要スルヲ以テ外國政府ニ命スルトキハ外國政府ヲシテ手續上ノ困難ヲ感セシムルノ虞アレハナリ

第一百八條ハ帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對スル暴行及ヒ侮辱罪ノ規定ニシテ總テ前條ト同一ノ理由ニ出テタルモノナリ

第一百九條ハ外國ヲ侮辱スル罪ニシテ其手段ハ本條ニ於テ示スカ如ク其國ニ屬スル國旗其他ノ國章ヲ破毀汚損又ハ除去シタル場合ニ限ルモノトス而シテ其國ニ屬セサル此等ノ物件ヲ以テ侮辱ノ用ニ供シタル場合ノ如キハ或ハ通常ノ

侮辱罪ニ問フ可ク或ハ之ヲ處罰スルノ必要無キナリ其本國政府ノ請求ヲ待ツ
 前二條ト相關聯シタル事項ナレハナリ
 第一百條ハ現行法第三十三條ヲ修正シタルモノニシテ現行法ニ戰端ヲ開ク
 トアルヲ戰鬪ヲ爲スト改メタルハ戰端ハ即チ戰争ヲ開始スルノ義ニシテ戰争
 ナル用語ヲ實際ニ適用スルニ付テハ疑ナキ能ハス寧ロ戰鬪トナシ對手ノ一私
 人タル場合ニ廣ク適用スルヲ便トスレハナリ又現行法ハ豫備ノミヲ罰スレト
 モ修正案ハ尙ホ陰謀ヲモ之ヲ罰スルノ必要ヲ認メタリ又本條ノ罪ハ自首シタ
 ルトキハ其刑ヲ免スルコトト爲シタリ
 第十一條ハ現行法第三百三十四條ノ文字ヲ修正シタルニ止リ同一趣旨ノ規定ナ
 リ

第五章 公權ニ對スル罪

(理由) 本章ハ前ニ舉ケタル如ク現行法第二編第三章中其第二節官吏ノ職務ヲ
 行フヲ妨害スル罪第三節囚徒逃走ノ罪及ヒ罪人ヲ藏匿スル罪並ニ第八節官ノ
 封印ヲ破棄スル罪ハ靜謐ヲ害スルヨリモ寧ロ公權ニ關スルモノト認メタルヲ
 以テ第三節ト同章ヨリ分離シ且之ヲ修正シタルモノナリ

第一節 公務ノ執行ヲ妨害スル罪

第一百十二條 公務員ノ職務ノ執行ヲ妨害スル爲メ又ハ公務員
 ナシテ或處分ヲ爲サシムル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者
 ハ四年以下ノ懲役ニ處ス
 公務員ナシテ其職ヲ辭セシムル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタ
 ル者亦同シ

第一百十三條 公務員ノ職務ヲ執行スルニ當リ其面前ニ於テ侮
 辱ヲ爲シ又ハ其面前ニ非スト雖モ其職務ニ對シ文書、圖畫又
 ハ偶像ヲ公示シ若クハ公然ノ雜劇、歌曲又ハ演說ヲ以テ侮辱
 シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
 公務所ニ對シ文書、圖畫又ハ偶像ヲ公示シ若クハ公然ノ雜劇、
 歌曲又ハ演說ヲ以テ侮辱シタル者亦同シ
 第一百十四條 官吏、公吏ノ施シタル封印又ハ差押ノ標示ヲ破毀
 シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ封印又ハ標示ヲ無効タラシメタル
 者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

(理由) 本節ハ現行法第二編第三章第二節及ヒ第八節ノ規定ヲ合シ之ヲ修正シタルモノトス

本節修正ノ主要ナル點ヲ舉クレハ

- 一 現行法ノ第二節ハ唯官吏ノ職務執行ヲ妨害スル罪ニ付テノミ其規定ヲ設クルヲ以テ其保護ノ範圍極メテ狹ク其他公吏、議員ニ關シテハ特別法アリ又議會並ニ議員ノ保護ニ關シテハ明治二十二年法律第二十八號アリト雖モ未タ一般ニ公務ノ執行ヲ保護スル法無キヲ以テ修正案ハ廣ク公務員ノ職務執行ノ安全及ヒ公務所ヲ保護スルノ目的ヲ以テ現行法ノ不備ヲ補ヒタリ
- 二 現行法ハ第八節トシテ封印破棄罪ヲ設クト雖モ是レ亦單ニ公務ノ執行ヲ妨害スル罪ノ一種ニ過キササルヲ以テ之ヲ本節ニ加フルコトト爲シタリ而シテ第百七十五條ヲ刪除シタルハ本編第十四章財産ニ對スル罪ノ中ニ之カ規定ヲ設クルニ因ル又第百七十六條ハ必要ナキモノトシテ之ヲ刪除シタリ

左ニ各本條修正ノ理由ヲ説明セン

第百十二條ハ現行法第百三十九條ヲ修正シタル規定ニシテ官吏ニ關スル規定ヲ改メ廣ク公務員ニ關スルモノト爲シタル外ハ趣旨ニ於テ少シモ變更アルコト

ナク唯現行法カ職務執行ノ場合ヲ列舉シタルヲ刪除シタルノミ本條第二項ハ明治二十二年法律第二十八號第四條ノ規定ヲ修正補充シタルモノニシテ同條ハ議員ヲシテ辭職セシムル爲メ暴行、脅迫ヲ爲シタル場合ノ規定ナルヲ以テ本案ハ之ヲ修正シ廣ク公務員ニ關スル概括ノ規定ヲ設ケタリ

第百十三條ハ現行法第百四十一條ヲ修正シ官吏ヲ改メ公務員ト爲シタルモノナリ現行法ハ官吏ノ目前ニ於テ形容又ハ言語ヲ以テ侮辱シタルモノトアレトモ之カ爲メ意義狹隘ニ失シ解釋上往々疑義ヲ生シタルヲ以テ本案ハ此等ノ方法ヲ示ス文字ヲ刪除シタリ現行法ハ又其第二項ニ於テ其目前ニ非スト雖モ刊行ノ文書、圖畫又ハ公然ノ演說ヲ以テ侮辱シ云々トアレトモ亦狹キニ失スル規定ナルヲ以テ本案ハ刊行ノ二字ヲ刪除シ其印刷物ト否ラサルモノトヲ區別スルノ必要ナシト爲シ圖畫ノ次ニ偶像ヲ加ヘ又現行法ニ缺ケタル公然ノ雜劇及ヒ歌曲ヲ加ヘタリ本條第二項ハ現行法ニ缺クル所ニシテ實際ノ必要上新ニ設ケタル規定ナリ

第百十四條ハ現行法第百七十四條ヲ修正シタル者ニシテ現行法ハ封印ヲ破棄シタル場合ノミヲ規定スレトモ修正案ハ之ヲ擴張シ封印又ハ差押ノ標示ヲ破毀スル場合ハ勿論其他ノ方法ヲ以テ封印又ハ標示ヲ無効ナラシメタル場合ニ

モ適用スルコトトセリ又現行法第二項ハ其必要ナキヲ以テ之ヲ删除シタリ

第二節 囚人逃走ノ罪

第百十五條 既決未決ノ囚人逃走シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第百十六條 囚人獄舎又ハ械具ヲ毀壞シ若クハ暴行脅迫ヲ爲シ又ハ二人以上通謀シテ逃走シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第百十七條 囚人ヲ奪取シタル者ハ七年以下ノ懲役ニ處ス

第百十八條 囚人ヲ逃走セシムル目的ヲ以テ器具ヲ給與シ其他逃走ヲ容易ナラシム可キ行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ目的ヲ以テ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ七年以下ノ懲役ニ處ス

第百十九條 囚人ヲ看守シ又ハ護送スル者囚人ヲ逃走セシメタルトキハ十年以下ノ懲役ニ處ス

第百二十條 本節ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

(理由) 本節ハ現行法第二編第三章第三節中囚徒逃走ノ罪ノ規定ニ修正ヲ加ヘタルモノナリ

本節ノ修正ノ主要ナル點ヲ擧ケレハ

一 現行法ノ用ヒタル囚徒ナル語ハ常ニ二人以上ヲ示ス如キ嫌アルヲ以テ本案ハ改メテ囚人ト爲シタリ

二 現行法第百四十三條ハ修正案ノ再犯ノ規定ノ結果トシテ其必要ヲ認メヌ又同第百四十四條但書モ本案併合罪ノ規定ノ結果明文ヲ要セサルヲ以テ何レモ之ヲ删除シタリ

三 現行法第百五十條ハ刑法ニ規定スル必要ナキヲ以テ之ヲ删除シタリ

四 今日ノ實際ニ於テ囚人逃走スル者稍多キハ現行法ノ刑輕キニ過クルモ亦其原因タラスンハアラス故ニ修正案ハ此弊ヲ防遏スル爲メ少シク其刑ヲ重クセリ

左ニ各本條修正ノ理由ヲ説明セン

第百十五條ハ現行法第百四十二條第一項同第百四十四條ヲ合セタルモノニシテ既決未決ノ囚人ヲ併セテ規定シタリ而シテ未決ノ囚人ニ付キ入監中ナル文

字ヲ刪除シタルハ、語弊ヲ避クルカ爲ナリ。是レ囚人トハ既決未決ヲ問ハス監獄ニ在ル可キ身分ノ者ヲ示ス意義ナルヲ以テ現行法ノ如ク未決ノ囚人ニ付キテ特ニ入監中ト云フノ必要ヲ認メサルノミナラス却テ疑義ヲ生スルノ虞アレハナリ。

第一百十六條ハ現行法第四百十二條第二項及ヒ同第四百十五條ヲ合セタル規定ニシテ唯現行法ノ囚徒三人以上通謀シトアルヲ二人以上ト改メタルノミ是レ特ニ三人以上ノ場合ニ限リ重ク罰スルノ必要ナク二人以上ナルトキモ亦前條ニ比シ重キ刑ヲ科ス可キ必要アレハナリ。

第一百七條ハ現行法第四百十七條ノ一部ニ該當スル規定ニシテ暴行脅迫ヲ用フル場合ハ六條第二項ニ規定セリ。

第一百十八條ハ現行法第四百十六條及ヒ第四百十七條ノ一部ニ修正ヲ加ヘタルモノニシテ現行法ニ逃走ノ方法ヲ指示シトアルハ逃走ヲ容易ナラシムル行爲ノ一例ニ過キスシテ狭キニ失スルヲ以テ本案ハ之ヲ逃走ヲ容易ナラシム可キ行爲ヲ爲シト修正セリ。又第四百十六條ノ末文ハ其必要ヲ認メサルヲ以テ刪除シタルモノナリ。

第一百十九條ハ現行法第四百十八條ト同一趣旨ノ規定ナリ。

第二十條ハ現行法第四百十九條ト同一ノ規定ナリ。

第三節 罪人藏匿及ヒ證憑湮滅ノ罪

第二十一條 逃走ノ囚人又ハ重罪ノ刑ニ該ル可キ罪ヲ犯シ
メル者ヲ藏匿シ又ハ隱避セシメタル者ハ二年以下ノ懲役又
ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス。

第二十二條 他人ノ刑事被告事件ニ關スル證憑ヲ湮滅シ又
ハ偽造變造シ若クハ偽造變造ノ證憑ヲ使用シタル者ハ一年
以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス。

第二十三條 本節ノ罪ハ被告人ノ親族ニシテ被告人ノ利益
ノ爲メニ犯シタルトキハ之ヲ罰セス。

(理由) 本節ハ現行法第二編第三章第三節中罪人ヲ藏匿スル罪ノ規定ヲ修正シタルモノナリ。

本節修正ノ趣旨ハ現行法ハ本節ノ犯罪ニ對シ輕禁錮ヲ科スト雖モ本節ノ犯罪者ハ往々盜賊ヲ使役シ不法ノ利得ヲ圖ルカ如キ者アルヲ以テ本案ハ本節ノ犯罪ニ對シテハ懲役ニ處スコトトセリ之ニ反シテ單ニ知己老幼ヲ庇護スルノ意

ニ出テ其情狀極テ輕キ者アルヲ以テ此等ノ犯人ニハ罰金ヲ科スルコトト爲シタリ

左ニ各本條修正ノ理由ヲ説明セシ

第二百一十一條ハ現行法第五十一條ヲ修正シタルモノニシテ監視ニ付セラレタル者ノ規定ヲ刪除シタルハ同規則改正ノ結果タリ又現行法ハ廣ク犯罪人ノ藏匿、隱避ニ付テ規定ヲ設クレトモ修正案ニ所謂輕罪ノ如キ極テ輕微ナル犯罪ニ付テハ全ク其必要ナキヲ以テ本案ハ重罪ヲ犯シタル者ニ付テノミ本條ノ規定ヲ設クルコトト爲シタリ

第二百二十二條ハ現行法第五十二條ヲ修正シタルモノニシテ現行法ハ單ニ罪證隱蔽ノ場合ノミヲ規定シ其區域甚タ狹キニ失スルヲ以テ本案ハ之ヲ修正シ總テ他人ノ刑事被告事件ニ關スル有罪若クハ無罪ノ證憑ヲ湮滅シ又ハ偽造、變造シ若クハ偽造、變造ノ證憑ヲ使用シタル場合ニ關シテ廣ク規定ヲ設ケタリ
第二百二十三條ハ現行法第五十三條ト全ク同一趣旨ノ規定ナリ唯修正案ハ前條ニ述ヘタル如ク廣汎ニ規定シタルノ結果本條ニ於テ縱令被告人ノ親族タリトモ被告人ノ不利益ノ爲メニ犯シタル場合ヲ明ニ除外セリ

第六章 靜謐ヲ害スル罪

(理由) 本章ハ現行法第二編第三章中其第二節乃至第五節、第八節及ヒ第九節ヲ刪除シ同第三編第一章第十二節ノ一部及ヒ第二章第七節乃至第九節ヲ編入シ修正ヲ加ヘタルモノナリ

第一節 多衆聚合ノ罪

第二百二十四條 何等ノ目的ヲ問ハス之ヲ達スル爲メ多衆聚合シ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

- 一 首魁ハ十年以下ノ懲役ニ處ス
- 二 他人ヲ指揮シ又ハ他人ニ率先シテ勢ヲ助ケタル者ハ七年以下ノ懲役ニ處ス
- 三 附和隨行シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百二十五條 暴行又ハ脅迫ヲ以テ目的ヲ達スル爲メ多衆聚合シ官吏又ハ公吏ノ説諭ヲ受クルト雖モ解散セサルトキハ首魁ハ三年以下ノ懲役ニ處シ其他ノ者ハ五十圓以下ノ罰金

ニ處ス

第二百二十六條 本節ノ罪ヲ犯シ懲役ニ處ス可キ者ニハ公權剝

奪ヲ附加スルコトヲ得

(理由) 本節ノ規定ハ現行法第二編第三章第一節ヲ修正シタルモノナリ

本節修正ノ主要ナル點ヲ擧ケレハ

- 一 現行法ハ本節ノ罪ヲ兇徒聚衆ノ罪ト稱シ兇徒多衆ヲ嘯聚シテ暴動ヲ爲ス
- 場合ノ規定ナルヲ以テ其範圍狹キニ失ス此故ニ修正案ハ現行法ヲ改正シ獨
- リ兇徒暴動ノ場合ニ限ラス本編第二章ノ内亂ヲ目的トスル暴動ヲ除キ總テ
- 其他ノ目的ニ係ルモノニシテ多衆集合シテ暴行又ハ脅迫ヲ爲ス場合ニ適用
- スルカ爲メ本節ノ規定ヲ設ケタリ

二 現行法第三百三十八條ハ其必要無キヲ以テ之ヲ刪除セリ

左ニ各本條修正ノ理由ヲ説明セシ

第二百二十四條ハ現行法第三百三十七條ヲ修正シタルモノナリ現行法ハ暴動ヲ例示スト雖モ是レ全ク不必要ノ規定ナルカ故ニ之ヲ削リ又教唆者ニ付キテモ總則共犯ノ規定アルヲ以テ更ニ此ニ掲クルノ必要ナシトシテ之ヲ刪除セリ又本條ニ於テ何等ノ目的ヲ問ハスト規定シタルハ内亂ノ場合ヲ除外スルト共ニ本

條ノ罪ノ成立ニハ一定ノ目的ヲ要スルコトヲ明ニシタルモノナリ從テ村祠ノ祭禮等ニ多衆興ニ乘シテ往々暴行又ハ脅迫ニ涉ル場合ノ如キ其適用ヲ見サルナリ
 第二百二十五條ハ現行法第三百三十六條ト同一ノ趣旨ノ規定ニシテ教唆者ヲ削リタルハ前條ト同一ノ理由ニ基クモノナリ
 第二百二十六條ハ附加刑ニ關スル規定ナリ

第二節 放火及ヒ失火ノ罪

第二百二十七條 火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在
 スル建造物、汽車、電車、船舶又ハ鑛坑ヲ燒燬シタル者ハ死刑又
 ハ無期若クハ七年以上ノ懲役ニ處ス

第二百二十八條 火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用セス又ハ人ノ現
 在セサル建造物、船舶又ハ鑛坑ヲ燒燬シタル者ハ三年以上ノ
 有期懲役ニ處ス

前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス
 第二百二十九條 火ヲ放テ前二條ニ記載シタル以外ノ物ヲ燒燬
 シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス
 前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキハ放火ノ爲メ公共ノ危險ヲ生

シタルトキニ限り一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第三百十條 第二百二十八條第二項又ハ前條第二項ノ罪ヲ犯シ
 因テ第二百二十七條及ヒ第二百二十八條第一項ニ記載シタル物
 ニ延燒シタルトキハ七年以下ノ懲役ニ處ス若シ前條第一項
 ニ記載シタル物ニ延燒シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス
 第三百三十一條 第二百二十七條、第二百二十八條第一項、第二項及ヒ
 第三百二十九條 第一項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス
 第三百三十二條 第二百二十七條及ヒ第二百二十八條第一項ノ罪ヲ
 犯ス目的ヲ以テ其準備ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處
 ス但情狀ニ因リ本刑ヲ免除シテ監視ニ付スルコトヲ得
 第三百三十三條 第二百二十八條及ヒ第二百二十九條ニ記載シタル
 物自己ノ所有ニ係ルト雖モ差押ヲ受ケ、物權ヲ設定シ又ハ賃
 貸シ若クハ保險ニ付シタルモノヲ燒燬シタルトキハ他人ノ
 物ヲ燒燬シタル者ノ例ニ同シ
 第三百三十四條 火災ノ際鎮火用ノ物件ヲ隱匿又ハ毀壞シ若ク
 ハ其他ノ方法ヲ以テ鎮火ヲ妨害シタル者ハ十年以下ノ懲役
 ニ處ス

第三百三十五條 第二百二十七條乃至第三百三十四條ノ罪ヲ犯シタ
 ル者ニハ公權剝奪ヲ附加スルコトヲ得
 第三百二十七條 乃至第三百三十四條ノ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス
 可キ者ニハ監視ヲ附加スルコトヲ得
 第三百三十六條 火ヲ失シテ第二百二十七條乃至第二百二十九條及
 ヒ第三百三十三條ニ記載シタル物ヲ燒燬シタル者ハ三百圓以
 下ノ罰金ニ處ス
 第三百三十七條 火藥、汽罐其他激發ス可キ物品ヲ破裂セシメテ
 第三百二十七條乃至第二百二十九條及ヒ第三百三十三條ニ記載シ
 タル物ヲ毀壞シタル者ハ放火、失火ノ例ニ同シ
 第三百三十八條 瓦斯、電氣又ハ蒸汽ヲ漏出セシメ人ノ生命、身體
 又ハ財産ニ危險ヲ生セシメタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ百
 圓以下ノ罰金ニ處ス
 前項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタルトキハ傷害ノ罪ニ
 比較シ重キニ從テ處斷ス
 (理由) 現行法ハ放火及ヒ失火ノ罪ヲ以テ財産ニ對スル犯罪ト爲シ之ヲ其第三編

第二章第七節ニ規定シタリ然レトモ放火及ヒ失火ハ單ニ財産ニ對シテ危害ヲ及ホスノミナラス却テ公共ノ安寧ヲ妨害スルコト大ナルヲ以テ修正案ハ寧ロ之ヲ靜謐ヲ害スル罪ニ屬ス可キ者ナリト認メ本章ニ移シ修正ヲ加ヘタルナリ本節修正ノ要旨ハ元來放火及ヒ失火ハ我國ニ在テハ其數頗ル多ク其危害亦極テ大ナルヲ以テ現行法ニ於テモ稍詳細ナル規定ヲ設クト雖モ尙ホ脱漏セルモノ甚タ多ク加之其規定モ亦稍明瞭ヲ缺クノ虞アルヲ以テ本案ハ一方ニハ規定ノ趣旨ヲ明ニシ一方ニハ其不備ヲ補修シタルモノナリ

左ニ各本條修正ノ理由ヲ説明セン

第二百二十七條ハ現行法第四百二條及ヒ第四百五條第一項ヲ合シ之ニ修正ヲ加ヘタルモノニシテ現行法ハ家屋、船舶及ヒ汽車ノ燒燬ニ付テノミ規定スルヲ以テ修正案ハ之ヲ擴張シ廣ク建造物、汽車、電車、船舶トシ之ニ鐵坑ヲ加ヘタルモノニシテ汽車ノ外電車ヲ加ヘ之ヲ保護シ又鐵坑ニ至リテハ其火災ノ恐ル可キコト家屋ニ勝ルコトアリ加之往々不幸ニシテ實際ニ生スル事實ナルヲ以テ之カ規定ヲ設ケタルナリ又現行法ハ本罪ニ對シ單ニ死刑ノミヲ科スト雖モ其刑ノ範圍狹キニ過キ從テ其情狀輕キニ對シテモ尙ホ無益ノ酷刑ヲ科スル結果ヲ生シ今日一般ニ之ニ困ム所ナルヲ以テ修正案ハ刑ノ範圍ヲ廣クシ情狀ニ因リ刑

ヲ定メシムルコトト爲シタリ

第二百二十八條ハ現行法第四百三條、第四百五條第二項及ヒ第四百七條ヲ合シ之ニ修正ヲ加ヘタルモノニシテ第一項修正ノ理由ハ前條ト同一ナリ但汽車、電車ニ付テハ必要ナキヲ以テ之ヲ除ク第二項ハ現行法第四百七條ヲ修正シタルモノニシテ現行法ハ家屋ニ關スル規定ノミヲ設クト雖モ是レ亦前條ト同一ノ理由ニ因リ他ノ物ヲ加ヘタリ

第二百二十九條第一項ハ現行法第四百四條及ヒ第四百六條ヲ合シ之ヲ擴張修正シタル規定ニシテ總テ前二條ニ記載シタル以外ノ物件ニ放火スル場合ナリ第二項ハ新ニ設ケタル規定ニシテ縱令自己ノ處分權ノ行使トシテ其所有物ヲ燒燬スト雖モ此カ爲メ公共ノ危險ヲ生シタルトキハ既ニ已ニ靜謐ヲ害シタルモノナルヲ以テ之ヲ處罰スルノ必要ヲ認メ特ニ之ヲ設ケタルナリ

第三百十條ハ新ニ設ケタル所ニシテ第二百二十八條第二項及ヒ前條第二項ノ罪ヲ犯シ之カ爲メ延イテ他人ノ財物ヲ燒燬スルニ至リシ場合ノ規定トス

第三百十一條ハ現行法ニ於テ放火罪ノ重罪ハ其總則ノ結果別ニ規定ヲ要セスシテ其未遂ヲ罰シ輕罪ノ未遂ハ之ヲ罰セスト雖モ本案ハ一般ニ本罪ノ未遂ヲ罰スル必要ヲ認メタルニ因ル

第三百三十二條ハ建造物、船舶、鑛坑ノ如キハ人ノ住居若クハ現在スル虞アリ且重要ナル財産ナルカ故ニ之ニ放火スルカ如キ重大ナル犯罪ハ其準備行爲ヲ罰シ危險ヲ未然ニ防遏スルヲ必要トスレハナリ

第三百三十三條ハ自己ノ所有物ヲ燒燬スト雖モ若シ其物カ差押ヲ受ケ又ハ其上ニ物權ヲ設定シ若クハ其物ヲ他人ニ貸與シ或ハ之ヲ保險ニ付シタル場合ノ如キハ之ニ因リテ他人ノ權利ヲ害シ損害ヲ加フルコト殆ント他人ノ物ヲ燒燬シシタルニ均シキヲ以テ修正案ハ新ニ本條ヲ設ケ他人ノ物ヲ燒燬シタル場合ノ例ニ準シ彼此權衡ヲ得セシメタリ

第三百三十四條ハ新ニ設ケタル規定ニシテ火災ノ際鎮火ノ妨害ヲ爲シタル者ニ付テハ現行法ニ缺タタルヲ以テ本案ハ之ヲ必要ナリト認メタルモノナリ

第三百三十五條ハ附加刑ニ關スル規定ナリ

第三百三十六條ハ現行法第四百九條ヲ修正シタル規定ニシテ其趣旨ニ於テハ同一ナリト雖モ現行法ノ刑ハ輕キニ失スル虞アルヲ以テ本案ハ之ヲ重クシタリ

第三百三十七條ハ現行法第四百十條ト全ク同一趣旨ニ出タル規定ナリ

第三百三十八條ハ新ニ設ケタルモノニシテ第一項ハ瓦斯、電氣又ハ蒸汽ノ危險ヲ豫防スル目的ニ出タル規定トシ而シテ此等ノ器具ヲ毀損シ又ハ其他ノ方法ニ

因リ瓦斯、電氣又ハ蒸汽ヲ漏泄セシメ人ノ生命、身體又ハ財産ニ危險ヲ生セシムルカ如キハ不問ニ付テ可ラサルヲ以テ之ヲ本章ニ規定シタルモノトス

第二項ハ前項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ其情狀重クシテ之ヲ過失傷害罪ト爲スハ輕ニ失スルヲ以テ特ニ傷害罪ニ問フノ規定トス

第三節 溢水及ヒ水利ニ關スル罪

第三百二十九條 溢水セシメテ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物、汽車、電車又ハ鑛坑ヲ浸害シタル者ハ無期又ハ五年以上ノ懲役ニ處ス因テ人ヲ死ニ致シタルトキハ死刑ニ處スルコトヲ得

第三百四十條 溢水セシメテ前條ニ記載シタル以外ノ物ヲ浸害シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス
浸害シタル物自己ノ所有ニ係ルトキハ差押ヲ受ケ、物權ヲ設定シ又ハ賃貸シ若クハ保險ニ付シタル場合ニ限り前項ノ例ニ依ル

第三百四十一條 水害ノ際防水用ノ物件ヲ隱匿又ハ毀壞シ若ク

ハ其他ノ方法ヲ以テ水防ヲ妨害シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

第四百十二條 第三百二十九條乃至第四百四十一條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ公權剝奪ヲ附加スルコトヲ得

第三百二十九條乃至第四百四十一條ノ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キ者ニハ監視ヲ附加スルコトヲ得

第四百十三條 過失ニ因リ溢水セシメテ第三百二十九條及ヒ第四百四十條ニ記載シタル物ヲ浸害シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百十四條 堤防ヲ決潰シ水閘ヲ破壊シ其他水利ノ妨害トナル可キ行爲又ハ溢水セシム可キ行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

(理由) 本節ノ規定ハ現行法第三編第二章第八節決水ノ罪ニ修正ヲ加ヘタルモノナリ本節ノ罪モ亦前節ノ放火及ヒ失火ノ罪ト同シク靜謐ニ關スルモノトシテ本章ニ移シタルモノナリ現行法ニ決水ノ罪トアルヲ改メ溢水及ヒ水利ニ關スル罪ト爲シタルハ文字ヲ修正シタルニ止リ趣旨ニ於テハ敢テ改變ヲ爲シタルニ非ス

左ニ各本條修正ノ理由ヲ説明セシ

第三百二十九條ハ現行法第四百十一條第一項ヲ修正シタルモノニシテ電車及ヒ鑛坑ヲ加ヘ又刑ノ範圍ヲ廣クシタルハ皆第二百二十七條ト同一ノ趣旨ニ出ツルナリ但死ニ致シタル場合ニ在ラサレハ死刑ニ處スルコトヲ得サシメタルハ刑ノ失酷ヲ避クル爲メナリ又現行法第四百十一條第二項ノ規定ハ特ニ設クルノ必要ナキヲ以テ刪除セリ

第四百十條第一項ハ現行法第四百十二條ヲ修正シタルモノニシテ同條ニ於テハ溢水ノ場合ヲ制限セルヲ以テ本案ハ例示ノ方法ヲ採ラス概括ニ各場合ニ關スル規定ヲ設ケタルナリ又現行法ハ本條ニ鑛坑ノコトヲ規定スト雖モ本案ハ前條ニ於テ之カ規定ヲ設ケタルヲ以テ刪除シタリ第二項ハ自己ノ所有物ニ浸水セシメタル場合ニ其物カ差押ヲ受ク又ハ其上ニ物權ヲ設定シ若クハ其物ヲ貸與シ或ハ之ヲ保險ニ付シタルトキハ他人ノ物ヲ浸水シタル例ニ依ルノ規定ニシテ其理由ハ第三百三十三條ト全ク同一ナルヲ以テ更メテ之ヲ説明セス
第四百十一條ハ新ニ設ケタル規定ニシテ其理由ハ第三百三十四條ト全ク同一ナルヲ以テ更ニ之ヲ説明セス

第四百四十二條ハ附加刑ニ關スル規定ナリ
第四百四十三條ハ現行法第四百十四條ヲ修正シタルモノニシテ刑ヲ重クシタル
ハ全ク第三百三十六條ト同一ノ理由ニ基クモノナリ
第四百四十四條ハ現行法第四百十三條ト同一趣旨ノ規定ナリ只現行法ハ同條ニ
於テ他人ノ便益ヲ損シ又ハ自己ノ便益ヲ圖ル爲メト規定シ其目的ヲ明示スト
雖モ此レ全ク其必要無キヲ以テ本案ハ之ヲ刪除シタリ

第四節 往來通信ヲ妨害スル罪

第四百四十五條 陸路、水路又ハ橋梁ヲ損壞又ハ壅塞シテ往來ノ
妨害ヲ生セシメタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ
罰金ニ處ス

第四百四十六條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ
傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第四百四十七條 鐵道又ハ其標幟ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以
テ汽車又ハ電車ノ往來ノ危險ヲ生セシメタル者ハ三年以上
ノ有期懲役ニ處ス

燈臺又ハ浮標ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ船舶ノ往來ノ
危險ヲ生セシメタル者亦同シ

第四百四十八條 人ノ現在スル汽車又ハ電車ヲ顛覆又ハ破壞シ
タル者ハ無期又ハ五年以上ノ懲役ニ處ス

人ノ現在スル船舶ヲ覆没又ハ破壞シタル者亦同シ
前二項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期
懲役ニ處ス

第四百四十九條 第四百四十七條ノ罪ヲ犯シ因テ汽車又ハ電車ノ
顛覆若クハ破壞又ハ船舶ノ覆没若クハ破壞ヲ致シタル者亦
前條ノ例ニ同シ

第四百五十條 第四百四十五條、第四百四十七條及ヒ第四百十八條第
一項、第二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第四百五十一條 第四百四十七條及ヒ第四百四十八條第一項、第二項
ニ掲ケタル行爲過失ニ出タルトキハ三百圓以下ノ罰金ニ處
ス

其業務ニ從事スル者前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ三年以下ノ

禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十二條 郵便、電信又ハ電話ノ用ニ供スル物件ヲ毀損シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ郵便、電信又ハ電話ノ交通ノ妨害ヲ生セシメタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

(理由) 本節ノ規定ハ現行法第二編第三章第六節ニ同第三編第二章第九節ヲ合セ之ヲ修正シタルモノナリ

本節修正ノ主要ナル點ヲ舉ケレハ

- 一 現行法ハ船舶覆没ノ罪ヲ以テ單ニ財産ニ對スルモノト爲スド雖モ本案ハ放火及ヒ失火ノ罪及ヒ溢水及ヒ水利ニ關スル罪ト同シク寧ロ本章ニ移ス可キモノト認メ且專ラ往來通信ヲ妨害スルモノト爲シ本節ニ於テ此カ規定ヲ設ケタルハ現行法第四百十六條ヲ刪除セリ
 - 二 現行法第六十三條ハ之ヲ特別法ニ讓ルノ目的ヲ以テ又第六十七條ハ其必要無キヲ以テ共ニ之ヲ刪除シタリ
 - 三 本節中重大ナル犯罪ニシテ其過失ニ出テタル場合ノ規定ハ現行法ニ缺クタルヲ以テ本案ハ之ヲ補修セリ
- 左ニ各本條修正ノ理由ヲ説明セシ

第四百四十五條ハ現行法第六十二條ニ修正ヲ加ヘタルモノニシテ現行法ハ道路、橋梁、河溝、港埠ノ損壞ニ付キ規定セルヲ以テ修正案ハ之ヲ改メ廣ク公共ノ用ニ供スル陸路又ハ水路ト爲シ損壞ノ外尙ホ壅塞ヲ加ヘ本條ノ適用ヲ完全ナラシメタリ

第四百四十六條ハ現行法第六十八條ト全ク同一ノ規定ナリ

第四百四十七條第一項ハ現行法第六十五條ト全ク同一趣旨ノ規定ニシテ唯新ニ電車ヲ加ヘタルノミ第二項ハ現行法第六十六條ノ文字ヲ修正シタルノミニシテ乃チ同條ニ於テハ船舶往來ノ危險ト爲ル可キ方法ヲ列舉シタレトモ本案ニ於テハ燈臺、浮標ノ損壞ノミヲ例示シ其他ハ之ヲ刪除シタルモノナリ

第四百四十八條第二項ハ現行法第四百十五條ヲ修正シタル規定ニシテ現行法ニハ覆没ノ方法ヲ例示スト雖モ其必要ナキヲ以テ之ヲ刪除シ更ニ覆没ノ外破壊ヲ加ヘタルナリ而シテ本條第一項ハ汽車又ハ電車ノ顛覆又ハ破壊ハ船舶ノ覆没又ハ破壊ト其危害同一ナルヲ以テ船舶ヲ保護スルト同一ノ理由ニ基キ新ニ規定ヲ設ケタルナリ而シテ何レモ人ノ現在スル場合ニ限りタルハ本節ノ罪ハ往來通信ヲ妨害スル場合ノ規定ナレハナリ

第四百四十九條ハ現行法第六十九條ト同一趣旨ニ基ク規定ナリ

第五十條ハ現行法第七十條ト全ク同一ノ趣旨ナリ
第五十一條ハ新ニ設ケタルモノニシテ過失ニ因リテ第四百七條及ヒ第四百十八條第一項第二項ノ罪ヲ犯シタル如キ場合ハ現行法ニ缺クタルヲ以テ修正案ニ於テハ其必要ヲ認メ本條ニ於テ之ヲ規定シタルモノナリ而シテ第一項ハ常人ノ犯シタル場合ニシテ第二項ハ業務ニ從事スルモノノ犯シタル場合ナリ
第五十二條ハ現行法第六十四條ヲ修正シタル規定ニシテ現行法ハ電信ニ付キ規定ヲ設クト雖モ修正案ハ廣ク郵便電信電話ヲ保護スル目的ヲ以テ之ヲ改メタルモノナリ

第五節 住居ヲ侵ス罪

第五十三條 故ナク人ノ住居又ハ人ノ看守シタル邸宅、建造物若クハ船舶ニ侵入シ又ハ要求ヲ受ケテ其場所ヨリ退去セサル者ハ一年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス
若シ左ニ記載シタル情狀アルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス

- 一 夜間ナルトキ
- 二 門戶、牆壁其他ノ外圍ヲ踰越、損壞シ又ハ鎖鑰ヲ開キタ

ルトキ

- 三 兇器ヲ携帯シタルトキ
- 四 暴行、脅迫ヲ爲シ又ハ偽計ヲ用ヒタルトキ
- 五 二人以上ナルトキ

第五十四條 故ナク皇居、禁苑、離宮又ハ行在所ニ侵入シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス
皇陵ニ侵入シタル者亦同シ

第五十五條 本節ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス
第五十六條 本節ノ罪ヲ犯シ懲役ニ處ス可キ者ニハ監視ヲ附加スルコトヲ得

(理由) 本節ノ規定ハ現行法第二編第三章第七節ニ少シク修正ヲ加ヘタルモノナリ
本節修正ノ要點ハ現行法ノ規定狹隘ニ失シ住所ノ安寧ヲ充分ニ保護スルニ足ラサルヲ以テ稍其規定ヲ補充シタルニ在リ

左ニ各本條修正ノ理由ヲ説明セン
第五十三條ハ現行法第七十一條及ヒ第七十二條ヲ合シ少シク修正ヲ加ヘタルモノナリ現行法第七十一條第一項ノ晝間ノ二字ハ本條第二項第一號

ノ規定ニヨリ自カラ明ナルヲ以テ之ヲ刪除セリ又同條ニハ人ノ住居シタル邸宅云々トアルカ爲メ從來往往ニシテ狹ク其意義ヲ解シ人ノ住居トシテ借受タル室内ニ侵入セル場合ノ如キハ罪ト爲ササルコトアリ此ヲ以テ本案ニ於テハ之ヲ人ノ住居ト改メ其住居ノ場所ヲ問ハサルコトト爲シ又從來船舶内ニ侵入スル罪無キカ爲メ實際上必要ヲ感スルコト屢々ナリシヲ以テ新ニ船舶ヲ加ヘタリ尙ホ修正ヲ爲シタル要點ハ現行法ニ在テハ唯侵入ノ行爲ヲ罰スルノミニシテ縱令正當ニ入りタル者ト雖モ要求ヲ受クテ退去セサル場合ノ規定ヲ缺キタルカ爲メ亦實際上極メテ不備ヲ感シタルヲ以テ本案ニ於テハ新ニ此カ規定ヲ設クタリ本條第二項ノ第一號ハ現行法第七十二條ノ趣旨ヲ採リタルモノニシテ第二號以下ハ現行法ト趣旨ニ於テ差異アルコト無シ

第二百五十四條ハ現行法第七十三條ト同一趣旨ノ規定ナリ

第二百五十五條、第二百五十六條ハ共ニ其必要ヲ認メ之ヲ設クタルナリ

第六節 祕密ヲ侵ス罪

第五十七條 故ナク封緘シタル信書ヲ開披、隱匿又ハ毀棄シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十八條 醫師、藥劑師、產婆、辯護士、辯護人、公證人、神職又ハ宗教ノ職ニ在ル者其業務ニ關シ委託ヲ受ケタルコトニ因リ知得タル人ノ祕密ヲ漏告シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス但證人トシテ事實ヲ陳述スル者ハ此限ニ在ラス

第五十九條 本節ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

(理由) 現行法ハ祕密ニ關スル罪ヲ以テ誹毀罪ト爲シ之ヲ其内ニ規定スト雖モ元來祕密ヲ侵スコトト人ヲ誹毀スルコトトハ其性質同一ナラサルヲ以テ本案ハ之ヲ分離シ別ニ本節ノ規定ヲ設クタルモノニシテ現行法第三百六十條ノ罪ノ外尙ホ信書其他ノ祕密書類ヲ保護スル規定ヲ新設シタリ

左ニ各本條修正ノ理由ヲ説明セシ

第五十七條ハ信書其他ノ祕密書類ヲ保護スルヲ目的トシ新ニ設クタル規定ニシテ現行法ニハ缺ケタル所ナリ唯信書ニ付テハ郵便條例ニ二三ノ規定アリト雖モ信書ハ前節ノ住所ト共ニ憲法ニ於テ特ニ保護シタル權利ナルヲ以テ之ヲ本法ニ規定スルヲ相當ト認メタルナリ

第五十八條ハ現行法第三百六十條ノ文字ヲ修正シタルニ止マリ趣旨ニ於テ

ハ全ク同一ナリ

第一百五十九條ハ現行法第三百六十一條ト同一趣旨ニ基ク規定ナリ

第七章 衛生ニ關スル罪

(理由) 本章ハ現行法第二編第五章健康ヲ害スル罪ノ規定ヲ修正シタルモノニシテ同章中第三節乃至第六節ハ他ノ法令ニ讓ルノ目的ヲ以テ之ヲ删除シタリ

第一節 阿片煙ニ關スル罪

第六十條 阿片煙ヲ輸入、製造又ハ販賣スル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第六十一條 阿片煙ヲ吸食スル器具ヲ輸入、製造又ハ販賣スル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第六十二條 稅關官吏阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ノ輸入ヲ許シタル者ハ七年以下ノ懲役ニ處ス

第六十三條 阿片煙ヲ吸食シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第六十四條 阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ヲ所有又ハ所持

シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第六十五條 本節ノ罪ヲ犯シタル者ニハ監視ヲ附加スルコトヲ得

(理由) 本節ノ規定ハ現行法第二編第五章第一節ト殆ソト同一ニシテ唯現行法第二百四十條ハ其必要ナキヲ以テ之ヲ删除シタルニ過キス但修正案ニ於テハ現行法ニ比シ其刑ヲ輕クシタルハ蓋シ現行法編纂ノ當時ニ在テハ嚴ニ阿片煙ヲ取締ルノ必要アリタルカ爲メナル可シト雖モ今日ニ在テハ其刑犯罪ニ比較シ稍酷ニ失スルヲ以テナリ
又修正案カ本罪ニ監視ヲ科シタルハ本罪ノ性質上極テ再犯ノ危険アルヲ以テナリ
各本條ニ於テ説明ヲ要ス可キモノ無キヲ以テ別ニ理由ヲ擧ケス

第二節 飲料水ニ關スル罪

第六十六條 人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十七條 水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其

水源ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第六十八條 人ノ飲料ニ供スル淨水ニ毒物其他人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第六十九條 水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其

水源ニ毒物其他人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル者ハ三年以上ノ有期懲役ニ處ス因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ七年以上ノ懲役ニ處ス

第七十條 公衆ノ飲料ニ供スル淨水ノ水道ヲ損壞又ハ壅塞シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

第七十一條 第六十六條乃至第六十八條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

(理由) 本節ノ規定ハ現行法第二編第五章第二節ニ修正ヲ加ヘタルモノナリ 本節修正ノ主要ナル點ヲ舉ケレハ

一 現行法ニハ公衆ノ用ニ供スル水道ヲ保護スル規定ナシト雖モ單ニ之ヲ

一人ノ用ニ供スルノ淨水等ニ比スレハ其害ノ及フ可キ範圍極メテ廣キヲ以テ本案ハ特ニ水道ニ關スル場合ノ規定ヲ設ケタリ

二 本節ノ犯罪ハ其結果タル危險頗ル重大ナルヲ以テ現行法ニ比シ一般ニ刑ヲ重クシタリ

左ニ各本條修正ノ理由ヲ説明セン

第六十六條ハ現行法第二百四十三條ト全ク同一ノ規定ナリ

第六十七條ハ公衆ノ用ニ供スル水道ヲ保護スルモノニシテ其水道ノ供スル飲用ノ淨水及ヒ其水源ヲ汚穢シテ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル場合ノ規定ナリ

第六十八條ハ現行法第二百四十四條ト全ク同一趣旨ノ規定ナリ

第六十九條モ亦第六十七條ト同シク水道ヲ保護スルモノニシテ本條ハ飲用ノ淨水又ハ水源ニ毒物其他人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル場合及ヒ此ニ因テ人ヲ死ニ致シタル場合ノ規定ナリ

第七十條モ亦前條ト同一ノ目的ヲ有シ本條ハ飲用淨水ノ水道ノ損壞又ハ壅塞ノ場合ノ規定ナリ

第七十一條ハ現行法第二百四十五條ト同一ノ趣旨ニ基ク規定ナリ

第八章 信用ヲ害スル罪

(理由) 本章ノ規定ハ現行法第二編第四章ニ修正ヲ加ヘタルモノニシテ大體ノ趣旨ニ於テハ現行法ト大差アルゴトナシ

本章修正ノ要點ヲ擧クレハ

- 一 現行法ハ第二編第四章中其第二節乃至第五節ニ於テ官私ノ印章、記號、文書等ニ關スルノ規定ヲ設ケ第二節ヲ官印偽造、第三節ヲ官文書偽造、第四節ヲ私印私書偽造、第五節ヲ免狀、鑑札及ヒ疾病證書偽造ノ罪ト爲シ印章、文書等ヲ私私ニ分チ以テ其刑ノ輕重ヲ定メ之ニ依リテ罪ヲ區別スト雖モ修正案ハ此分類法ヲ改メ更ニ犯罪ノ種類ニヨリテ區別ヲ設ケ本章第二節ヲ文書偽造第三節ヲ有價證券偽造第四節ヲ印章偽造ノ罪ト爲シタリ
- 二 現行法第二編第四章中第七節乃至第九節ハ何レモ他ノ法令ヲ以テ規定スルヲ便宜ナリト認メ之ヲ刪除シタリ
- 三 現行法ハ誣告罪ヲ身體ニ對スルモノト爲シ其第三編第一章第十二節中ニ規定スト雖モ本案ハ之ヲ以テ信用罪ト認メ本章第六節ニ於テ之ヲ規定シタリ

四 現行法ハ貨幣偽造罪ノ成立ニハ偽造ノ行爲ト行使ノ行爲トノ二要素ヲ必要ナリトシ而シテ單ニ偽造ノミノ行爲ハ之ヲ本刑ニ比シ一等ヲ減シテ罰スルコトト爲シ印章偽造罪中官印ニ付テハ偽造又ハ使用ノミヲ以テ犯罪成立ノ要素ト爲シ私印ニ付テハ偽造及ヒ使用ノ二行爲ヲ要素ト爲セリ又文書偽造罪ノ成立ニハ貨幣偽造罪ト同シク偽造及ヒ行使ノ二行爲ヲ要素ト爲スト雖モ單ニ偽造ノミニ付テハ之ヲ罪ト爲サス而シテ此ノ如キ區々タル規定ハ徒ラニ解釋ノ混雜ヲ來タスノミニシテ別ニ必要ナル理由アルニ非ス修正案ハ偽造罪ノ性質ニ考ヘ又此等ノ弊ヲ避クノカ爲メ總テ偽造罪ハ其通貨タルト文書又ハ印章タルヲ間ハス偽造ナル行爲ヲ以テ犯罪成立ノ唯一ノ要件ト爲シ且其偽造シタル物ノ行使ニ付テハ各本條ニ於テ別ニ此カ規定ヲ設ケルコトト爲シタリ

第一節 通貨偽造ノ罪

第七十二條 行使ノ目的ヲ以テ通用ノ貨幣、紙幣又ハ兌換券ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ無期又ハ五年以上ノ懲役ニ處ス

内國ニ流通スル外國ノ貨幣、紙幣又ハ兌換券ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ三年以上ノ有期懲役ニ處ス

第七十三條 偽造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ兌換券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ輸入シタル者ハ前條ノ例ニ同シ

第七十四條 偽造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ兌換券ヲ行使スル目的ヲ以テ之ヲ收得シタル者ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第七十五條 前三條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第七十六條 貨幣、紙幣又ハ兌換券ヲ收得シタル後其偽造又ハ變造ナルコトヲ知テ之ヲ行使シタル者ハ其價額三倍以下ノ罰金ニ處ス但一圓以下ニ下スコトヲ得ス

第七十七條 貨幣、紙幣又ハ兌換券ノ偽造、變造ノ用ニ供スル目的ヲ以テ器械又ハ原料ヲ準備シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第七十八條 本節ノ罪ヲ犯シ懲役ニ處ス可キ者ニハ公權剝奪ヲ附加スルコトヲ得 本節ノ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キ者ニハ監視ヲ附加スル

コトヲ得

(理由) 本節ノ規定ハ現行法第二編第四章第一節ニ修正ヲ加ヘタルモノナリ 本節修正ノ主要ナル點ヲ舉クレハ

- 一 現行法ハ通貨偽造罪ノ成立ニハ偽造又ハ變造ナル行為ト行使ナル行為トノ二要素ヲ必要トシ單ニ偽造ノ場合ニハ刑ヲ減輕スルコトト爲セリ然レトモ本案ニ於テハ通貨偽造ノ罪ハ通貨ノ偽造又ハ變造ノ成リタルトキニ成立ス可キモノト爲シ從テ偽造又ハ變造ヲ罰スルコトト爲シタリ
 - 二 現行法ハ貨幣ノ種類ヲ金銀貨及ヒ紙幣ト銅貨トニ分チ罪ノ輕重ヲ區別スト雖モ修正案ハ其必要無シト認メ此區別ヲ廢シタリ又兌換券ニ關スル規定ハ唯兌換券條例ニ在ルノミナルヲ以テ本案ハ茲ニ之ヲ收メタリ
 - 三 現行法第八十七條及ヒ第八十八條ハ貨幣偽造罪ノ幫助ノ場合ナルヲ以テ本案ハ總則從犯ノ規定ヲ以テ足レリトシ之ヲ刪除シタリ
 - 四 現行法第九十二條モ亦總則自首ノ規定ニ讓リ之ヲ刪除シタリ
- 左ニ各本條修正ノ理由ヲ説明セシ
- 第七十二條第一項ハ現行法第八十二條、第八十四條及ヒ第八十五條ノ規定ヲ合シ之ヲ修正シタルモノニシテ行使ノ目的ヲ以テ通貨タル貨幣、紙幣又

ハ兌換券ヲ偽造、變造シタル罪ノ規定ナリ、本條第二項ハ現行法第百八十三條及
ヒ第百八十四條ノ規定ヲ合シ之ヲ修正シタルモノニシテ内國ニ流通スル外國
ノ通貨ヲ偽造、變造シタル罪ノ規定ナリ

第百七十三條ハ現行法第百八十九條ト全ク同一趣旨ノ規定ナリ

第百七十四條ハ現行法第百九十條ト同一ノ趣旨ニ出タル規定ナリ

第百七十五條ハ本罪ノ未遂罪ノ規ニシテ現行法第百八十六條第一項末段ト

同一趣旨ノ規定タリ但本案ニ於テハ偽造通貨輸入罪ノ未遂ヲモ罰スルモノタリ

第百七十六條ハ現行法第百九十三條ト全ク同一趣旨ノ規定ニシテ唯罰金額ヲ

増加シタルノミナリ

第百七十七條ハ現行法第百八十六條第二項ト同一趣旨ノ規定ニシテ本節ノ罪

ハ經濟上尤モ重大ナル影響ヲ有スルヲ以テ其豫備ヲモ罰スルコトトセリ

第百七十八條ハ附加刑ニ關スル規定ナリ

第二節 文書偽造ノ罪

第百七十九條 行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽若クハ御名ヲ不正

ニ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ偽造シ又ハ偽造シタル御璽、國
璽若クハ御名ヲ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ偽造シタル者ハ

無期又ハ五年以上ノ懲役ニ處ス

御璽、國璽ヲ捺捺シ又ハ御名ヲ署シタル詔書其他ノ文書ヲ變
造シタル者亦同シ

第百八十條 行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若ク

ハ署名ヲ不正ニ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書

ヲ偽造シ又ハ偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署

名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書ヲ偽造シタ

ル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

公務所又ハ公務員ノ捺印、署名シタル文書ヲ變造シタル者亦

同シ

前二項ノ外公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書ヲ偽造シ若ク

ハ公務所又ハ公務員ノ作リタル文書ヲ變造シタル者ハ一年

以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百八十一條 公務員其職務ニ關シ行使ノ目的ヲ以テ詐偽ノ

文書ヲ作り又ハ不正ニ文書ヲ變造シタル者ハ印章、署名ノ有

無ヲ區別シ前二條ノ例ニ依ル

第八十二條 行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シテ權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書ヲ偽造シ又ハ偽造シタル他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書ヲ偽造シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

他人ノ印章ヲ押捺シ若クハ他人ノ署名シタル權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書ヲ變造シタル者亦同シ

第八十三條 公務員ニ對シ詐僞ノ申立ヲ爲シ戸籍簿、登記簿其他權利義務ニ關スル公正證書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
公務員ニ對シ詐僞ノ申立ヲ爲シ免狀又ハ鑑札ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス
第八十四條 醫師官署又ハ公署ニ提出ス可キ診斷書若クハ死亡證書ニ詐僞ノ記載ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ

百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十五條 第七十九條乃至第八十四條ニ記載シタル文書ヲ行使シタル者ハ其文書ヲ作り又ハ變造シタル者若クハ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ト同一ノ刑ニ處ス

第八十六條 本節ノ罪ヲ犯シ懲役ニ處ス可キ者ニハ公權剝奪ヲ附加スルコトヲ得
本節ノ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キ者ニハ監視ヲ附加スルコトヲ得

(理由) 本節ハ現行法第二編第四章中其第三節(第二百四條ヲ除ク)第四節ノ私書偽造罪ノ一部及ヒ第五節ノ規定ヲ合シ之ニ修正ヲ加ヘタルモノナリ
本節修正ノ主要ナル點ヲ擧クレハ

一 現行法ハ文書偽造罪ノ成立ニハ原則トシテ偽造ナル行爲ト行使ナル行爲トノ二要素ヲ必要トセリ從テ單ニ偽造シタルノミニテハ未タ罪ト爲ラス本案ハ前節ト同シク此點ニ修正ヲ加ヘ文書偽造罪ノ成立ハ行使ヲ待タスシテ既ニ偽造ノ時ニ在リト爲シ行使ノ有無ヲ問ハサルコトト爲シタリ

- 二 現行法ハ其第二百二條末段第二百三條第二項及ヒ第二百五條第二項ニ於テ官文書毀棄罪ノ規定ヲ設クト雖モ本罪ハ少シモ偽造罪ト關係無キヲ以テ本案ハ改メテ之ヲ本編第十二章第四節財物毀棄罪ノ中ニ規定シタリ
 - 三 現行法ハ其官文書偽造罪ニ於テ單ニ官吏ニ關スル規定ノミヲ設クルヲ以テ本案ハ之レヲ補修シ官吏ノミナラス其他公務員ニ關スル規定ヲ加ヘタリ
 - 四 現行法ハ官吏カ其職務上詐僞ノ文書ヲ作り又ハ不正ニ官ノ文書ヲ増減變換シタル場合ヲ以テ等シク官文書ノ偽造變造ト爲スト雖モ本案ハ之ヲ改メ詐僞文書ノ作製又ハ文書ヲ不正ニ増減變換シタル罪ト爲シタリ
 - 五 現行法ニハ官吏、公吏ニ對シ詐僞ノ中立ヲ爲シ戶籍其他ノ公正證書ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル場合ノ規定無ク唯近來實施セラレタル戶籍法等ニ之ニ關スル一部ノ規定アルノミナルヲ以テ本案ハ新ニ此ニ關スル規定ヲ設ケタリ
 - 六 第一百七十九條乃至第八十二條ノ未遂罪ヲ罰スルノ明文無キ理由ハ此等ノ場合ニ在テハ其行爲ノ未遂ハ多クハ第四節ニ於テ之レヲ罰スルヲ以テナリ
- 現行法ノ文書偽造罪ニ關スル規定殊ニ官文書ニ關シテハ刑ノ範圍狹キニ

過キ適用ノ際困難ヲ感スルコトナシトセス是以テ本案ハ之ヲ改メ充分ニ刑ノ範圍ヲ擴張シ裁判所ヲシテ情狀ニ因リ適宜ニ刑ヲ科セシムルコトト爲シタリ

左ニ各本條修正ノ理由ヲ説明セン

第一百七十九條ハ現行法第二百二條前段ト同一趣旨ノ規定ニシテ本案ニ在テハ偽造又ハ變造ノ手段ヲ示シタルナリ

第八十條ハ現行法第二百三條及ヒ第二百十三條ヲ合シ之ニ修正ヲ加ヘタルモノニシテ第一項ハ公務所又ハ公務員ノ印章、署名ヲ不正ニ使用シテ官吏、公吏其他公務ニ從事スル職員ノ作ルヘキ文書ヲ偽造シ又ハ偽造シタル此等ノ印章、署名ヲ使用シテ公務員ノ作ルヘキ文書ヲ偽造シタル場合ニ關シ第二項ハ公務員ノ捺印若クハ署名シタル文書ヲ變造シタル場合ニ關スル規定ナリトス、第三項ハ前二項以外ノ手段ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書ヲ偽造シ若クハ其作リタル文書ヲ變造シタル場合ニシテ本項ニ在テハ印章、署名等ヲ使用スルコト無キヲ以テ犯罪ノ結果重大ナラス其情狀モ亦從テ輕キヲ以テ前二項ニ比シ其刑ヲ輕クシタルモノナリ

第八十一條ハ現行法第二百五條第一項及ヒ第二百十四條第二項ト同一ノ場

合テ規定スルモノナリト雖モ其趣旨ニ於テハ全ク異ナル所アリ現行法ハ官吏カ其職務上詐僞ノ文書ヲ作ル場合ヲ以テ管掌ニ係ル文書ヲ偽造スル場合ト爲スト雖モ其文書タルヤ形式ニ於テハ官吏ノ職務上作りタル官文書ナルヲ以テ縱令實質ニ於テ瑕瑾アリト雖モ之ヲ以テ文書ノ偽造ト爲スハ不當ノ規定ナリト言ハサル可カラス是ヲ以テ修正案ハ現行法ノ規定ヲ改メ本條ニ於テ新ニ公務員カ其職務ニ關シテ詐僞ノ文書ヲ作りタル場合及ヒ不正ニ文書ヲ變造シタル場合ノ規定ヲ設ケタリ

第百八十二條ハ現行法第二百十條ニ修正ヲ加ヘタルモノニシテ現行法ハ賣買、貸借、贈遺、交換其他權利、義務ニ關スル證書ト其餘ノ祕書トヲ區別スト雖モ修正案ハ之ヲ改メ總テ權利、義務又ハ事實ノ證明ニ關スル文書ト爲シタリ

第百八十三條第一項ハ公務員ニ對シ詐僞ノ申立ヲ爲シ戶籍簿、登記簿其他權利、義務ニ關スル公正證書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル場合ニシテ從來現行法ニ於テ之ニ關スル規定ヲ缺キタルカ爲メ解釋區區ニ分レ或ハ之ヲ文書偽造ニ問ヒ之ヲ無罪ト爲セリ故ニ本案ハ明文ヲ設ケ此等ノ疑義ヲ避クルコトト爲シタリ

第二項ハ公務員ニ對シ詐僞ノ申立ヲ爲シ免狀又ハ鑑札ニ不實ノ記載ヲ爲サシ

メタル場合ノ規定ニシテ是レ又現行法ニ明文ヲキテ以テ之ヲ補修シタルモノトス

前二項ノ未遂ノ場合ハ印章偽造罪ニ問フ可カラサルヲ以テ第三項ヲ設ケ之ヲ罰スルコトヲ規定シタルモノトス

第百八十四條ハ現行法第二百五條ヲ修正シタルモノニシテ本案ハ醫師カ診斷書又ハ死亡書ニ詐僞ノ記載ヲ爲シタル場合ノミヲ規定シタリ

第百八十五條ハ本節ノ偽造又ハ變造シタル文書ノ行使ヲ罰スル規定ニシテ本案ハ前ニ擧ケタル如ク文書偽造罪ニ付テハ其偽造ノミヲ罰スルヲ以テ之ヲ行使シタル者ノ處分ヲ定ムルヲ要ス此ヲ以テ本條ニ於テハ單ニ行使シタル者ハ偽造又ハ變造シタル者若クハ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ト同一ノ刑ニ處スコトト爲シタリ而シテ本條ノ未遂ハ之ヲ罰スル必要アルヲ以テ第二項ニ於テ之カ規定ヲ設ケタリ

第百八十六條ハ附加刑ニ關スル規定ナリ

第三節 有價證券偽造ノ罪

第百八十七條 行使ノ目的ヲ以テ公債證書、會社ノ株券其他ノ

有價證券又ハ其裏書ヲ偽造若クハ變造シ又ハ詐僞ノ裏書ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

第百八十八條 偽造、變造又ハ詐僞ノ裏書ヲ爲シタル有價證券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ輸入シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

本條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第百八十九條 本節ノ罪ヲ犯シタル者ニハ公權剝奪及ヒ監視ヲ附加スルコトヲ得

(理由) 本節ノ規定ハ現行法ノ官文書偽造罪及ヒ私文書偽造罪中ヨリ有價證券ニ關スル部分ヲ抽出シ之ヲ合シテ一節トナシ且修正ヲ加ヘタルモノナリ本節ノ罪ハ特別ノ性質ヲ有スル流通證券ニ關スルモノニシテ普通ノ文書ト異ナル所アリ且主トシテ直接ニ財産上ノ利益ヲ目的トスルモノナルヲ以テ之ヲ他ノ文書偽造罪ト區別スルノ必要アリ又偽造ノミヲ以テ本罪成立ノ要件ト爲シタル所以ハ前節文書偽造罪ニ於テ述ヘタルカ如シ

左ニ各本條修正ノ理由ヲ説明セシ

第百八十七條ハ現行法第二百四條及ヒ第二百九條ヲ合シ之ヲ修正シタルモノニシテ現行法ハ公債證書、地券其他官吏ノ公證シタル文書ヲ官文書トシ爲替手形其他裏書ヲ以テ賣買ス可キ證書若クハ金額ト交換ス可キ約定手形ヲ私文書トシ別節ニ規定ヲ設クレトモ本案ハ官私ノ別ヲ廢シ之ヲ本條ニ合シ公債證書、會社ノ株券其他ノ有價證券ニ關スル規定ヲ設ケタリ又現行法ハ本條ノ罪ニ輕懲役ヲ科スト雖モ前ニ文書偽造罪ニ付テ學クタル如ク刑ノ範圍狹キニ失シ爲メニ罪狀輕キ者ニ對シテ重刑ヲ科スルノ止ムヲ得サルコトアリ之ニ反シテ罪質重キ者ニ對シテ輕キ刑ヲ科スルコトアリ本案ハ刑ノ範圍ヲ擴張シ此不都合ヲ避クルコトト爲シタリ

第百八十八條ハ前條ノ偽造證券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ輸入シタル場合ノ規定ニシテ第百八十五條ト同一ノ理由ニ基クモノナレトモ殊ニ輸入シタル場合ニモ之ヲ適用スル所以ハ此等ノ物タル信用經濟ノ發達ト共ニ殆ト貨幣ノ代用ヲ爲スコトアリ無記名ノ證券ノ如キハ流通ノ點ニ於テ貨幣紙幣又ハ兌換券ト異ナルコトナクハ第百七十三條ノ趣旨ヲ參酌シタルモノナリ

第百八十九條ハ附加刑ニ關スル規定ナリ

第四節 印章偽造ノ罪

第九十條 行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽又ハ御名ヲ偽造シタル者ハ三年以上ノ有期懲役ニ處ス

御璽、國璽又ハ御名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル御璽、國璽又ハ御名ヲ使用シタル者亦同シ

第九十一條 行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ偽造シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シタル者亦同シ

第九十二條 行使ノ目的ヲ以テ公務所ノ記號ヲ偽造シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

公務所ノ記號ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル公務所ノ記號ヲ使用シタル者亦同シ

第九十三條 行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章、署名ヲ偽造シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

他人ノ印章、署名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル印章、署名ヲ使用シタル者亦同シ

第九十四條 行使ノ目的ヲ以テ政府ヨリ發行スル印紙、郵便切手、封皮、葉書、帶紙又ハ郵便聯合條約國政府ノ發行スル郵便切手、封皮、葉書、帶紙ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

前項ニ記載シタル印紙、郵便切手、封皮、葉書、帶紙ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ輸入シタル者亦同シ

第九十五條 第九十條第二項、第九十一條第二項、第九十二條第二項、第九十三條第二項及ヒ前條第二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第九十六條 本節ノ罪ヲ犯シタル者ニハ公權剝奪及ヒ監視ヲ附加スルコトヲ得

(理由) 本節ハ現行法第二編第四章中其第二節及ヒ第四節ノ私印偽造罪ノ規定ヲ合シ之ニ修正ヲ加ヘタルモノナリ
本節修正ノ主要ナル點ヲ舉クレハ

一 現行法ハ官印偽造罪ニ付テハ各其偽造又ハ使用ノ行爲ヲ罰シタリ本案モ亦印章偽造罪ニハ偽造ナル一行爲ヲ以テ成立ノ要件ト爲スコト現行法ト同一ナリト雖モ其偽造印ヲ使用シテ文書ヲ偽造シタル場合ハ之ヲ文書偽造罪中ニ規定シ本節ニ於テハ單ニ印章ヲ偽造シ眞印ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造印ヲ使用スルモ文書ヲ偽造セサル場合ノミヲ規定シタリ又現行法ハ私印偽造罪ニ付テハ偽造及ヒ使用ノ二行爲ヲ以テ犯罪成立ノ要件ト爲スト雖モ本案ハ之ヲ改メ前ニ擧クタルカ如ク偽造ノミヲ以テ成立ノ要件ト爲シ使用ノ場合ハ官印ト等シク此ニ因テ文書偽造トナルトキハ之ヲ文書偽造罪ト爲シ單ニ眞印ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造印ヲ使用シテ文書ヲ偽造セサル場合ノミヲ本節ニ規定シタリ而シテ本節ニ於テ單ニ偽造ノ行爲ノミヲ以テ罪ノ成立要件ト爲シタルハ他ノ偽造罪ニ付改正ヲ爲シタルト同一ノ理由ニ出タルモノナリ

二 現行法第九十九條ハ特別法ニ規定ス可キモノト爲シ之ヲ刪除シタリ

三 文書偽造罪ト同一ノ理由ニ因リ官印若クハ私印ノ規定ヲ擴張シ汎ク公務所公務員及ヒ一私人ノ印章ニ關スル規定ヲ設ケタリ

四 文書偽造罪ト同シク現行法ハ印章偽造罪ノ刑ニ範圍狹キニ失スルヲ以テ

改メテ之ヲ擴張シタリ又修正案ハ本節ノ罪ヲ單ニ印章偽造ノ場合ニ限り從テ之ヲ使用スルモ文書偽造トナラサル場合ノミヲ規定スルヲ以テ其罪狀現行法ニ比シ稍輕キ所アルカ故ニ一般ニ刑ノ程度ヲ低下シタリ

左ニ各本條修正ノ理由ヲ説明セン
第九十九條第一項ハ現行法第九十四條ト同一趣旨ノ規定ニシテ偽璽ヲ使用シテ文書ヲ偽造シタル場合ハ文書偽造罪ト爲シタルヲ以テ之ヲ刪除シタリ第二項前段ハ現行法第九十七條中御璽國璽盜用ノ規定ト全ク同一趣旨ナリ後段ハ偽造シタル御璽國璽又ハ御名ヲ使用スルモ文書ヲ偽造セサリシ場合ノ規定ニシテ亦偽造ト同シク之ヲ罰スルモノナリ

第九十一條第一項ハ現行法第九十五條ト同一趣旨ノ規定ニシテ偽印ヲ使用シテ文書ヲ偽造シタル場合ハ前條ト同シク文書偽造罪ト爲シタルヲ以テ之ヲ刪除シタリ第二項前段ハ現行法第九十七條中官印盜用ノ規定ト全ク同一趣旨ナリ後段ハ偽造官印ヲ使用スルモ文書ヲ偽造セサリシ場合ノ規定ニシテ前條第二項末段ノ規定ニ倣ヒ偽造ト同シク之ヲ罰スルモノナリ

第九十二條第一項ハ現行法第九十六條ト同一ノ趣旨ノ規定ニシテ現行法ハ產物商品等ニ用フル記號ト書籍什物等ニ用フル記號トヲ區別スト雖モ其必

要無キノミナラス却テ解釋上混雜ヲ來タスノ虞アルヲ以テ本案ハ此區別ヲ廢シ一般ニ記號偽造ノ罪ト爲シタルモノナリ而シテ偽造記號使用ノ罪ハ前二條ト同一ノ理由ニ基キ之ヲ刪除シタリ第二項前段ハ現行法第九十七條記號盜用ノ規定ト全ク同一ノ趣旨ナリ後段ハ偽造シタル記號ヲ使用スルニ文書ヲ偽造セザリシ場合ノ規定ニシテ記號偽造ト同シク之ヲ罰スルモノナリ

第九十三條ハ現行法第二百八條ト全ク同一趣旨ノ規定ニシテ偽造私印ヲ使用シテ文書ヲ偽造シタルトキハ之ヲ文書偽造罪ト爲シタルカ爲メ之ニ關スル規定ヲ刪除シタリ第二項後段ハ偽造シタル私印ヲ使用スルモ文書ヲ偽造セザル場合ノ規定ニシテ本案ハ之ヲ私印偽造ト同シク處罰スルコトト爲シタリ

第九十四條ハ現行法第九十八條ヲ修正シタルモノニシテ現行法ハ印紙界紙及ヒ郵便切手ニ關スル規定ナレトモ界紙ハ今日已ニ廢セラレタルヲ以テ之ヲ削リ更ニ封皮、葉書及ヒ帶紙ヲ加ヘタリ又郵便聯合條約國政府ノ發行スル郵便切手、封皮、葉書及ヒ帶紙ハ帝國政府ノ發行スルモノト同一ノ效力アルモノナルヲ以テ本案ニ於テモ刑法上亦之ヲ帝國政府發行ノモノト同一ニ保護スル必要アリト認メ之ニ關スル規定ヲ新設シタリ

第九十五條ハ現行法第二百條ニ該當シ本節第九十條乃至第九十四條ノ

各第二項ノ未遂罪ハ之ヲ處罰スル必要アレハナリ然レトモ單ニ偽造又ハ變造ノ未遂ヲ處罰スル必要ナキヲ以テ之ヲ除外シタルハ現行法ト異ナル所ナリ

第九十六條ハ附加刑ニ關スル規定ナリ

第五節 偽證ノ罪

第九十七條 法律ニ依リ宣誓シテ證人トナリタル者虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ十年以下ノ懲役ニ處ス

第九十八條 前條ノ罪ヲ犯シタル者證言シタル事件ノ裁判確定前又ハ懲戒處分前自白シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第九十九條 法律ニ依リ宣誓シテ鑑定人又ハ通事トナリタル者虛偽ノ鑑定又ハ通譯ヲ爲シタルトキハ前二條ノ例ニ依ル

第二百條 本節ノ罪ヲ犯シタル者ニハ公權剝奪ヲ附加スルコトヲ得

(理由) 本節ハ現行法第二編第四章第六節ノ規定ニ修正ヲ加ヘタルモノナリ

本節修正ノ主要ナル點ヲ舉クレハ

一 現行法ハ刑事ニ關スル證人ト民事商事又ハ行政裁判ニ關スル證人トヲ區別スト雖モ是レ刑事ノ證人ニ對シ其偽證ノ場合ニ科ス可キ刑ニ付キ詳細ナル區別ヲ爲シタルカ爲メニシテ本案ハ次項ニ説明スル如ク刑事ニ關スル證人ノ偽證ニ科ス可キ刑ヲ變更シタルヲ以テ刑事ト他ノ民事商事又ハ行政事件トヲ區別スル必要消滅シタリ是ヲ以テ總テ司法裁判所行政裁判所又ハ其他ノ特別裁判所タルヲ問ハス證人トシテ偽證シタル場合ニ關シ同一ノ規定ヲ設ケタリ

二 現行法ハ刑事ニ關スル偽證ヲ分チ被告人ヲ曲庇スル目的ニ出タルモノト之ヲ陷害スル目的ニ出タルモノト爲シ其刑ヲ異ニシ又偽證ニ因リ被告人正當ノ刑ヲ免カレタル場合ハ曲庇ノ刑ニ一等ヲ加重シ或ハ偽證ノ爲メ被告人刑ニ處セラレタル場合ニ在テハ反坐ノ刑ヲ科ス等犯罪ノ情狀ニ因リ細密ナル規定ヲ設クト雖モ此カ爲メ却テ適用上ノ不便ヲ來シ疑義ヲ生スルコト少カラズ本案ハ此弊ヲ避ケンカ爲メ總テ此等ノ情狀ハ之ヲ裁判所ノ認定ニ一任シテ適宜ノ刑ヲ科セシメント欲シ此等煩雜ナル規定ハ全ク之ヲ除キタリ

三 現行法第二百二十五條ハ偽證ノ教唆ノ場合ナルヲ以テ本案ハ之ヲ總則ノ

規定ニ讓ルコトト爲シ刪除シタリ

左ニ各本條修正ノ理由ヲ説明セシ

第九十七條ハ現行法第二百十八條乃至第二百二十三條ノ規定ヲ修正シタルモノニシテ既ニ其理由ヲ説明シタル如ク本案ハ刑事ト他ノ裁判所トノ區別ヲ廢シ總テ此ヲ本條ニ規定シ又刑事ノ偽證ニ付テモ詳細ナル規定ヲ廢除シ總テ裁判所ヲシテ情狀ニ因リ刑ヲ定メシムルコトト爲シタリ而シテ本條ハ廣ク法律ニ依リト爲シタルカ故ニ司法裁判所行政裁判所又ハ其他ノ裁判所ノ命ニ因リ宣誓シテ證人トナリタル者カ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル場合ノ規定ニシテ各種ノ情狀ヲ包含スル極メテ廣キ條文ナルヲ以テ其刑ノ範圍モ亦充分ニ之ヲ擴張シ裁判所ヲシテ自由ニ適宜ノ刑ヲ科セシムルコトト爲シタリ

第九十八條ハ現行法第二百二十六條ノ趣旨ヲ少シク修正シタルモノニシテ乃チ現行法ハ其事件ノ裁判宣告前自首スルトキハ本刑ヲ免スルコトヲ規定スト雖モ本案ハ其事件ノ裁判確定前又ハ懲戒處分前被告人ノ自首ニ因リ偽證タルコト發覺スレハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得ト改メタリ是一方ニ於テハ自首ヲ自白ト改メタルヲ以テ刑ヲ減輕スヘキ場ヲ多クシ又一方ニ於テハ自首以外ノ自白ニモ刑ヲ減輕スルヲ以テ其減輕ノ度ヲ少ク爲シタルモノナリ

第百九十九條ハ現行法第二百二十四條ト全ク同一趣旨ノ規定ナリ
第二百條ハ附加刑ニ關スル規定ナリ

第六節 誣告ノ罪

第二百一一條 人ヲシテ刑事又ハ懲戒ノ處分ヲ受ケシムル目的
ヲ以テ不實ノ申告ヲ爲シタル者ハ第百九十七條及ヒ第二百
條ノ例ニ依ル

第二百二條 前條ノ罪ヲ犯シタル者申告シタル事件ノ裁判確
定前又ハ懲戒處分前自白シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除
スルコトヲ得

(理由) 本節ハ現行法第三編第一章第十二節中誣告ノ罪ノ規定ニ少ク修正ヲ
加ヘタルノミニシテ現行法ニ於テハ人ヲシテ行政上ノ懲戒處分ヲ受ケシムル
爲メノ誣告ニ關スル規定ヲ缺クテ以テ本案ハ其必要ヲ認メテ之ヲ補修シタリ
又本節ノ位地ヲ變更シタルハ誣告ノ罪ハ主トシテ信用ニ關スルモノニシテ身
體ニ對スルハ寧ロ本罪ノ結果ニ過キサレハナリ
現行法第三百五十七條ハ本案ニ於テ偽證罪ノ場合ニ被告人刑ニ處セラレタル

ト否トヲ分タス處罰ノ程度ハ一ニ裁判所ノ認定ニ任スルコトトシ之カ爲メ刑
ノ範圍ヲ廣クシタルト同一ノ理由ニ基キ且本節ノ罪ハ偽證罪ノ例ニ依リ處斷
スルヲ以テ現行法第二百一一條及ヒ第二百二十二條ト同シク其必要ナキヲ
以テ之ヲ刪除シタリ

左ニ各本條修正ノ理由ヲ説明セン

第二百一一條ハ現行法第三百五十五條ヲ修正シタルモノニシテ人ヲシテ刑事又
ハ懲戒ノ處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ不實ノ申告ヲ爲シタル場合ノ規定ニシ
テ其處分ハ現行法ト同シク偽證罪ノ例ニ依リテ處罰スルコトトセリ
第二百二條ハ現行法第三百五十六條ヲ修正シタル規定ニシテ自首ヲ自白ト改
メ本刑ヲ免ストアルヲ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得ト改メタルハ共ニ第
百九十八條ト同一ノ趣旨ニ基キタルモノナリ

第九章 風俗ヲ害スル罪

(理由) 本章ハ現行法第二編第六章及ヒ第七章ヲ合シ此ニ第三編第一章第十一
節ヲ加ヘテ修正シタル規定ナリ現行法ハ第二編第六章ニ於テ風俗ヲ害スル罪
トシテ公然ノ猥褻ノ所行又ハ公然猥褻ノ物品ノ陳列又ハ販賣賭博富籤及ヒ神

祠佛堂等ニ對スル公然ノ不敬ニ關スル規定ヲ設ケ而シテ死屍毀棄罪及ヒ墳墓發掘罪ヲ別異シテ同編第七章ニ規定スト雖モ後者モ亦主トシテ風俗ニ關スルモノナルヲ以テ本案ハ之ヲ本章ニ合併セリ又現行法第三編第一章第十一節ノ猥褻姦淫及ヒ重婚ノ罪モ身體ニ對スルヨリモ寧ロ風俗ヲ害スルモノト認メ之ヲ本章中ニ移スコトト爲シタリ

第一節 猥褻及ヒ重婚ノ罪

第二百三條 公然猥褻ノ行爲ヲ爲シタルモノハ科料ニ處ス

第二百四條 猥褻ノ文書、圖畫其他ノ物品ヲ頒布シ又ハ公然陳列シ若クハ販賣スル者ハ科料ニ處ス

本條ノ罪ニハ沒收例ヲ適用ス

第二百五條 十二歳以上ノ男女ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ以テ猥褻ノ行爲ヲ爲シ又ハ其精神障礙若クハ抗拒不能ニ乘シテ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者ハ七年以下ノ懲役ニ處ス

十二歳ニ滿タサル男女ニ對シ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者亦同シ

シ

第二百六條 暴行又ハ脅迫ヲ以テ十二歳以上ノ婦女ヲ姦淫シ又ハ其精神障礙若クハ抗拒不能ニ乘シテ姦淫シタル者ハ強姦ノ罪ト爲シ三年以上ノ有期懲役ニ處ス

十二歳ニ滿タサル幼女ヲ姦淫シタル者亦同シ

第二百七條 第二百五條及ヒ第二百六條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百八條 第二百五條及ヒ第二百六條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第二百九條 第二百五條及ヒ第二百六條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ無期又ハ五年以上ノ懲役ニ處ス

第二百十條 營利ノ目的ヲ以テ淫行ノ常習ヲキ婦女ヲ勸誘シテ姦淫セシメタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百十一條 有夫ノ婦姦通シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス有夫ノ婦ニ姦シタル者亦同シ

本條ノ罪ハ本夫ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス但本夫姦通ヲ縱容シタルトキハ告訴ノ效ナシ

第二百十二條 配偶者アル者重テ婚姻ヲ爲シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十三條 第二百五條、第二百六條及ヒ第二百九條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ公權剝奪ヲ附加スルコトヲ得

第二百十條ノ罪ヲ犯シ懲役ニ處ス可キ者ニハ公權剝奪及ヒ監視ヲ附加スルコトヲ得

(理由) 本節ハ主トシテ現行法第三編第一章第十一節及ヒ第二編第六章中ノ第二百五十八條及ヒ第二百五十九條ヲ合シ少シク之ニ修正ヲ加ヘタルモノナリ左ニ各本條修正ノ理由ヲ説明セン

第二百三條ハ現行法第二百五十八條ト同一趣旨ノ規定ニシテ現行法ハ本條ノ罪ニ罰金ヲ科スト雖モ本案ハ罪質輕微ナリトシ科料ヲ科スルコトトセリ但金額ニ至リテハ大差ナシ

第二百四條ハ現行法第二百五十九條ト其趣旨ヲ同フス其修正ノ點ハ新ニ頒布ナル語ヲ加ヘ公然販賣スルノ外廣ク公衆ニ分ツコトヲ禁シタリ又現行法ハ販賣シタル者云々トアリテ猥褻ノ圖畫物品ヲ販賣セサレハ之ヲ罰セスト雖モ將サニ販賣セントシタルトキモ亦之ヲ罰スルノ必要アルヲ以テ本案ハ改メテ販

賣スル者云々ト爲シタリ又刑ノ改正ハ前條ト同一ノ理由ニ出テ第二項ノ規定

ハ本案第二十六條ノ結果ヨリ來ル規定ニシテ現行法ト全ク其趣旨ヲ同フス

第二百五條第一項ハ現行法第三百四十六條後半ノ規定ト其趣旨ヲ同フス只現行法ニハ被害者ノ精神障礙若クハ抗拒不能ナル場合ニ關スル規定ヲ缺クルヲ以テ本案ハ之ヲ補修シタリ又刑期ニ付テモ現行法ハ輕ニ失スト認メ之ヲ重ク爲セリ本條第二項ハ現行法第三百四十六條前半及ヒ第三百四十七條ヲ合シタル規定ニシテ其趣旨ニ於テハ全ク現行法ニ同シ

第二百六條第一項ハ現行法第三百四十八條及ヒ第三百四十九條後半ヲ合併シタルモノニシテ大體ニ於テハ現行法ト全ク同一ナリ唯現行法第三百四十八條第二項ハ其文字ニ於テ穩當ヲ缺クヲ以テ之ヲ改メタリ第二項ハ現行法第三百四十九條前半ト同一趣旨ノ規定ナリ

第二百七條ハ前二條ノ未遂罪ノ規定ニシテ現行法ハ唯強姦ノ未遂罪ヲ罰スト雖モ第二百五條ノ罪モ亦其必要アルヲ以テ未遂罪ノ規定ヲ設ケタルナリ

第二百八條ハ現行法第三百五十條ト同シク親告罪ノ規定ニシテ現行法ハ被害者又ハ親屬ノ告訴ヲ待ツコトト爲スト雖モ本案ハ之ヲ改メ單ニ告訴ヲ待テ其罪ヲ論スルコトトシ其告訴ヲ爲ス者ノ何人タルヤハ刑事訴訟法及ヒ民法ノ規

定ニ依リテ定マル趣旨ニシテ此ニ明示セサルコトトセリ是レ親告罪ノ場合ニ一々之ヲ明示スルノ繁ヲ省クモノニシテ大體被害者又ハ其法定代理人ニ外ナラサルナリ

第二百九條ハ現行法第三百五十一條ト其規定ノ場合ヲ同クスト雖モ趣旨ニ於テハ之ヲ修正シタリ乃チ現行法ハ本章ノ罪ヲ犯シ強姦以外ノ行爲ニ因リ人ヲ死傷ニ致シタルトキハ毆打創傷罪ニ比シ重キニ從テ處斷シ強姦ニ因リ人ヲ死傷ニ致シタルトキハ特ニ刑ヲ設ケタリ修正案ハ強姦ト否トニ因リ場合ヲ區別セズ第二百五條及ヒ第二百六條ノ罪ヲ犯シ因テ之ヲ死傷ニ致シタルトキハ特ニ刑ヲ設ケ無期又ハ五年以上ノ懲役ニ處スルコトトセリ是レ通常ノ傷害罪ニ比シ其情狀重キモノアルヲ以テナリ

第二百十條ハ現行法第三百五十二條ニ修正ヲ加ヘタルモノニシテ現行法ハ十六歲未滿ノ男女ノ淫行ノ勸誘媒合ヲ處罰スト雖モ其趣旨稍廣キニ失スルヲ以テ本案ハ之ヲ改メ第一ニ營利ノ目的ニ出テタルモノナルコトヲ要件トシ第二ニ淫行ノ常習ナキ婦女ノミヲ保護スルコトト爲セリ此レ營利ノ目的ニ出テタルモノニ非サレハ之ヲ罪トスルノ必要ナク又男子ハ婦女ニ比シ之ヲ保護スルキ必要少ナク且婦女ト雖モ平生品行善良ニシテ淫行ノ常習ナキモノノミヲ保

護スルヲ以テ足レハナリ

第二百十一條ハ現行法第三百五十三條ヲ修正シタルモノニシテ現行法ニハ其第一項末文ニ其相姦スル者亦同シトアルヲ改メ有夫ノ婦ニ姦シタル者亦同シト爲シタルハ語弊ヲ避クル爲メ文字ヲ修正シタルニ止マリ趣旨ニ於テハ改變アルコトナシ

第二百十二條ハ現行法第三百五十四條ト全ク同一趣旨ノ規定ナリ

第二百十三條ハ附加刑ニ關スル規定ニシテ第二項ハ第二十條ノ犯罪ノ再犯ヲ防遏スル目的ヲ以テ新ニ設ケタルモノナリ

第二節 賭博及ヒ富籤ニ關スル罪

第二百十四條 偶然ノ輸贏ニ關シ財物ヲ以テ博戲又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス但一時ノ娛樂ニ供スル物品ヲ賭シタル者ハ此限ニ在ラス

第二百十五條 常習トシテ博戲又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

博戲場ヲ開張シ又ハ博徒ヲ結合シテ利ヲ圖リタル者ハ五年

以下ノ懲役ニ處ス

第二百十六條 允許ヲ得スシテ富籤ヲ發賣シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

富籤發賣ノ取次ヲ爲シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百十七條 允許ヲ得スシテ發賣シタル富籤ヲ買取シタル者ハ科料ニ處ス

第二百十八條 本節ノ罪ヲ犯シ懲役ニ處ス可キ者ハ監視ヲ附加スルコトヲ得

(理由) 本節ハ現行法第二編第六章中賭博及ヒ富籤ニ關スル規定ニ修正ヲ加ヘタルモノナリ

本節修正ノ主要ナル點ヲ舉クレハ

- 一 修正案ハ賭博ニ關スル規定ヲ改メ常習トシテ之ヲ爲ス者ト否ラサル者トヲ分チ常習ト爲ササル者ニ付テハ單ニ罰金ヲ科シ自由刑ヲ科セス是レ常習ト爲ササル者ニ付テハ其生ス可キ害ノ程度極テ少ナケレハナリ
- 二 現行法第二百六十一條本文ノ後段ハ總則從犯ノ規定ヲ適用スルコトト

爲シ之ヲ刪除シ同條第二項モ亦必要ナキヲ以テ之ヲ刪除シタリ

三 現行法ハ富籤ニ付キ只其興行者ニ關スル規定ノミヲ設ケ其他ハ之ヲ特別法ノ規定ニ讓リタルヲ以テ不便少ナカラス故ニ本案ハ富籤ノ取次又ハ購買ニ關スル規定ヲ新設シタリ

左ニ各本條修正ノ理由ヲ説明セン

第二百十四條ハ現行法第二百六十一條ヲ修正シタル規定ニシテ修正ノ要旨ヲ舉クレハ現行法ハ單ニ博奕ヲ爲シタル者ハ云々ト規定スルヲ以テ解釋上疑義ヲ生スルコト屢々ナリ之ヲ以テ本案ハ詳シク之ヲ規定シ偶然ノ輸贏ニ關シテ博戲又ハ賭事ヲ爲シタル者ト改メ疑義ヲ避ケタリ次ニ現行法ハ現ニ博奕ヲ爲シ云々ト規定スルカ爲メ發覺ノ當時現ニ博奕ヲ爲スニ非サレハ罪トナラストノ解釋行ハレ極メテ不便ヲ感スルヲ以テ本案ハ現ニ二字ヲ削リ此弊ヲ濟ヘリ又現行法ハ其但書ニ於テ飲食物ヲ賭スル者ハ此限ニ在ラスト規定シタルカ爲メ遂ニハ飲食物ヲ以テ金錢ニ代用スルコト行ハルルニ至レリ之ヲ以テ本案ハ此點ヲ改メ一時ノ娛樂ニ供スル物品ヲ賭シタル者ハ此限ニ在ラスト規定シ飲食物ト雖モ金錢ニ代用シタル場合ノ如キハ之ヲ罰シ飲食物ニ非スト雖モ單ニ娛樂ニ供スル物品ナルトキハ之ヲ罰セサルコトト爲シ其認定ハ全ク之ヲ裁

判所ニ一任シタリ

第二百十五條第一項モ亦現行法第二百六十一條ノ趣旨ヲ修正シ新ニ設ケタル規定ニシテ現行法ハ常習トシテ賭博ヲ爲ス者ト否ラサル者トテ區別セスト雖モ本案ハ之ヲ區別シ本條ニ於テ常習トシテ博戯又ハ賭事ヲ爲シタル者ノ規定ヲ新設シタルナリ而シテ本項ノ罪ハ前條ト異ナリ其弊害頗ル大ナルヲ以テ重ク之ヲ罰スルコトト爲セリ、本條第二項ハ現行法第二百六十條ト全ク同一趣旨ノ規定ナリ

第二百十六條第一項ハ現行法第二百六十二條ト全ク同一ノ趣旨ニシテ只文字ヲ修正シタルニ止マル、本條第二項ハ明治十五年第二十五號布告第一條ノ富籤賣買ノ牙保ノ規定ヲ修正シタルモノニシテ牙保ナル文字ヲ取次ト改メタルノミナリ

第二百十七條ハ明治十五年第二十五號布告第二條ヲ修正シタル規定ニシテ同條ノ其價ヲ拂ヒタルト未タ拂ハサルトヲ問ハスノ文句及ヒ末段ハ必要ナキヲ以テ之ヲ刪除シ又其刑ハ重キニ失スルヲ以テ改テ科料ニ處スルコトトセリ、第二百十八條ハ附加刑ニ關スル規定ニシテ本節ノ罪ハ概シテ再犯ノ虞アルカ故ニ監視ヲ附加スルコトヲ得ルコトト爲セルナリ

第三節 禮拜所及ヒ墳墓ニ關スル罪

第二百十九條 神祠、佛堂、墓所其他禮拜所ニ對シ公然不敬ノ所爲アル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス
說教、禮拜又ハ葬式ヲ妨害シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百二十條 墳墓ヲ發掘シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス
第二百二十一條 死體、遺骨又ハ棺内ニ藏置シタル物件ヲ毀損、遺棄若クハ領得シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第二百二十二條 第二百二十條ノ罪ヲ犯シ因テ死體、遺骨又ハ棺内ニ藏置シタル物件ヲ毀損、遺棄若クハ領得シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第二百二十三條 允許ヲ得スシテ改葬ヲ爲シタル者ハ科料ニ處ス

檢視ヲ經スシテ變死ノ屍ヲ葬リタル者亦同シ

(理由) 本節ノ規定ハ現行法第二編第七章及ヒ第二百六十三條ヲ合シテ少シク

之ヲ修正シタルモノナリ

左ニ各本條修正ノ理由ヲ説明セン

第二百十九條ハ現行法第二百六十三條ト全ク同一ノ趣旨ニシテ唯現行法ノ刑ハ輕キニ失スルヲ以テ之ヲ重クシタリ又第二項ニ誡教及ヒ禮拜ノ外葬式ヲ加ヘ現行法ノ不備ヲ補修セリ

第二百二十條ハ現行法第二百六十五條ト同一趣旨ノ規定ニシテ修正案ハ唯墳墓ヲ發掘シタル行爲ヲ罰シ死體等ヲ露出遺棄若クハ毀損シタル場合ハ之ヲ他ノ條ニ規定セリ

第二百二十一條ハ現行法第二百六十四條ヲ修正シタルモノニシテ現行法ハ唯死屍ニ付テノミ規定ヲ設クト雖モ本案ハ之ニ遺骨其他棺内ニ藏置シタル物件ヲ加ヘ毀棄ヲ改メ毀損遺棄及ヒ領得ト爲シ其不備ヲ補修セリ又現行法ニハ埋葬ス可キ死屍トアレトモ死體若クハ遺骨ハ埋葬ス可キ物タルト否トヲ區別スルノ必要ナキヲ以テ之ヲ刪除シタリ

第二百二十二條ハ第二百二十九條ノ罪ヲ犯シ之ニ因テ死體遺骨又ハ棺内ニ藏置シタル物件ヲ毀損遺棄若クハ領得シタル場合ノ規定ニシテ同條ト相牽連セラル行爲ニ關スルモノナリ

第二百二十三條第一項ハ新ニ設ケタル規定ニシテ允許ナクシテ改葬スルコトヲ禁スル趣旨ナリ本條ノ規定ノ結果トシテ改葬ノ目的ヲ以テ墳墓ノ發掘等ヲ爲シタルモノハ第二百二十條ノ罪ト爲ルコトナク從テ同條ノ罪ハ改葬以外ノ目的ヲ以テ犯スモノナルコトヲ知ルニ足ル

第二項ハ變死ノ屍ニ關スル規定ニシテ檢視ヲ經スシテ之ヲ葬ルコトヲ禁スル規定ナリトス

第十章 瀆職ノ罪

第二百二十四條 公務員其職權ヲ濫用シ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フヘキ權利ヲ妨害シタル者ハ六月以下ノ禁錮ニ處ス

第二百二十五條 裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ若クハ之ヲ補助スル者其職權ヲ濫用シ人ヲ逮捕又ハ監禁シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第二百二十六條 裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ若クハ之ヲ補助スル者又ハ囚人、監置人、留置人、懲治人ノ看守若クハ護送ノ職

ニ在ル者刑事被告人、囚人、監置人、留置人又ハ懲治人ニ對シ暴行又ハ陵虐ノ行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第二百二十七條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百二十八條 水火、風震其他非常ノ事變ニ際シ刑事被告人、囚人、監置人、留置人、懲治人ノ看守若クハ護送ノ職ニ在ル者避難ノ爲メ必要ノ處分ヲ爲サス因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ照シテ處斷ス

第二百二十九條 公務員又ハ仲裁人其職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若クハ約束シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

本條ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其價額ヲ追徵ス

第二百三十條 公務員又ハ仲裁人ニ賄賂ヲ贈與、提供又ハ約束

シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス
本條ノ罪ヲ犯シタル者事未タ發覺セサル前自首シタルトキハ其刑ヲ免除ス裁判確定前自首シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第二百三十一條 公務員又ハ仲裁人情ニ徇ヒ又ハ怨ヲ挾サミ其職務ニ關シ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササル者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第二百三十二條 公務員又ハ仲裁人自己ニ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ利益ヲ得セシムル爲メ其職務ニ關スル祕事ヲ漏泄シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第二百三十三條 第二百二十九條乃至第二百三十二條ノ罪ヲ犯シ懲役ニ處ス可キ者ニハ公權剝奪ヲ附加スルコトヲ得

(理由) 本章ハ現行法第二編第九章官吏瀆職罪ノ中其第二節官吏人民ニ對スル罪ノ規定ニ修正ヲ加ヘタルモノナリ

本章修正ノ主要ナル點ヲ舉ゲレハ

一 現行法ハ唯官吏ノ職務ニ關シテノミ規定ヲ設ケタルヲ以テ其範圍極メテ

狹ク實際上不便少ナカラス故ニ本案ハ之ヲ改メ廣ク公務員ノ瀆職ニ關スル規定ヲ設ク以テ本節適用ノ範圍ヲ廣ク爲シタリ

二 現行法第二百七十七條、第二百七十九條及ヒ第二百八十三條ハ共ニ他ノ特別ノ法令ニ規定ス可キモノトナシ之ヲ刪除シタリ

三 現行法ニハ賄賂ヲ贈與シタル罪及ヒ公務員ノ職務上ノ祕事ヲ漏泄スル罪ノ規定無シト雖モ實際上其必要ヲ感スルヲ以テ本案ハ新ニ之ニ關スル規定ヲ設クタリ

左ニ各本條修正ノ理由ヲ説明セシ

第二百二十四條ハ現行法第二百七十六條ト同一趣旨ノ規定ニシテ修正案ハ官吏ノ外廣ク公務員ニ關スル規定ト爲シタルノミニシテ禁錮ノ刑ヲ科シタルハ現行法カ輕禁錮ヲ科スルト同一ノ理由ニ基キタルモノナリ

第二百五條ハ現行法第二百七十八條ニ修正ヲ加ヘタルモノニシテ現行法ハ逮捕官吏カ不法ニ人ヲ逮捕又ハ監禁シタル場合ヲ規定スルモノナルヲ以テ本案ハ其趣旨ヲ擴張シ廣ク裁判檢察又ハ警察ノ職務ヲ行フ者若シハ其補助者カ其職權ヲ濫用シ不法ニ人ヲ逮捕又ハ監禁シタル場合ノ規定ヲ設クタルナリ又現行法ハ監禁日數十日ヲ加フル毎ニ一等ヲ加フル主義ヲ採ルト雖モ細密ニ

涉リ益ナキヲ以テ本案ハ之ヲ改メ刑期ノ範圍ヲ廣クシ且懲役及ヒ禁錮ノ兩刑ヲ設ク其中情狀ニ因リ裁判官ヲシテ適宜ノ刑ヲ科セシムルコトト爲シタリ

第二百二十六條ハ現行法第二百八十條及ヒ第二百八十二條ヲ合シ少シク之ヲ修正シタルモノニシテ第二百八十條中飲食衣服ヲ屏去シ等ノ例示的文句ヲ削リ第二百八十二條中罪狀ヲ陳述セシムル爲メノ文句モ亦必要ナキヲ以テ之ヲ刪除シ汎ク裁判檢察警察ノ職ヲ行ヒ若クハ之ヲ補助スル者又ハ囚人監置人留置人懲治人ノ看守者若クハ護送者カ刑事被告人囚人監置人留置人又ハ懲治人ニ對シ暴行又ハ陵虐ノ行爲ヲ爲シタル場合ヲ規定シタルモノナリ

第二百二十七條ハ現行法第二百八十條第二項及ヒ第二百八十二條第二項ト同一趣旨ノ規定ナリ

第二百二十八條ハ現行法第二百八十一條ト同一ノ趣旨ニシテ現行法ハ只官吏囚人ニ對スル場合ノミヲ規定スルヲ以テ本案ハ之ヲ擴張シ非常ノ事變ニ際シ刑事被告人囚人監置人留置人又ハ懲治人ノ看守者若クハ護送ノ職ニ在ル者避難ニ必要ナル行爲ヲ爲サズ因テ人ヲ死傷ニ致シタル場合ノ規定ヲ設クタルナリ第二百二十九條ハ現行法第二百八十四條ノ趣旨ヲ擴張シタル規定ニシテ現行法ハ只官吏收賄ノ場合ノミヲ舉クルヲ以テ修正案ハ改メテ廣ク公務員又ハ仲

裁人ニ關スル規定ト爲シ又現行法ニハ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シトアルモ其文字ノ妥當ナラサルヲ以テ又ハ之ヲ約束シト改メテ汎ク總テノ場合ヲ包含セシメタリ又現行法ハ賄賂ヲ收受シ因テ不正ノ處分ヲ爲シタルトキハ刑一等等ヲ加フルコトヲ規定スレトモ本案ハ改メテ第二項ニ於テ別ニ刑ヲ設ケタリ又本案第三項ハ現行法第二百八十八條ト類似シタル規定ニシテ既ニ收受シタル賄賂ノ全部又ハ一部ハ之ヲ沒收スルモ若シ沒收シ得サルトキハ其價格ヲ追徵シ以テ犯人ヲシテ不法ノ利得ヲ爲ササラシムルコトヲ目的ト爲シタリ

第二百三十條ハ新ニ設ケタル規定ニシテ現行法ハ賄賂ヲ贈與、提供又ハ約束シタル者ヲ處罰スル規定ナキカ爲メ公務員又ハ仲裁人ノ收賄ヲ防遏スルコト極メテ困難ナリ是ヲ以テ修正案ハ本條ニ於テ更ニ此等賄賂ヲ贈與、提供又ハ約束シタル者ヲモ處罰スル規定ヲ設ケ以テ努メテ收賄ノ弊ヲ矯正セシムルコトヲ計レ

第二項ハ自首又ハ自白ニ減輕若クハ免除ノ特典ヲ與ヘ以テ賄賂收受ノ弊ヲ減セシムル欲スル規定ナリ

第二百三十一條ハ現行法第二百八十七條ノ趣旨ヲ擴張シタルモノニシテ現行法ハ裁判官、檢察官ニ關スル規定ナリト雖モ修正案ハ之ヲ改メ廣ク公務員

又ハ仲裁人カ情ニ徇ヒ又ハ怨ヲ挾サミ其職務ニ關シ不正ノ行爲ヲ爲シ若クハ相當ノ行爲ヲ爲ササル場合ノ規定ヲ設ケタルモノナリ

第二百三十二條ハ新ニ設ケタル所ナリ公務員又ハ仲裁人ハ其職務ニ關シテ祕事ヲ知ル場合多ク從テ之カ漏泄ヲ防遏スルコト必要ナリ然ルニ現行法ニハ其規定ヲ缺キタルカ爲メ實際上往々ニシテ不都合ヲ感スルヲ以テ本條ニ於テ此等ノ者カ自己又ハ他人ノ利益ノ爲メ其職務上ノ祕事ヲ漏泄シタルトキノ規定ヲ設ケ以テ職務上ノ祕密ヲ保護セント爲シタルナリ

第二百三十三條ハ附加刑ニ關スル規定ニシテ本章ノ罪ノ性質上剝奪公權ヲ附加ス可キ必要アリト認メタルナリ

第十一章 生命及ヒ身體ニ對スル罪

(理由) 本章ノ規定ハ現行法第三編第一章中其第一節、第二節、第四節、第五節、第八節及ヒ第九節ヲ合シタルモノニシテ現行法ハ身體ニ對スル罪トシテ以上ノ外尙ホ數節ノ規定ヲ設クト雖モ其第三節ノ一部ハ之ヲ總則ニ於テ規定シ一部ハ必要ナキヲ以テ之ヲ刪除シ第六節、第七節及ヒ第十節ハ別ニ自由ニ對スル罪トシテ第十二章ニ規定シ第十一節ハ風俗ヲ害スル罪トシテ之ヲ第九章中ニ移シ

第十二節中誣告罪ハ信用ヲ害スル罪トシテ之ヲ第八章第六節ニ規定シ誹毀罪ハ別ニ名譽ニ對スル罪トシテ第十三章ニ規定シ第十三節ハ其必要アル場合ハ各本條ニ記載スルコトト爲シ其他ハ之ヲ必要ナシト認メ刪除シタリ

第一節 殺人ノ罪

第二百三十四條 人ヲ殺シタル者ハ無期又ハ五年以上ノ懲役ニ處ス

第二百三十五條 人ヲ殺シタル者左ニ記載シタル情狀アルト

キハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

- 一 自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキ
- 二 豫メ謀テ犯シタルトキ
- 三 二人以上ヲ殺シタルトキ
- 四 支解、折割其他慘刻ノ行爲ヲ以テ犯シタルトキ
- 五 重罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ又ハ既ニ犯シテ逮捕ヲ免レ若クハ罪跡ヲ湮滅スル爲メ犯シタルトキ

第二百三十六條 前二條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百三十七條 謀殺ノ目的ヲ以テ其準備ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス但情狀ニ因リ本刑ヲ免除シテ監視ニ付スルコトヲ得

第二百三十八條 人ヲ教唆シテ自殺セシメ又ハ被殺者ノ囑託ヲ受ケ若クハ其承諾ヲ得テ之ヲ殺シタル者ハ七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第二百三十九條 本節ノ罪ヲ犯シタル者ニハ公權剝奪ヲ附加スルコトヲ得

本節ノ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キ者ニハ監視ヲ附加スルコトヲ得

(理由) 本節ノ規定ハ現行法第三編第一章第一節及ヒ第五節ヲ合シ之ニ修正ヲ加ヘタルモノナリ

本節修正ノ主要ナル點ヲ擧クレハ

- 一 現行法第二百九十三條ハ毒殺罪ヲ以テ常ニ謀殺ト爲スト雖モ是レ一ノ情狀ニ關スル場合ナルヲ以テ本案ハ之ヲ裁判所ノ認定ニ任シ本條ヲ刪除セリ
- 二 現行法第二百九十八條ハ誤殺ノ規定ニシテ學說上當然ノ法理タルヲ以テ

敢テ之ヲ規定スルノ必要ナキノミナラス之カ爲メ却テ疑義ノ基因トナルノ虞アルヲ以テ修正案ハ之ヲ刪除シタリ

三 現行法第二百九十七條モ亦規定ヲ要セスシテ明ナルモノナルヲ以テ前二號ト同シク之ヲ刪除シタリ

左ニ各本條修正ノ理由ヲ説明セシ

第二百三十四條ハ現行法第二百九十四條ト同シク故殺ニ關スル規定ニシテ刑ノ範圍ヲ廣クシタルノ外全く同一ナリ

第二百三十五條ハ現行法第三百六十二條第一項、第二百九十二條、第二百九十五條及ヒ第二百九十六條ヲ合シ之ヲ補修シタルモノニシテ刑ノ範圍ハ前條ト同シク之ヲ擴張セリ

第一號ハ現行法第三百六十二條第一項ト同一趣旨ノ規定ナレトモ文字ヲ修正シタル外更ニ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタル場合ニモ之ヲ適用スルハ我國ノ家族制度ニ於テ特別ナル事由ノ存スレハナリ

第二號ハ現行法第二百九十二條ニ同シク謀殺ニ關スル規定ナリ

第三號ハ新ニ設ケタル處ニシテ二人以上ヲ殺シタル場合ハ其犯狀特ニ重キヲ以テ前條ヨリ除外シ本條ニ加ヘタルナリ

第四號ハ現行法第二百九十五條ト全く同一ナリ

第五號ハ現行法第二百九十六條ト趣旨ヲ同フスレトモ文字ヲ改メテ明了ニセリ

第二百三十六條ハ未遂犯ノ規定ニシテ現行法ト全く同一趣旨ニ基ク規定トス
第二百三十七條ハ新ニ設ケタル規定ニシテ謀殺ノ如キ情狀ノ重キ罪ニ對シテハ營ニ其未遂ヲ罰スルノミナラス尙其準備行為ヲ處罰シ以テ危害ヲ未然ニ防止スルノ必要アリ是レ未タ着手ニ至ラスト雖モ社會ノ狀態ヲシテ危險ナラシムルコト普通ノ犯罪ニ異ナラサレハナリ然レトモ往々ニシテ其情狀輕キモノアルカ故ニ本刑ヲ免シテ監視ニ付スルコトヲ得セシメ以テ實際ニ適切ナラシメタリ

第二百三十八條ハ現行法第三百二十條及ヒ第三百二十一條ヲ合シ少シク之ヲ補正シタルモノニシテ即チ現行法ハ自己ノ利益ノ爲メニスルト否トヲ分ツト雖モ其必要ナキヲ以テ此區別ヲ廢シ且被殺者ノ承諾ヲ得テ之ヲ殺シタル場合ヲ規定シ以テ疑義ヲ避ケタリ

第二百三十九條ハ附加刑ノ規定ニシテ本節ノ罪ハ人ノ生命ニ關スル重大ナルモノナルヲ以テ之ニ公權剝奪又ハ監視ヲ附加スル必要ヲ認メタルナリ

第二節 傷害ノ罪

第二百四十條 人ノ身體ヲ傷害シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮若クハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

婦女ノ頭髮ヲ切斷又ハ毀損シタル者亦同シ

第二百四十一條 身體傷害ニ因リ左ノ結果ヲ生セシメタルト

キハ十年以下ノ懲役ニ處ス

一 一目又ハ兩目ノ視能ノ喪失

二 一耳又ハ兩耳ノ聽能ノ喪失

三 語能ノ喪失

四 一肢以上ノ使用ノ不能

五 陰陽ノ不能

六 重大ニシテ不治ナル精神、身體ノ疾病又ハ外觀ノ不具

七 流産

第二百四十二條 身體傷害ニ因リ人ヲ死ニ致シタル者ハ三年以上ノ有期懲役ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ無期又ハ五年以上ノ懲役ニ處ス

第二百四十三條 前三條ノ犯罪アルニ當リ現場ニ於テ勢ヲ助ケタル者ハ自ラ人ヲ傷害セスト雖モ一年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百四十四條 二人以上ニテ暴行ヲ加ヘ人ヲ傷害シタル場合ニ於テ其傷害ヲ生セシメタル者又ハ傷害ノ輕重ヲ知ルコト能ハサルトキハ共同者ニ非スト雖モ共犯ノ例ニ依ル

第二百四十五條 暴行ヲ加フト雖モ人ヲ傷害スルニ至ラサル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

本條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス
(理山) 本節ハ現行法第三編第一章第二節殴打創傷ノ規定ニ修正ヲ加ヘタルモノナリ

本節修正ノ主要ナル點ヲ舉クレハ

一 現行法ハ本節ノ規定ヲ殴打創傷ノ罪ト名ツクト雖モ其語ノ穩當ヲ缺キ之ヲ爲メニ甚シク不便ヲ感スルハ既ニ明ナル事實ナルヲ以テ本案ハ改メテ傷

害ノ罪ト名ツケ汎ク身體傷害ニ關スル規定タルコトヲ明ニセリ此ヲ以テ毆打セス又ハ外部ニ創痕ヲ生セスシテ傷害ヲ生シタル場合ノ如キモ皆之ヲ包含シ悉ク從來ノ疑義ヲ避クルコトヲ務メタリ

二 現行法ハ傷害罪ニ豫謀ニ出ルモノト否ラサルモノトヲ分ツト雖モ其必要ナキヲ以テ本案ハ此區別ヲ廢シタリ

三 第三百二條、第三百三條、第三百七條及ヒ第三百八條ハ共ニ豫謀ト否ラサルモノトノ區別ヲ廢シタルヲ以テ其情狀ハ一ニ之ヲ裁判所ノ認定ニ任シ之ヲ刪除シタリ

四 第三百四條ハ誤殺ノ規定ト同シク其必要ナキヲ以テ之ヲ刪除シタリ左ニ各本條修正ノ理由ヲ説明セシ

第二百四十條ハ現行法第三百一條ニ修正ヲ加ヘタルモノナリ現行法第三百一條ハ身體傷害ノ場合ヲ三段ニ區別シ其疾病休業ノ程度ニ因リ刑ノ輕重ヲ分ツト雖モ此ノ如キ細密ナル區分ハ徒ラニ裁判上ノ不都合ヲ生スルノミナラス實際上疾病休業ノ日數ヲ豫定シテ創傷ノ輕重ヲ分ツ如キハ其正確ヲ期スルコト極メテ困難ナルヲ以テ修正案ハ全ク此等ノ區分ヲ廢除シ概括的ニ刑ノ種類及ヒ範圍ヲ設ケ裁判所ヲシテ充分事情ヲ斟酌シ自由ニ適宜ノ刑ヲ科セシムルコ

トト爲シタリ又人ノ毛髮ヲ切斷スル如キハ本條ノ傷害罪ニ入ル可キモノニ非スト雖モ婦女ノ頭髮ハ特ニ之ヲ保護スル必要アルヲ以テ新ニ本條第二項ヲ設ケタリ

第二百四十一條ハ現行法第三百條ニ修正ヲ加ヘタル規定ニシテ現行法ハ第三百條第一項及ヒ第二項ニ於テ各場合ヲ分チ刑ヲ異ニスト雖モ本案ハ前條ト同一理由ニ基キ之カ區別ヲ廢シ刑ノ範圍ヲ廣クセリ本條第一號乃至第六號ハ現行法ト同一ノ場合ヲ規定シ唯文字ニ修正ヲ加ヘタルモノナリ第七號ハ現行法第三百三十四條前段懷胎ノ婦女ナルコトヲ知り之ヲ傷害シテ流産ノ結果ヲ生セシメタル場合ト之ニ新ニ懷胎ノ婦女ナルコトヲ知ラストモ之ヲ傷害シテ流産セシメタル場合トヲ合シタルモノナリ

第二百四十二條第一項ハ現行法第二百九十九條ト同一趣旨ノ規定ニシテ現行法ハ前數條ノ場合ト同シク刑ノ範圍狹キニ失スルヲ以テ本案ハ之ヲ廣クセリ第二項ハ現行法第三百六十三條末文ト同一ノ場合ノ規定ニシテ現行法ハ之ニ死刑ヲ科スト雖モ本罪ハ元來殺人ノ罪ト異ナリ始メヨリ殺意アリタルニ非サルヲ以テ本案ハ其刑ヲ輕クセリ又配偶者ノ直系尊屬ニ關シテハ第二百三十五條第一號ノ下ニ述ヘタルト同一ノ理由ニ基クモノナリ

第二百四十三條ハ現行法第三百六條ヲ修正シタル規定ニシテ身體傷害ノ罪ヲ犯ス者アルニ當リ其現場ニテ單ニ勢ヲ助ケタル者ニ關スル規定ナリ
第二百四十四條ハ現行法第三百五條ト同一ノ場合ニ關スル規定ニシテ現行法ハ共謀ノ有無ヲ問ハズ現ニ手ヲ下シタル傷害ニ付キ各自ニ責任ヲ負ハシムルヲ原則トシ若シ傷害ノ何人ノ手ニ成ルヤヲ知ラサルトキハ各自ヲ其重傷ノ刑ニ照シ一等ヲ減シテ處斷スルコトト爲シ教唆者ヲ其例外ト爲シタリ修正案ハ現行法第三百五條ノ前半ノ場合ニ付キテハ若シ犯人共犯者ナルトキハ總則ノ共犯例ニ依リ共犯者ニ非サルトキハ各々其自ラ成シタル傷害ノ正犯トシテ之ヲ處分スルコトト爲シ從テ其規定ヲ要セサルヲ以テ之ヲ刪除シ後半ノ場合ニ付キテハ少シク修正ヲ加ヘ暴行ヲ加ヘ人ヲ傷害シタル場合ニ於テ其傷害ヲ生セシメタル者又ハ傷害ノ輕重ヲ知ルコト能ハサルトキハ共犯者ニ非スト雖モ共犯例ヲ適用シ各自ヲ最モ重キ傷害ノ正犯トシテ處分スルコトト爲シタルナリ抑現行法ハ何人ノ成シタル傷害ナルカヲ知ラサル場合ナルヲ以テ眞ニ其傷害ヲ成ササル者ニ對スル刑ノ過重ヲ避クルカ爲メ一等ヲ減スルモノニシテ罪ノ疑ハシキハ寬ニ從フノ趣意ナラント雖モ是レ稍不理ナル規定ニシテ犯罪ノ事實ニ對シ刑罰ノ權衡ヲ失スルノ嫌ナキ能ハス故ニ本案ハ此主義ヲ改メ共犯

例ニ依リ處分スルコトト爲シタルナリ

第二百四十五條第一項ハ現行法第四百二十五條第九號ト同一ノ趣旨ニシテ第二項ハ本條ノ罪ハ實際上之ヲ親告罪ト爲スノ利益ヲ認メタルニ因ル

第三節 過失傷害ノ罪

第二百四十六條 過失ニ因テ人ヲ傷害シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第二百四十七條 過失ニ因テ人ヲ死ニ致シタルモノハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百四十八條 業務上必要ナル注意ヲ怠リ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
(理由) 本節ハ現行法第三編第一章第四節過失殺傷ノ罪ノ規定ニ修正ヲ加ヘタルモノナリ

本節修正ノ主要ナル點ヲ擧クレハ

一 現行法ハ本節ノ罪ヲ過失殺傷ト名ツクト雖モ其語穩當ヲ缺クカ故ニ之ヲ